2026年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
300番台
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2026/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6001】 第三外国語としての朝鮮語Ａ［梁　禮先］春学期授業/Spring …… 1
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6002】 第三外国語としての朝鮮語Ｂ［梁　禮先］秋学期授業/Fall …… 2
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6005】 第三外国語としての朝鮮語Ａ［髙柳　俊男］春学期授業/Spring …… 3
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6006】 第三外国語としての朝鮮語Ｂ［髙柳　俊男］秋学期授業/Fall …… 4
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6101】 漢字･漢文学Ａ［加納　留美子］ 春学期授業/Spring …… 5
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6102】 漢字･漢文学Ｂ［加納　留美子］ 秋学期授業/Fall …… 6
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6103】 教養ゼミⅠ ［藤村　耕治］ 春学期授業/Spring …… 7
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6104】 教養ゼミⅡ［藤村　耕治］ 秋学期授業/Fall 9
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6105】 文芸創作講座Ａ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 春学期授業/Spring …… 10
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6106】 文芸創作講座Ｂ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 秋学期授業/Fall …… 11
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6107】 日本芸能論Ａ［阿部　真弓］ 春学期授業/Spring …… 12
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6108】 日本芸能論Ｂ［阿部　真弓］ 秋学期授業/Fall …… 14
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6109】 身体表現論Ａ［深谷　公宣］ 春学期授業/Spring …… 16
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6110】 身体表現論Ｂ［深谷　公宣］ 秋学期授業/Fall …… 17
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6111】 美術論Ａ［稲垣　立男］ 春学期授業/Spring 18
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6112】 美術論Ｂ［稲垣　立男］ 秋学期授業/Fall 21
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6113】 芸術と人間Ａ［岡村　民夫］ 春学期授業/Spring …… 23
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6114】 芸術と人間Ｂ［岡村　民夫］ 秋学期授業/Fall …… 24
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6115】 仏教思想論Ａ［計良　隆世］ 春学期授業/Spring …… 25
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6116】 仏教思想論Ｂ［計良　隆世］ 秋学期授業/Fall …… 27
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6121】 中国の民族と文化Ａ［齋藤　勝］ 春学期授業/Spring …… 29
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6122】 中国の民族と文化Ｂ［齋藤　勝］ 秋学期授業/Fall …… 30
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6125】 古代日本･中国の法と社会Ａ［岡野　浩二］春学期授業/Spring …… 31

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6126】 古代日本･中国の法と社会Ｂ［岡野　浩二］秋学期授業/Fall 32
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ［新崎　盛吾］ 春学期授業/Spring 33
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ［水谷　明子］ 秋学期授業/Fall 35
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】 教養ゼミⅠ ［神谷　丹路］ 春学期授業/Spring 36
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】 教養ゼミⅡ ［神谷　丹路］ 秋学期授業/Fall 37
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】 クィア・スタディーズＡ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 春学期授業/Spring 38
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6132】 クィア・スタディーズＢ［ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ］ 秋学期授業/Fall 40
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6133】 キリスト教思想史Ａ［鵜澤　和彦］ 春学期授業/Spring 41
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6134】 キリスト教思想史Ｂ［鵜澤　和彦］ 秋学期授業/Fall 43
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6137】 異文化コミュニケーション論Ａ［鈴木　麻由］ 春学期授業/Spring 45
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】 異文化コミュニケーション論Ｂ［鈴木　麻由］ 秋学期授業/Fall 47
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6141】 教養ゼミⅠ ［矢澤　美佐紀］ 春学期授業/Spring 49
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6142】 教養ゼミⅡ ［矢澤　美佐紀］ 秋学期授業/Fall 50
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6147】 徳と倫理Ａ［内山　真莉子］ 春学期授業/Spring 51
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6148】 徳と倫理Ｂ［内山　真莉子］ 秋学期授業/Fall 52
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6149】人間存在論Ａ［森村　修］春学期授業/Spring 53
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6150】 人間存在論Ｂ［森村　修］ 秋学期授業/Fall 55
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6204】 教養ゼミⅡ ［木村　正俊］ 秋学期授業/Fall 57
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6207】福祉社会論Ａ［小峯　敦］春学期授業/Spring 59
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6208】 福祉社会論Ｂ［服部　あさこ］ 春学期授業/Spring 61
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6209】 人文地理学セミナーＡ［増淵　敏之］ 春学期授業/Spring 62
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6210】 人文地理学セミナーＢ［増淵　敏之］ 秋学期授業/Fall 64
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6211】 文化人類学方法論Ａ［菊池　真理］ 春学期授業/Spring 66
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6212】 文化人類学方法論Ｂ［菊池　真理］ 秋学期授業/Fall 68
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ ［犬塚　元］春学期授業/Spring 70
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6214】 教養ゼミⅡ ［犬塚　元］ 秋学期授業/Fall 71
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6215】 人間行動学Ａ［田中　慎太郎］ 春学期授業/Spring 72
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6216】 人間行動学Ｂ［田中　慎太郎］ 秋学期授業/Fall 73
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6219】 沖縄を考えるＡ［中野　勝郎、大里　知子］春学期授業/Spring 74
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6220】 沖縄を考えるＢ［中野　勝郎、大里　知子］秋学期授業/Fall 75
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6225】 ヨーロッパ政治経済論Ａ［千葉　千尋］ 春学期授業/Spring 76
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6226】 ヨーロッパ政治経済論Ｂ［千葉　千尋］ 秋学期授業/Fall 77

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6227】法の人間学A［内藤　淳］春学期授業/Spring 79
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6228】法の人間学B［内藤　淳］秋学期授業/Fall 81
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 83
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall 84
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6307】確率の世界A［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 85
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6308】確率の世界B［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall 86
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6309】集合論A［安東　祐希］春学期授業/Spring 87
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6310】集合論B［安東　祐希］秋学期授業/Fall 88
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙A［石川　壮一］春学期授業/Spring 89
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6312】相対性理論と宇宙B［石川　壮一］秋学期授業/Fall 90
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6313】現代の錬金術A［井坂　政裕］春学期授業/Spring 91
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術B［井坂　政裕］秋学期授業/Fall 92
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子A［吉田　智］春学期授業/Spring 93
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子B［吉田　智］秋学期授業/Fall 94
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ［島野　智之］春学期授業/Spring 95
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ［島野　智之］オータムセッション/Autumn Session 97
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学A［向井　知大］春学期授業/Spring 99
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学B［向井　知大］秋学期授業/Fall 100
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6329】ＩＴリテラシー［髙田　美樹］春学期授業/Spring 101
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学［髙田　美樹］秋学期授業/Fall 102
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境［宇野　真介］春学期授業/Spring 103
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment［宇野　真介］秋学期授業/Fall 105
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6337】ボルボックス生物論A［植木　紀子］春学期授業/Spring 107
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6338】ボルボックス生物論B［植木　紀子］秋学期授業/Fall 109
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6341】バイオイメージングの世界A［木原　章］春学期授業/Spring 111
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6342】バイオイメージングの世界B［木原　章］秋学期授業/Fall 112
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6343】環境の科学A［田中　雅人］春学期授業/Spring 113
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6344】環境の科学B［田中　雅人］秋学期授業/Fall 114
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6403】Issues in Modern Japanese Society A［ＡＳＳＥＧＡＲＤ　ＪＡＭＥＳ］春学期授業/Spring 115
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6404】Issues in Modern Japanese Society B［ＡＳＳＥＧＡＲＤ　ＪＡＭＥＳ］秋学期授業/Fall 116

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A［林　志津江］ 春学期授業/Spring 118
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B［林　志津江］ 秋学期授業/Fall 120
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A［Annette Gruber］ 春学期授業/Spring 122
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B［Annette Gruber］ 秋学期授業/Fall 123
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6425】 教養ゼミⅠ ［上田　知夫］ 春学期授業/Spring 124
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6427】 ドイツの思想A［大久保　歩］ 春学期授業/Spring 125
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6428】 ドイツの思想B［大久保　歩］ 秋学期授業/Fall 126
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A［丸山　達也］ 春学期授業/Spring 127
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B［丸山　達也］ 秋学期授業/Fall 128
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】 比較文化A［D.　ハイデンライヒ］ 春学期授業/Spring 129
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6432】 比較文化B［D.　ハイデンライヒ］ 秋学期授業/Fall 130
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6433】 ドイツ語圏の芸術A［林　志津江］ 春学期授業/Spring 132
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6434】 ドイツ語圏の芸術B［林　志津江］ 秋学期授業/Fall 134
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6437】 ドイツ語圏の公共哲学A［吉田　敬介］ 春学期授業/Spring 136
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6438】 ドイツ語圏の公共哲学B［吉田　敬介］ 秋学期授業/Fall 137
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6439】 ドイツ語圏の歴史A［辻　英史］ 春学期授業/Spring 138
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6440】 ドイツ語圏の歴史B［辻　英史］ 秋学期授業/Fall 140
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6441】 ドイツ語講読A［吉田　敬介］ 春学期授業/Spring 142
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6442】 ドイツ語講読B［吉田　敬介］ 秋学期授業/Fall 144
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6501】 スポーツ科学A［西村　一帆］ 春学期授業/Spring 146
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6502】 スポーツ科学B［西村　一帆］ 秋学期授業/Fall 148
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6505】 スポーツ科学A［佐藤　優希］ 春学期授業/Spring 150
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6506】 スポーツ科学B［佐藤　優希］ 秋学期授業/Fall 152
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6507】 スポーツ科学A［魚住　智広］ 春学期授業/Spring 154
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6508】 スポーツ科学B［魚住　智広］ 秋学期授業/Fall 156
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6509】 スポーツ科学A［朝比奈　茂］ 春学期授業/Spring 158
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6510】 スポーツ科学B［朝比奈　茂］ 秋学期授業/Fall 160
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6511】 スポーツ科学A［佐藤　優希］ 春学期授業/Spring 162

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6512】 スポーツ科学Ｂ［佐藤　優希］ 秋学期授業/Fall 164
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6513】 スポーツ科学Ａ［吉田　康伸］ 春学期授業/Spring 166
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6514】 スポーツ科学Ｂ［吉田　康伸］ 秋学期授業/Fall 167
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6517】 スポーツ科学Ａ［中澤　史］ 春学期授業/Spring 168
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6518】 スポーツ科学Ｂ［中澤　史］ 秋学期授業/Fall 170
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6519】 スポーツ科学Ａ［魚住　智広］ 春学期授業/Spring 172
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6520】 スポーツ科学Ｂ［魚住　智広］ 秋学期授業/Fall 174
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6525】 スポーツ科学Ａ［伊藤　マモル］ 春学期授業/Spring 176
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6526】 スポーツ科学Ｂ［伊藤　マモル］ 秋学期授業/Fall 178
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6527】 教養ゼミⅠ［伊藤　マモル］ オータムセッション/Autumn Session 180
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6528】 教養ゼミⅡ［伊藤　マモル］ スプリングセッション/Spring Session 183
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6529】 スポーツ科学Ａ［西村　一帆］ 春学期授業/Spring 186
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6530】 スポーツ科学Ｂ［西村　一帆］ 秋学期授業/Fall 188
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6534】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化Ａ［林　容市］ 春学期授業/Spring 190
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6535】 エビデンスから学ぶ健康と身体の変化Ｂ［林　容市］ 秋学期授業/Fall 192
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6536】 データから考えるスポーツ政策Ａ［藤岡　成美］ 春学期授業/Spring 194
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6537】 データから考えるスポーツ政策Ｂ［藤岡　成美］ 秋学期授業/Fall 196
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6540】 教養ゼミⅡ［朝比奈　茂］ 秋学期授業/Fall 198
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6601】 第三外国語としてのフランス語Ａ［江澤　健一郎］ 春学期授業/Spring 200
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6602】 第三外国語としてのフランス語Ｂ［江澤　健一郎］ 秋学期授業/Fall 201
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】 教養ゼミⅠ［大中　一彌］ サマーセッション/Summer Session 202
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】 教養ゼミⅡ［大中　一彌］ オータムセッション/Autumn Session 204
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】 教養ゼミⅠ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 206
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】 教養ゼミⅡ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 208
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中･上級)Ａ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 春学期授業/Spring 210
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中･上級)Ｂ［ル　ルー　清野　ブレンダン］ 秋学期授業/Fall 212
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6613】 フランス語講読Ａ［大池　惣太郎］ 春学期授業/Spring 214
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6614】 フランス語講読Ｂ［大池　惣太郎］ 秋学期授業/Fall 215
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6617】 フランス語外部試験講座Ａ［カレンス　フィリップ］ 春学期授業/Spring 216

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6618】フランス語外部試験講座Ｂ［カレンス　フィリップ］ サマーセッション/Summer Session 218
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6701】 第三外国語としてのロシア語Ａ［佐藤　裕子］ 春学期授業/Spring 220
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6702】 第三外国語としてのロシア語Ｂ［佐藤　裕子］ 秋学期授業/Fall 221
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6703】第三外国語としてのロシア語中級Ａ［エレーナ　三神］ 春学期授業/Spring 222
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6704】第三外国語としてのロシア語中級Ｂ［エレーナ　三神］ 秋学期授業/Fall 223
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6705】 実用ロシア語Ａ［エレーナ　三神］ 春学期授業/Spring 224
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6706】 実用ロシア語Ｂ［エレーナ　三神］ 秋学期授業/Fall 225
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6707】 ロシア語講読Ａ［木部　敬］ 春学期授業/Spring 226
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6708】 ロシア語講読Ｂ［木部　敬］ 秋学期授業/Fall 227
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】 時事ロシア語Ａ［小澤　裕之］ 春学期授業/Spring 228
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】 時事ロシア語Ｂ［小澤　裕之］ 秋学期授業/Fall 229
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】 第三外国語としての中国語Ａ［渋井　君也］ 春学期授業/Spring 230
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】 第三外国語としての中国語Ｂ［渋井　君也］ 秋学期授業/Fall 231
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6803】 第三外国語としての中国語中級Ａ［木村佳代子］ 春学期授業/Spring 232
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6804】 第三外国語としての中国語中級Ｂ［木村佳代子］ 秋学期授業/Fall 233
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】 中国語視聴覚中級Ａ［劉　渇氷］ 春学期授業/Spring 234
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】 中国語視聴覚中級Ｂ［劉　渇氷］ 秋学期授業/Fall 235
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6807】 中国語作文中級Ａ［楊　心苗］ 春学期授業/Spring 236
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6808】 中国語作文中級Ｂ［楊　心苗］ 秋学期授業/Fall 237
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】 中国語コミュニケーション中級Ａ［周　重雷］ 春学期授業/Spring 238
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】 中国語コミュニケーション中級Ｂ［周　重雷］ 秋学期授業/Fall 239
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】 中国語翻訳･通訳Ｃ［王　安］ 春学期授業/Spring 240
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】 中国語翻訳･通訳Ｄ［王　安］ 秋学期授業/Fall 241
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読Ａ［任　麗潔］春学期授業/Spring 242
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6816】 中国語講読Ｂ［任　麗潔］ 秋学期授業/Fall 243
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】 資格中国語中級Ａ［渡辺　昭太］ 春学期授業/Spring 244
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】 資格中国語中級Ｂ［渡辺　昭太］ 秋学期授業/Fall 246
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】 資格中国語上級Ａ［任　麗潔］ 春学期授業/Spring 248
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】 資格中国語上級Ｂ［任　麗潔］ 秋学期授業/Fall 249

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】 第三外国語としてのスペイン語A［CARMEN GARCIA］ 春学期授業/Spring 250
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】 第三外国語としてのスペイン語B［CARMEN GARCIA］ 秋学期授業/Fall 251
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】 スペイン語上級A［大西 亮］ 春学期授業/Spring 252
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】 スペイン語上級B［大西 亮］ 秋学期授業/Fall 253
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】 スペイン語コミュニケーション中級A［OSNO I DE SASAKUBO H］ 春学期授業/Spring 254
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】 スペイン語コミュニケーション中級B［OSNO I DE SASAKUBO H］ 秋学期授業/Fall 255
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】 教養ゼミI ［久木 正雄］ 春学期授業/Spring 257
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】 教養ゼミII ［久木 正雄］ 秋学期授業/Fall 258
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】 スペイン語講読A［若林 大我］ 春学期授業/Spring 259
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】 スペイン語講読B［若林 大我］ 秋学期授業/Fall 260

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語Ａ　2017年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めて朝鮮語・韓国語を学ぶクラスです.朝鮮語の仕組みからハングルの文字を一つずつ学びながら、発音を丁寧に学習します。書き方も基本から一つずつ学びます。

【到達目標】
ハングル文字を正しく読み・書きを学ぶのがねらいです。
朝鮮語・韓国語が正しく読める、書けることが可能であることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
定員制授業です。第1回目の授業で出席者だけで抽選します。連絡はHoppiiにて行います。
毎回、小テストを実施します。
テキストに沿って進めます。第10課からは、本文を全員に読んでもらいます。
初めての朝鮮語・韓国語ですので、誰にでもわかりやすく覚えられるように、ゆっくり進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
	第１課　基本母音	基本母音を学ぶ
2	第２課　基本子音	基本子音を学ぶ
3	第３課 激音	激音を学ぶ
4	第4課　濃音	濃音を学ぶ
5	第5課　合成母音字	合成母音字を学ぶ
6	第6・7課　終声	終声を学ぶ
7	第8課　日本語のハングル表記と辞書の引き方	日本語のハングル表記と辞書の引き方を学ぶ
8	第9課 知っておきたい教室用語	知っておきたい教室用語を学ぶ
9	第10課　初めまして	本文、文法解説、練習問題
10	第11課　今日授業がありますか	本文、文法解説、練習問題
11	第12課　今日は9月25日です	本文、文法解説、練習問題
12	第13課 図書館はどこですか	本文、文法解説
13	第13課　図書館はどこですか	練習問題
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習・復習をしましょう。
毎回小テストがあるので、0点にならないように、音を出しながら覚えてください。
文法解説と練習問題は、事前にやっておいてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『やさしい韓国語初級』(梁禮先、権点淑、曽恩美　著)朝日出版社,2018年,2300円＋税

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】
　平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
音読をすること。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください.

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course is an elementary Korean course.
< Learning Objectives>
In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Term-end examination ： 70 %,little exams　and in class contribution: 30%.

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語Ｂ　2017年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「第三外国語としての朝鮮語A」を修了したレベルの人対象の講座です.ハングルの読み書きの基礎を理解し、読み書きができる人が対象です。
「第三外国語としての朝鮮語B」では、読み書きの定着を図りながら、簡単な会話の練習も進めていきます。

【到達目標】
発音に気を付けながら、スムーズに読めることを目標にします。また、簡単な会話ができるようになることもこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進めます。本文を全員に読んでもらいます。
文法解説と練習問題は、事前にやって来てください。
発音の練習にも力を入れます。
毎回、授業前の小テストがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期の進め方と復習 第14課：家族は何人ですか？	秋学期の進め方と春学期の簡単な復習。 本文と文法解説
2	第14課：家族は何人ですか？	練習問題
3	第15課：どこへ行きますか？	本文と文法解説
4	第15課：どこへ行きますか？	練習問題
5	第16課：友だちと会います	本文と文法解説
6	第16課：友だちと会います	練習問題
7	第17課：今何時ですか？	本文と文法解説
8	第17課：今何時ですか？	練習問題
9	第18課：かなり待ちましたか?	本文と文法解説
10	第18課：かなり待ちましたか?	練習問題
11	第19課：私はK-POPが好きです	本文と文法解説
12	第19課：私はK-POPが好きです	練習問題
13	第20課：韓国語で質問	会話練習
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習・復習をしましょう。
本文の音読を毎日やりましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『やさしい韓国語初級』梁禮先、権点淑、曽恩美著,朝日出版社,2018年,2300円＋税

【参考書】
小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト・課題など30%、期末試験70%。60点以上が合格点です。
※成績に関わらず30%以上の欠席の場合は不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
音読を毎日欠かさずやってください。韓国について何か一つは興味を持ちましょう。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることがあります。やむを得ない事情以外での欠席を避けてください.

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 13 of the text book.
< Learning Objectives>
In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Term-end examination : 70 %,little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語Ａ　2017年度以降入学者

髙柳　俊男

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を初めて学ぶ方のための、週1回の授業です。
ハングルの文字と発音の基礎を学び、そのうえで文法の初歩を身につけます。自己紹介など、ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】
・文字を見たら、正確に発音できる。
・簡単な文の読み書きができる。
・あいさつや自己紹介など、簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
・授業のはじめに前回の復習を行います。
・確認の小テストを随時行います。
・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 朝鮮語・韓国語の呼称の説明 選抜の実施
2	第１課	文字の構造と母音
3	第２課	子音：平音
4	第３課	子音：激音
5	第４課　第５課	単語の発音、子音：濃音
6	第６課	複合母音
7	第７課	パッチム
8	第８課	連音ほか
9	第９課	発音変化、日本語のハングル表記
10	第10課　第11課	辞書の配列 平叙文、疑問文
11	第12課	体現否定文
12	第13課	漢数詞
13	第14課	「～といいます」
14	期末試験	春学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。
また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声をできるだけ聞くよう、努力してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語　改訂版』（白水社）

【参考書】
辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】
小テストなどの平常点30％、期末試験70％。

【学生の意見等からの気づき】
初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】
定員制（30名）です。
受講希望者は、第1回授業時（2026年4月10日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。
この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。
・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
・日本における朝鮮学校の卒業生
・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】
This course covers the fundamentals of Korean characters, pronunciation,and grammar. The goal is to master pronunciation and engage in very simple conversations.
Grades are based on 30% regular participation and 70% final exam.

LANk300LA（朝鮮語 / Korean language education 300）

第三外国語としての朝鮮語Ｂ　2017年度以降入学者

髙柳　俊男

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
隣国の言語である朝鮮語＝韓国語を4月から初めて学び始めた方のための、第三外国語としての週1回の授業です。
春学期に身につけたハングルの発音と初歩の文法の基礎のうえに、もう少し複雑な文法や会話を学びます。

【到達目標】
・発音変化も含めて、ハングルをすべて正確に発音できる。
・やや複雑な文法が理解できる。
・やや高度な挨拶や会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・30人までの定員制授業です。第1回授業（対面）に必ず参加すること。その中から抽選します。選抜結果の連絡はHoppiiにて行いますので、必ず「仮登録」しておいてください。
・授業のはじめに前回の復習を行います。
・確認の小テストを随時行います。
・テキストには簡単にしか書かれていない事項は、補助プリントを配付して補います。
・なお、進度はあくまでも予定です。皆さんの理解度に応じて若干変化することがありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 選抜の実施 春学期の復習
2	第15課	固有数詞、時刻の言い方
3	第16課	一般動詞とそのハムニダ体
4	第17課	各種の助詞
5	第18課	意思の表現
6	語基	語基という概念
7	第19課	尊敬形、年齢の言い方
8	第20課	用言否定
9	第21課	ヘヨ体
10	第22課	「〜してください」
11	第23課	過去形
12	第24課①	連体形
13	第24課②	ハンダ体
14	期末試験	秋学期の学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ある外国語を週1回、100分の授業でマスターすることは、まず無理です。授業以外に、家で復習を欠かさず行うという覚悟を持ってください。
また、外国語学習にとって音は大事です。テキスト付属の音声をできるだけ聞くよう、努力してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高島淑郎『書いて覚える初級朝鮮語　改訂版』（白水社）

【参考書】
辞書などについては、授業内で触れます。

【成績評価の方法と基準】
小テストなどの平常点30％、期末試験70％。

【学生の意見等からの気づき】
初めて担当する授業です。

【その他の重要事項】
定員制（30名）です。
受講希望者は、第1回授業時（2026年9月18日）までに必ずHoppiiで「仮登録」をして、教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者（「仮登録」者）の中から抽選します。
この授業は、あくまでも初歩の方向けの授業です、以下をはじめ、すでに相当の実力がある方は受講できません。
・本学の第二外国語での「朝鮮語」受講者
・日本における朝鮮学校の卒業生
・韓国で小、中、高校課程を修了している人

【Outline (in English)】
This course builds upon the Korean grammar fundamentals covered in the spring semester. The goal is to enable students to understand more complex sentences and conversations.
Grades will be determined by active participation in class (30%) and the final exam (70%).

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字・漢文学Ａ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。
中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第2回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第3回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第4回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第5回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第6回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第7回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第8回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第9回	恋愛作品と文字	・『詩経』と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第10回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第11回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第12回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第13回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩讖」の説
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０%、期末の試験またはレポート６０%。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.
From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easiliy find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.
Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

漢字･漢文学Ｂ

2017年度以降入学者

加納　留美子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。
学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】
１．作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
２．作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
３．特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
４．作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式。配布資料をもとに進行する。
授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。
フィードバックについて、毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第2回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第3回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第4回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第5回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第6回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第7回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第8回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第9回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第10回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第11回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儚い栄達 ・動物への変身
第12回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第13回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】
参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価＞
平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）４０%、期末の試験またはレポート６０%。
＜基準＞
・授業における取り組み（態度・意見）
・指示された課題に対応する能力
・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】
毎回Hoppiiにて、学生からの質問や意見を募る。
共有すべき事柄については、次回授業の冒頭にて適宜解説を加えたい。

【Outline (in English)】
The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.
Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.
In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.
[Learning Objectives]
1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.
[Learning activities outside of classroom]
Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】
小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティヴ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。
講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。
受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。
今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。
また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1週間にもなれば2時間にもなります。

【テキスト（教科書）】
過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】
過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】
作品の提出50％、授業内討議への積極的な参加30％、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20％。

【学生の意見等からの気づき】
高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】
Couse outline
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.
By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".
Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.
Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.
Grading Criteria/Policy
50% submission of the work, 30％　active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

藤村　耕治

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。
特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。
また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】
小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。
他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。
受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デティール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。
講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。
受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。
今セメスターでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品は授業時間外に制作してもらいます。
創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。
また、授業に向けて他の多の受講生の書いた作品を毎回2作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、１週間にもなれば2時間にもなります。
編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】
過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】
過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】
作品の提出35％、授業内討議および編集作業への積極的な参加35％、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品［三作以上］への批評文）30％。

【学生の意見等からの気づき】
高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】
Couse outline/Leaning Objectives
Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.
By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".
Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.
Students also learn to edit their work books.
Learning activities outside of classroom
All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.
Grading Criteria/Policy
35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

文芸創作講座Ａ

2017年度以降入学者

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】
1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
2) 書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第2回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第3回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第4回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第5回	小説の設定（1）	時間の設定について考える。
第6回	小説の設定（2）	舞台設定について考える。
第7回	小説を書く（1）	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く（2）	小説を書きはじめる（2,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第9回	小説を書く（3）	小説を書き続ける（前回に加えて2,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第10回	小説を書く（4）	小説を書き続ける(それまで書いたものと合わせて6,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第11回	小説を書く（5）	小説を書き続ける(それまで書いたものと合わせて7,000字程度)。各グループでフィードバックをし合う。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿（それまで書いたものと合わせて8,000字程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評（1）	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評（2）	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
根本昌夫『実践 小説教室―伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）
キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）
ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）
Febos, Melissa. Body Work: The Radical Power of Personal Narrative. Catapult, 2022.
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014
Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30％）、学期末までに完成させ
た小説（50％）で総合的に評価します。
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】
There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understand the basics of writing fiction.
2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
3) Read literature critically.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (four hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Weekly assignments: 20%
Group work: 30%
Final project: 50%
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes. Students who are more than 15 minutes late will be marked as absent.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

文芸創作講座Ｂ

2017年度以降入学者

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】
1) 文芸作品を分析することができる。
2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第2回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第3回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第4回	時間	物語における時間の設定について考える。
第5回	空間	物語の舞台設定について考える。
第6回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第7回	小説を書く（1）	これまでの授業を踏まえ、自分の小説の構想について考える。
第8回	小説を書く（2）	小説を書きはじめる（1,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第9回	小説を書く（3）	小説を書き続ける（前回に加えて2,000字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第10回	小説を書く（4）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて 5,000 字程度）。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第11回	小説を書く（5）	小説を書き続ける（それまで書いたものと合わせて 7,000 字程度）。各グループでフィードバックをし合う。
第12回	ブラッシュアップ	最終原稿（8,000程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。
第13回	講評（1）	作品をみんなで読み、講評する。
第14回	講評（2）	作品をみんなで読み、講評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テクストを読む、原稿を書き上げるなど、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
根本昌夫『実践 小説教室―伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018年）
キング、スティーヴン『書くことについて』（小学館、2013年）
ロッジ、デイヴィッド『小説の技巧』（白水社、1997年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014
Wood, James. How Fiction Works. Picador, 2009.

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（20%）、グループワークと合評への参加度（30％）、学期末までに完成させ
た小説（50％）で総合的に評価します。
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
なし（昨年度は休講だったため）

【Outline (in English)】
In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Analyze literary works.
b) Understand the basics of writing a novel.
c) Develop multiple perspectives.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to work on their projects. They will also read other students' stories (four hours per session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Weekly assignments: 20%
Group work: 30%
Final project: 50%
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論Ａ

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本の豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
春学期前半は雅楽、能楽について講義をします。現代人は欧米の文化に慣れ親しんでいることもあり、むしろ日本の古典芸能に対してはなんとなく苦手意識があるかもしれませんが、この授業を通して、鑑賞のポイントをつかめば、その面白さやこんにちまでそれらが継承されてきた理由が理解できるようになるかもしれません。
春学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「歌舞伎舞台の変遷」「香道について」「寄席の歴史」「日本における『第九』の受容と定着について」「マグ゛ロの解体ショー」「青森ねふ゛た祭り 芸術を作る」「女性だけで構成される劇団が生む芸能の特性－宝塚歌劇団の独自性と影響力－」「芸能人とインフルエンサーの境界線」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※春学期「日本芸能論Ａ」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。秋学期「日本芸能論Ｂ」も続けて履修し、そちらで発表する予定の人は、春学期「日本芸能論Ａ」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。
秋学期「日本芸能論Ｂ」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、秋学期の受講希望者も、春学期「日本芸能論Ａ」の学習支援システム上で行う連絡を必ず確認してください。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.
The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

日本芸能論Ｂ

2017年度以降入学者

阿部　真弓

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で育まれてきた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。
秋学期前半は人形浄瑠璃、歌舞伎について講義をします。2025年に公開された映画『国宝』を御覧になって、歌舞伎に関心を持った人も多いのではないでしょうか。歌舞伎やそれと大きな関わりを持つ人形浄瑠璃に関する知識を身につけることで、それぞれ作品のみどころや面白さがわかるようになり、深い鑑賞眼を持つことができるようになるでしょう。
秋学期後半は受講生による発表・討論で授業を進めます。発表テーマは、日本の芸能であれば、時代やジャンルは問いません。発表後、受講生による討論を行い、また新たな視点で日本の芸能について見直し、考察を深めていきます。
なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】
①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。
その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループ（3人まで）で、関心を持っている芸能について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。
授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。
〔参考〕これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。
「薪能」「文楽の歴史と現在」「茶道の歴史」「落語の演技」「石見神楽の現在に至るまでの変化」「アイヌ文化と芸能の歴史」「新たな芸能の形としての2.5次元ミュージカル」「書道パフォーマンス～表現形態の変遷～」「日韓アイドルの歴史と現代で求められるアイドル像」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	人形浄瑠璃の成立について
第5回	伝統芸能概説(2)	人形浄瑠璃の様相について
第6回	伝統芸能概説(3)	歌舞伎の成立について
第7回	伝統芸能概説(4)	歌舞伎の様相について
第8回	受講生による発表・討論	グループAの発表
第9回	受講生による発表・討論	グループBの発表
第10回	受講生による発表・討論	グループCの発表
第11回	受講生による発表・討論	グループDの発表
第12回	受講生による発表・討論	グループEの発表
第13回	受講生による発表・討論	グループFの発表
第14回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。発表準備については、数週間を要します。
発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容70％（①②③）またはレポート70％（①②④）※、平常点および討論への参加状況30％（③）という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。
その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。
※秋学期「日本芸能論Ｂ」のみ履修する人は必ず発表してください。発表しない場合、単位を履修することはできません。春学期「日本芸能論Ａ」から続けて履修し、そちらですでに発表した人は、秋学期「日本芸能論Ｂ」については、発表の代わりにレポートにすることができます。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】
当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。
秋学期「日本芸能論Ｂ」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に行いますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論Ａ」の学習支援システム上で行う連絡を確認してください。
なお、秋学期「日本芸能論Ｂ」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論Ａ」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】
This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論Ａ

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式である。その発生・発展の経緯を概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊のテクニックについての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】
・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踏、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ（出張中のため、録画した講義を提供する予定）
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『コッペリア』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス
11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.
クルト・ザックス『世界舞踊史』
邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】
平常点30%: リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価
期末レポート70％：舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

身体表現論Ｂ

2017年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】
・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・資料を元に講義する。受講生は毎月1回、その月に受けた授業に関するリアクション・ペーパーを提出する。
・提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇（１）	原始社会から古代文明における演劇の発生、アイスキュロス、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇（２）	劇場の構造、ソフォクレス（続）、エウリピデスについて
4	中世演劇～エリザベス時代演劇（１）	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響から、エリザベス時代演劇への歴史的展開について
5	エリザベス時代演劇（２）	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇（３）	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、市民劇	イギリスの風俗喜劇、フランスの市民劇とその周辺について。マリヴォー、ボーマルシェ、モーツァルトなど
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇（１）	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	近代演劇（２）	ヨーロッパ近代演劇、特にバーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇（１）	１９世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇（２）	アメリカのリアリズム演劇について
14	講義のまとめ	秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】
『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）

【成績評価の方法と基準】
平常点30%: リアクション・ペーパーによる。講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価
期末レポート70％：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to
(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.
・Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.
・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論A

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2026年度の美術論Aでは、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。
特に
・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイディアや制作論）
について段階的に幅広い視点で学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】
西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、具体的な作品や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの実践的なチャレンジに取り組みます。美術の理論と実践の密接な結びつきを理解し、創造的なアプローチを身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40- 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	古代美術 原始美術/先史美術、メソポタミア美術、エジプト美術、エーゲ美術、ギリシャ美術、ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の美術や、西洋美術史の出発点となるメソポタミアやエジプトなどの最古の文明から生まれた美術など古代美術について学びます。原始・先史美術からメソポタミア、エジプト、ギリシア、ローマまでの古代美術について扱います。広範な内容となります。歴史を学ぶことはその広がりを考えると果てがありませんが、まずは大きな流れを捕まえておくことが大切だと思います。
第3回	中世美術 初期キリスト美術、ビザンティン美術、初期中世美術、ロマネスク美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や地域とキリスト教美術が結びついた中世美術について学びます。ローマ時代からルネサンス以前までのキリスト教と関連した美術の流れについて学びます。 この後出てくるルネサンスの美術と比較して、シンプルでわかりやすい装飾的な図像という印象です。形骸化しているという側面もありますが、キリスト教の拡大のために必要であったと想像できます。 それぞれの美術が展開した場所と時期は以下のようになっています。 初期キリスト教美術（西ヨーロッパ）（2〜7世紀） ビザンティン美術（東ヨーロッパ）（4〜15世紀） 初期中世美術（ドイツ、フランス、アイスランド）（5〜10世紀頃） ロマネスク美術（西ヨーロッパ）（11〜12世紀） ゴシック美術（西ヨーロッパ）（12〜15世紀）
第4回	近世美術 ルネサンス美術、バロック美術、ロココ美術	ギリシア美術やローマ美術を見直し人間の尊厳が再認識されたルネサンス美術、ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味するバロック美術、フランスで発展した装飾性の強いロココ美術について学びます。

第5回	ワークショップ（1） 単元の復習 ・古代美術、中世美術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵から文字へ	これまで学んだ時代の文化を違うベクトルから見てみましょう。この時代は文字の発達した時代でもあり、情報を残し、伝えるために絵を描くことの発見、それらが発展（もしくは変化）して現在の文字の発明につながっていきました。ギリシア時代には現在使われているアルファベットとほとんど同じものが使われていました。 絵画や文字が発明されたことで、人間は様々な過去の事柄を記録することができるようになり、これらはコミュニケーションの手段の一つとなって、メディアが登場します。芸術の分野でも近代になってコンセプチュアル・アートのような概念的な表現が多くなり、文字は中心的な存在となります。
第6回	近代美術1 新古典主義　ロマン主義　写実主義　バルビゾン派　ラファエル前派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典（ルネサンス）への回帰としての新古典主義、自由な感性や多様な美の表現を尊重したロマン主義、ありのままの日常を客観的に描こうとする写実主義、ありのままの自然を描こうとするバルビゾン派、芸術を通じて道徳や真実を探求するラファエル前派について学びます。
第7回	近代美術2 印象派 、新印象派、ポスト印象派 ナビ派　世紀末芸術　象徴主義（ロシア象徴主義）　素朴派　アーツアンドクラフツ運動　アール・ヌーヴォー　分離派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実をそのままに鮮やかで明るい色彩の印象派 、印象派の色彩理論をさらに化学的に追求した新印象派、印象派を批判的に受け継ぎ、乗り越えようとするポスト印象派について学びます。 19世紀のフランスを中心としたヨーロッパでは、印象派を軸として次々と新しい芸術運動が現れてきます。アーツ・アンド・クラフツ運動やアール・ヌーボーなど、生活と結びついた芸術運動も生まれてきました。今回の授業ではそうした様々な動向について扱いますが、見るものをどのように解釈するのか、心の中で感じ取ったものをどのように表現するのかといった写真が発明された以降の課題（そのまま写しとるのではなく、絵画独自の特徴を追求する）について、様々な取り組みや実験がスタートします。
第8回	ワークショップ（2） 単元の復習・近代美術1、近代美術2 ワークショップ・デッサンの手法	中世、近世、近代美術の復習とワークショップをします。ワークショップでは、絵画を違う観点から考えてみましょう。絵画の目的は現実の世界を平たい紙やキャンバスに定着させることにありますが、歴史の中で様々なテクニックが生まれました。色をだんだん薄くしてみる、前後のものを重ねてみる、近いものを下、遠いものを上の方に描いてみるなどで、奥行きは表現できます。私たちの学んだ中世、近世から近代美術にかけて最も進化したのは線遠近法と呼ばれる方法です。今日は遠近法について理解を深めましょう。
第9回	近代美術3 野獣派、キュビズム、表現主義、ナビ派 、世紀末芸術 、象徴主義、素朴派、アール・ヌーヴォー	ポスト印象派以降の絵画の新しい試みに関しての講義です。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴーギャン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。後期印象派という言葉は1906年に美術批評家ロジャー・フライが最初に使い、また1910年にロンドンのグラフトン・ギャラリーで彼は「マネと後期印象派の作家たち」という展覧会を企画し、そのタイトルで正式にこの言葉を用いました。 ゴーギャンやゴッホの大胆な色彩や画家の内面性を追求する姿勢は印象派にはなかったもので、またセザンヌは形態の解釈にエネルギーを注ぎました。これらの発想は、フランスを中心としたフォービスムやキュビスム、ドイツを中心とした表現主義の芸術運動に大きな影響を与えました。
第10回	近代美術4 未来派、ダダイズム、シュルレアリスム、デ・スティル、バウハウス 、ロシア構成主義	1914年から起きた第一次世界大戦は、ドイツ・オーストリア・イタリアが中心の同盟国とロシア・フランス・イギリスの連合国との戦いでした。また、1917年のロシア革命を発端としてソビエト連邦ができました。 この講義では、ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。また、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような作品が登場します。
第11回	ワークショップ（3） 単元の復習　近代美術3 、近代美術4	今日は「表現の生まれる場所」というテーマで表現の原理原則のような出来事を体験するワークショップをしましょう。 特に以下のキーワードについて考えていきます。 ・テキスト ・音 ・身体

第12回	現代美術1 アンフォルメル　抽象表現主義ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラ	第二次世界大戦前後の芸術運動についてお話をします。大戦を挟んでアートの現場がヨーロッパからアメリカに移行します。第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義などアメリカを中心として登場した芸術運動、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第13回	現代美術2 ネオダダ、ポップアート、ミニマルアート、コンセプチュアルアート　新表現主義	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。1970年代の嵐のようなカウンターカルチャーの時代が過ぎ去り1980年代に入り登場したアメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義についても学びます。
第14回	現代美術3 YBA、リレーショナル・アート、ソーシャリー・エンゲージド・アート ワークショップ（4） 単元の復習・現代美術1、現代美術2 ワークショップ「テキストとアート」	1989年にベルリンの壁が崩壊し東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。 そして、東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャリズムを一つのきっかけとして生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜に起こったイギリスおよびフランスを中心としたヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist、リレーショナルアート）についての理解を深めます。21世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
参考書
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2014年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.
* Art history and art theory which is the basis for understanding art
* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.
We will learn about these in a step-by-step manner.
Learning Objectives
Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google sites contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣　立男

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2026年度の美術論Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。
・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。
以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）
・原始・古代美術
・中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術
さらに、各単元ごとにワークショップを実施し、実践的な美術活動を通じて学びを深めていきます。

【到達目標】
日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。
ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1.　指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2.　資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3.　サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4.　授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。
授業の方法
　授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題
　受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
　一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
第2回	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。縄文時代は約1万年前から約3千年前までの時代であり、人々は主に狩猟採集生活を営み、豊かな自然環境と共存しながら、土器や土偶などの芸術作品を生み出しました。紀元前3世紀から紀元3世紀ごろまでの弥生時代には、農耕や稲作が発展し、集落が形成されました。弥生時代の終わりから紀元7世紀頃までの古墳時代には、各地に巨大な古墳が築かれ、そこからは豪華な副葬品や装飾品が発見されています。
第3回	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。6世紀後半から7世紀前半にかけての飛鳥・白鳳時代には、仏教が伝来して社会や文化に大きな影響を与えました。8世紀から9世紀にかけての奈良時代には、律令制度が確立し国家の行政や法制度が整備されました。9世紀後半から12世紀半ばまでの平安時代には、貴族文化が隆盛し、平安時代の文学や芸術が栄えました。
第4回	ワークショップ（1） 単元の復習・原始美術、古代美術 プレゼンテーションとディスカッション	原始美術、古代美術に関する単元の復習と、縄文時代以前の道具に関するワークショップを行います。
第5回	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。12世紀末から14世紀半ばまでの鎌倉時代は、武士の政権が台頭しました。禅宗や浄土宗などの新興宗教が台頭しました。室町時代は、14世紀後半から16世紀前半までの時代であり、禅宗美術が更なる発展を遂げ、水墨画が盛んになりました。
第6回	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。16世紀後半から17世紀初頭にかけての桃山時代は、戦国時代の混乱から徳川家康による統一を経た時代です。この時代には茶道、茶室建築が隆盛し、また絵画や彫刻、陶芸など、豊かな文化が花開きました。17世紀初頭から19世紀末までの江戸時代には、風俗や歌舞伎、日常生活の情景を描いた浮世絵が大衆の間で広く愛されました。また、琳派や俳句、狂言など様々な文化が栄えました。

第7回	ワークショップ（2） 単元の復習・中世美術、近世美術 プレゼンテーションとディスカッション	中世美術、近世美術に関する単元の復習と「異文化交流」と「身の回りにある江戸時代」に関するワークショップを行います。
第8回	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化政策により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
第9回	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房	第二次世界大戦後の1950年代には実験工房、具体美術協会が結成され、従来の美術の枠を超えた実験的なアプローチや表現が試みられました。続いて1960年代にはアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンターなど新しい芸術運動が始まります。これらの芸術運動は、戦後の日本の芸術に新たな風を吹き込み、アーティストの多様な表現を促進しました。
第10回	ワークショップ（3） 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術 プレゼンテーションとディスカッション	近代美術のはじまり、戦後美術に関する単元の復習と、教室内の人と人との関係性に関するワークショップを行います。
第11回	1960-1970年代 もの派ともの派以降、新しい表現	1960年代から1970年代の美術に大きな影響力を持ったもの派ともの派以降の美術やアーティストについて学びます。
第12回	新しい表現 パフォーマンス、ビデオアート、インスタレーション	1980年代には若いアーティストたちは、前衛的な動きを引き継ぎながら、新たな表現手法に挑戦しました。特にビデオアート、インスタレーション・パフォーマンスなどが注目されました。
第13回	1990-2020年代 1990年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010年以降	1990年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
第14回	ワークショップ（4） 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020年代 プレゼンテーションとディスカッション	1960-1980 年代、1990-2020年代に関する単元の復習と、授業全体のまとめのワークショップを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くありますので、企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】
山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】
成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。
1.　平常点（50%）
2.　課題とレポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のためにGoogle Classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】
Course outline
We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.
1.　Art history and art theory which is the basis for understanding art
2.　Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism
We will learn a wide range of them step by step.
Learning Objectives
We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works.　At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.
Learning activities outside of the classroom
The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you.　There are also many museums and galleries near the university.　If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports.　We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.
1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)
See rubrics for specific assessment guidelines.
Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間Ａ

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppiiを通してコメントを書いてもらったりすることになります。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。
受講希望者が50名を超える場合、初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	-ジョン・フォード -宮崎駿
3	地を走る	-チャールズ・チャップリン -バスター・キートン
4	地で踊る	-フレッド・アステア -ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	-S・エイゼンシュテイン -アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	-キング・ヴィダー -ニコラス・レイ
7	馬に乗る	-ジョン・フォード
8	列車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -黒沢明
9	自動車に乗る	-アルフレッド・ヒッチコック -濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	-エルンスト・ルビッチ -ハワード・ホークス
11	壁の向うを聴く	-フリッツ・ラング -ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	-アルフレッド・ヒッチコック -宮崎駿
13	鏡を見る	-オーソン・ウェルズ -吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、映画館やDVDでの作品鑑賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布する。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければ E 評価とします）。
平常点は、出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
初回に出席すること。50名以上受講希望者がいる場合、初回（対面式なので注意）に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できます。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

芸術と人間Ｂ

2017年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(50)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとどのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もっとも具体的に検討してきた表現領域です。本講義は「芸術と人間A」の発展形にあたり、より大きな空間的スケールで映画表現を学びます。主に古典的作品を通し、都市や自然の表現が問題となります。

【到達目標】
空間という角度から映画を捉えなおすことで、鑑賞力を深めることができます。表現技法や映画史の基本知識も身につきます。自分の観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、映画（サイレント映画から2000年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させます。鑑賞力を鍛えるために、毎回、hoppiiを通してコメントを書いてもらいます。フィードバックはhoppiiおよび講義を通じて行います。
受講希望者が50名を超える場合、初回（対面式）に、「芸術と人間A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行いますので注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと選抜	-授業の概要の説明 -「芸術と人間A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	-キング・ヴィダー -フリッツ・ラング
3	迷宮都市	-ジャン＝リュック・ゴダール -ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	-ヴィム・ヴェンダース -黒沢清
5	日本家屋	-成瀬巳喜男 -小津安二郎
6	水と船	-溝口健二 -ジャン・ヴィゴ
7	雨	-山中貞雄 -宮崎駿
8	水の宇宙	-アンドレイ・タルコフスキー -ユーリー・ノルシュテイン
9	風	-ジャン・エプスタン -グル・ダッド
10	動物１	-ハワード・ホークス -宮崎駿
11	動物２	-アピチャポン・ウィラセタクン -タル・ベーラ
12	外国人監督による東京１	-クリス・マルケル -ヴィム・ヴェンダース
13	外国人監督による東京２	-ジャン=ピエール・リモザン -ホウ・シャオシェン
14	まとめ	補遺 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布したプリントの再読や、宿題、映画館やDVDでの映画観賞等。本授業の復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点50％＋レポート50％（ただしレポートを提出しなければ E 評価）。
平常点は出席回数ではなく、毎回のコメントシートでカウントします。

【学生の意見等からの気づき】
レポートを早めに返却します。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
「芸術と人間A」（春学期）未受講者は選抜試験をする可能性があるので必ず初回に出席すること。
毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期5回以上の無断欠席はD評価とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】In this class. we study the space structure of classical films.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to be able to analyse the style of a film.
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論Ａ

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。
この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。
（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。）

【到達目標】
・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされうるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第6回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 四つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 『はじめての説法』
第7回	仏教の基本思想（3）	仏陀のさとり得た真理とその特徴 『梵天勧請』 『縁』経，他 比較思想的考察
第8回	仏教の基本思想（4）	「諸法無我」 人無我と法無我 ミリンダ王経
第9回	仏教教団と教団運営	律蔵文献 戒・波羅提木叉
第10回	初期仏典講読（1）	『ダンマパダ』
第11回	初期仏典講読（2）	『スッタニパータ』 「慈しみ」他
第12回	初期仏典講読（3）	『スッタニパータ』 「田を耕すバーラドヴァージャ」他
第13回	初期仏典講読（4）	『スッタニパータ』 真理についての争い
第14回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、２０１３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績(60%)と授業内容確認小テストの成績(30%)と平常点(10%)により評価します。
学期末試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか(恣意的で偏った見方で評価していないか)、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
「配布資料の内容が興味深かった」という感想をくれた学生がいました。資料を読み、仏陀自身のことば・思想を、先入見を持たずに、正しく真直ぐに捉え、深く理解することに努めてほしいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
仏教思想の本質、特に仏教の人生観・世界観の理解のためには、春学期の「仏教思想論A」だけでは不十分です。秋学期の「仏教思想論B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】
This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.
The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

仏教思想論Ｂ

2017年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド初期・部派仏教から大乗仏教への展開：世界観・人生観の変遷
インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乗仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乗仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
（本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論A」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乗仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
・仏教思想はどうして多様化したのか、その理由を理解する。
・初期・部派仏教から大乗仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
・大乗仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (３～４回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について インド仏教思想展開史概説
第2回	部派仏教の成立	仏教思想の多様性・多様化 諸部派成立から大乗仏教へ
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（１）	ダルマの体系（１）： 五位七十五法
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（２）	ダルマの体系（２）： 有為ダルマの二性質
第5回	仏教の世界観	『倶舎論』が説く世界観 大乗仏教の世界観
第6回	大乗仏教（１）	大乗仏教の教理的特徴
第7回	大乗仏教（２）	大乗諸経典（１）： 『般若経』 『阿閦仏国経』
第8回	大乗仏教（３）	大乗諸経典（２）： 『維摩経』 ナーガールジュナ（１）： 思想史上の位置づけ 二真理説
第9回	大乗仏教（４）	ナーガールジュナ（２）： 空性、中道 縁起の思想（１）： 外縁起・内縁起 『入楞伽経』
第10回	大乗仏教（５）	縁起の思想（２）： 『稲芊経』
第11回	大乗仏教（６）	縁起の思想（３）： 『稲芊経註』 縁起二種観察法・中道
第12回	大乗仏教（７）	大乗仏教の人生観（１）： 到達目標・理想的境地・中道
第13回	大乗仏教（８）	大乗仏教の人生観（２）： 『維摩経』
第14回	大乗仏教（９）	大乗仏教の人生観（３）： 仏教論理学派と後期中観思想； 仏陀・経典の権威について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか　アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、２０１３年
桜部健・上山春平著『仏教の思想２　存在の分析＜アビダルマ＞』、角川ソフィア文庫、１９９６年
計良龍成著『中道を生きる：中観』、春秋社、２０２３年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末リポート試験の成績（６０％）と授業内容確認小テストの成績（３０％）と平常点（１０％）により評価します。
期末リポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試す問題を出す予定。
試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠でもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】
インド本来の大乗仏教思想、特に東アジアには殆ど伝わらなかった後期中観思想等を初めて学ぶ学生に対しては、その人生観等の思想は、新鮮な驚きを感じさせるようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、大乗仏教思想に関心のある方はぜひ受講してほしいと思います。わかりやすい丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
授業内容の深い理解のために、春学期の「仏教思想論A」から履修することを強く推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Indian Hinayana (Shrâvakayâna) Buddhism and Mahayana (Bodhisattvayâna) Buddhism.
The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. Sarvâstivâdin's interpretation of impermanence, i.e., momentaliness of conditioned dharmas.
2. Later Madhyamaka philosophy consisting of the ideas of dependent origination, emptiness, middle way and non-abiding nirvana.

3. Dharmakîrti's and later Mâdhyamika position on scriptural authority.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

中国の民族と文化Ｂ

2017年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】
漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。
なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。
あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】
原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Ｚ会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】
試験100％
試験は漢文の読解力のみで評価します。
なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とすると全くできないと思いますので、ご留意ください。

【学生の意見等からの気づき】
「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ａ　2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】
日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。 2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。 リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。 課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舎利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
岡野浩二『日本史特講（日本仏教史）』（法政大学通信教育部、2023年）
末木文美士編『新アジア仏教史　11日本1　日本仏教の礎』（佼成出版社、2010年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法藏館、2017年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法藏館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（最終回に実施）50％、毎回の出席確認の小テスト50％をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの2段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1)この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（２）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

古代日本･中国の法と社会Ｂ　2017年度以降入学者

岡野　浩二

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代の日本は、中国から多くの文明・文物を移入した。その重要な役割を担ったのが入唐僧である。ここでは9世紀の円珍の関係史料を主な素材として、入唐僧の実情を探る。その前提として7・8世紀の入唐僧について概観する。9世紀には、円仁が『入唐求法巡礼行記』、円珍が『行歴抄』という旅行記を残しており、円珍関係の古文書も園城寺に現存する。それらの記事から、日本・唐の宗教・政治・社会を比較研究する。

【到達目標】
円珍の旅行記『行歴抄』、円珍の伝記『天台宗延暦寺座主円珍伝』、円珍関係の古文書『園城寺文書』の主要な記事を読解する。それらを素材として、日本・唐の宗教・政治・社会の相違点や特質を把握する。そして、その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	道昭・玄昉・鑑真	7・8世紀の入唐交流を概観する
3	最澄・空海・円仁	9世紀の入唐僧を概観する
4	円珍の入唐と身分証	僧侶・俗人の身分証について日唐を比較する
5	円珍の通行許可証	唐の交通路と許可証を考察する
6	円珍がみた天台山	会昌の廃仏とその影響を概観する
7	円珍と円載	入唐僧どうしの交流と確執を読み取る
8	円珍がみた長安・洛陽	唐の寺院・施設・人物を概観する
9	円珍がみた唐の文物	仏教行事や風俗を日唐で比較する
10	円珍の帰国	仏典の保管、天皇・貴族との交流を概観する
11	後続の入唐僧	宗叡・高丘親王らの入唐と円珍との関係を探る
12	円珍と唐の僧侶・商人	帰国後の円珍と天台山・長安の僧侶や貿易商との交流を概観する
13	日本と唐の関係・比較	入唐僧の活動から日本と唐の関係を考察する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】
佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書　第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
道端良秀『中国仏教史全集　第一巻　中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第三巻　南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史　第五巻　隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）

【成績評価の方法と基準】
①最終回の試験（50％）、②途中で実施する確認試験（30％）、③予習事項の紙面での提出（20％）。以上の３者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。（２）疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。（３）①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の４者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Enchin’s historical materials .
（Learning Objectives）
By the end of course,students should be to understand the followings: Through the travelogues written by monks who visited China from Japan, what is the religious, political, and social differences between ancient Japan and China.
（Learning activities outside of classroom）
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Yuor study time will be more than four hours for a class.
（Granding Criteria/Policies）
Yuor overall grade in the class will be decided based on the following.Term-end examination :50 %, Short examination:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ａ　2017年度以降入学者

新崎　盛吾

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの米軍基地が配置された沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との関係、太平洋の島々との関わり、辺野古の新基地建設に反対する民意形勢の過程などを学びます。
沖縄は太平洋戦争で苛烈な地上戦が行われ、県民の４人に１人が犠牲になる過酷な被害を受けました。その後も１９７２年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれ、本土との生活格差は広がり、米軍基地の縮小に取り組むと約束した日本政府の約束も果たされないままです。米国のアジア戦略や中国との関係が、時代と共に変化する中でも沖縄の状況は変わらず、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。
沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】
・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争後の米国施政下から現在に至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教室でリアルタイムに受講する形式を基本とします。市ケ谷キャンパス以外の学生の履修や、部活・就活による欠席者らに配慮し、「Ｚｏｏｍ」で撮影した授業内容の映像を可能な限り後日配信します。毎回の授業後、感想や質問をリアクションペーパーで提出してもらい、次の授業に活用します。リアルタイムで受講できなかった学生がリアクションペーパーを提出した場合は、出席扱いとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史（１）	ドキュメンタリー動画などを参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史（２）	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、政府の対応に変化
6	１９９５年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑
7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の１５年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の４人に１人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化と日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史（１）	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	朝鮮半島の戦後史（２）	北朝鮮とはどのような国か。現地の映像を参考にして考察。
14	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習として、教科書や参考書に指定した書籍を読むこと。
・復習として、各回の授業後に配信する授業映像を見直したり、リアクションペーパーを策定したりすること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『いま沖縄をどう語るか～ジャーナリズムの現場から』　高文研、２０２４年

【参考書】
・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、２０１６年
・『観光コースでない沖縄・第５版』　高文研、２０２３年

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出、授業への参加度（５０%）
期末レポート（５０%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の６０%以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
共同通信の社会部系記者として約３０年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。
２０１４年から１６年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に２回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。
【その他の注意事項】
①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ」の前提となるため、Ｂを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Through the current situation and history of Okinawa, which is home to many U.S. military bases, students will learn about Japan's security policy, relations with China and the Korean Peninsula, relations with the Pacific islands, and the process of shaping public opinion in opposition to the construction of a new base in Henoko.
Okinawa was the site of fierce ground battles during the Pacific War, suffering severe damage with one in four residents killed. It remained under U.S. administration until its return to Japan in 1972, and the living standards gap between Okinawa and the mainland widened. The Japanese government's promise to reduce U.S. military bases remains unfulfilled. While U.S. strategy in Asia and relations with China have changed over the years, Okinawa's situation has remained unchanged, with the Self-Defense Forces continuing to be deployed there in the name of preparing for a Taiwan emergency.
Learning about Okinawa will also be beneficial in understanding Japan's modern history and its international relations with Asian countries.

HIS300LA（史学 / History 300）

アジア・太平洋島嶼国際関係史Ｂ　2017年度以降入学者

水谷　明子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア・太平洋地域には、多くの島嶼および島嶼国家が存在する。本授業では、その中でも特に沖縄に注目する。沖縄は現在、日本の一県・一地域として位置づけられているが、前近代には琉球王府の統治下にある独自の政治体制を有していた。
近代以降、沖縄は「琉球処分」による日本への併合、同化政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）を経て、復帰後も米軍基地の集中と強化など、外部からの政策決定を繰り返し受けてきた。その過程において、沖縄の人びとはさまざまな形で異議申し立てを行いながら、独自の社会と文化を形成してきた。
本授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼地域をめぐる国際関係が生み出してきた現代社会の諸問題を検討する。それを通じて、この地域に生きる生活者としての視点と問題意識を養うことを目的とする。

【到達目標】
本授業では、「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認したうえで、アジア・太平洋国際関係の中で沖縄が現在直面している具体的な課題や問題についてリサーチし、議論する。あわせて、生活者の視点から国際関係と地域社会の問題を考察し、受講生それぞれが関心をもつ、沖縄に関するテーマについて、資料調査を行い、史資料に基づいて議論する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第2回	「琉球処分」ー東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」の内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第3回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第4回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第5回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第6回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗う民衆運動の展開について確認します。
第7回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第8回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題についてリサーチテーマを検討します。
第9回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第10回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第11回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第12回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第13回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第14回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書くこと。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をすること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】
宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目ー沖縄、占領の今ー』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす－記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】
コメントシート（４０%）
レポート中間発表（３０%）
リサーチレポート（３０%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の ６０%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの文字数、枚数は、受講生の専門やリサーチテーマによって図表を用いるなどの場合を踏まえて、検討します。

【Outline (in English)】
In this class, we will focus on the modern and contemporary history of Okinawa and examine the various problems of contemporary society that have been created by international relations surrounding the Asia-Pacific islands. Through the program, the students aim to develop a perspective and awareness of problems as residents living in this region.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業の基本的な流れは、以下の通りである。
　ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明、映像
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン、映像
3	1）「口絵・プロローグ」	学生によるテキストの報告、討論.
4	2）映像①	関連映像視聴、討論.
5	3）「密航1946年 関釜の間の海～」	学生によるテキストの報告、討論.
6	4）映像②	関連映像視聴、討論.
7	5）「第1章植民地の子ども1朝鮮 1911-24　鯨の町長生浦～」	学生によるテキストの報告、討論.
8	6）映像③	関連映像視聴、討論.
9	7）「第1章植民地の子ども2日本 1924-44　関東大震災の横浜で～」	学生によるテキストの報告、討論.
10	8）映像④	関連映像視聴、討論.
11	9）「第1章植民地のこども3朝鮮 1944-46　朝鮮に逃げる～」	学生によるテキストの報告、討論.
12	10）「送還1946　失敗した密航～」	学生によるテキストの報告、討論.
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

HIS300LA（史学 / History 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】
文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために,随時,映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・在日コリアン概説	自己紹介、授業計画の説明、在日コリアン概説、映像。
2	1）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（1）密航のち18年の人生～163Pまで）	戦後の在日コリアンの歴史。学生によるテキストの報告、映像、討論。
3	2）映像⑤	関連映像視聴、討論。
4	3）「第2章洗濯屋の家族1 尹紫遠（2）横浜の検閲生活～（164P～）」	学生によるテキストの報告、討論。
5	4）映像⑥	関連映像視聴、討論。
6	5）「第2章2大津登志子 満州から38度線へ～」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	6）映像⑦	関連映像視聴、討論。
8	7）「第2章泰玄 money,money,money～」	学生によるテキストの報告、討論。
9	8）映像⑧	関連映像視聴、討論。
10	9）「第2章逸己　歴史を準備する人～」	学生によるテキストの報告、討論。
11	10）映像⑨	関連映像視聴、討論。
12	12）「エピローグ、補遺密航の時代」	学生によるテキストの報告、討論。
13	13）資料館見学	資料館見学
14	14）まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
宋恵媛・望月優大『密航のち洗濯ときどき作家』柏書房　1800円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】
水野直樹・文京洙『在日朝鮮人歴史と現在』岩波新書　990円。

【成績評価の方法と基準】
討論への積極的な参加など授業への貢献度50％、プレゼンテーション・期末レポート50％。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】
共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】
春学期に開講された教養ゼミII「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に活きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】
< Course outline>
This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.
< Learning Objectives>
The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.
< Learning activities outside of classroom>
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy>
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report&Presentation : 50%,in-class contribution:50％.

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズA　2017年度以降入学者

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(100)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。
私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ＋運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】
1）クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
2）ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo運動	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	欧米におけるLGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	エイズ危機の時代	アメリカと日本における「エイズ禍」について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」事件やトランスジェンダーの歴史について講義を行う。
第10回	ダイバーシティとインターセクショナリティ	ダイバーシティとインターセクショナリティについて考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニング・ジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
浅井春夫、遠藤まめた、染矢明日香、田代美江子、松岡宗嗣（編）『Q&A多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育：バッシングに立ちむかう74問』（大月書店、2023年）
岩渕功一（編）『多様性との対話―ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 1』（晃洋書房、2019 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 2』（晃洋書房、2022 年）
菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく 3』（晃洋書房、2023 年）
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022 年）
周司あきら、高井ゆと里『トランスジェンダー入門』（集英社新書、2023年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022 年）
トッド、マシュー『ヴィジュアル版　LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
森山至貴『LGBTを読みとく―クィア・スタディーズ入門―』（ちくま新書、2017年）

【成績評価の方法と基準】
ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%
中間試験：30%
期末試験：30％
期末レポート：20%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.
We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.
In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.
Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Have basic knowledge of queer studies.
b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.
Learning activities outside of the classroom:
Students are required to read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Learning journal (Submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%
Midterm exam: 30%
Final exam: 30%
Final essay: 20%
Active participation in class is required.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

GDR300LA（ジェンダー / Gender 300）

クィア・スタディーズB　2017年度以降入学者

ＬＥＴＩＺＩＡ　ＧＵＡＲＩＮＩ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】
1）フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
2）クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について講義する。
第2回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第3回	性暴力と文学	#MeToo運動と文学の関係について講義する。
第4回	クィア・スタディーズとは？	クィア理論の誕生について講義する。
第5回	近代家族の誕生と再生	アート作品やメディアにおける家族の表象について考える。
第6回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ！』（2001年）を取り上げる。
第7回	恋愛伴侶規範（アマトノーマティビティ）	『そばかす』（2022年）を取り上げる。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ゲイ解放運動	映画におけるLGBT運動の表象について考える。
第10回	トランスジェンダー問題	トランスジェンダーの歴史について講義する。
第11回	トランスジェンダーの過去と現在	トランスジェンダーの表象について考える。
第12回	日本におけるレズビアンの歴史	レズビアンの可視性やその表象について講義する。
第13回	カミングアウトとアウティング	映像作品におけるカミングアウトとアウティングについて考える。
第14回	期末試験	第13回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読む、授業内で示される課題（ラーニングジャーナル）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』（晃洋書房、2021年）
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉？』（晃洋書房、2016年）
新ヶ江章友『クィア・アクティビズム　はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
トッド、マシュー『[ヴィジュアル版]LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）
平林美都子『女同士の絆　レズビアン文学の行方』（彩流社、2020年）
森山至貴『LGBTを読みとく　クィア・スタディーズ入門』（筑摩書房、2017年）
Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】
ラーニング・ジャーナル（毎回Hoppiiを通じて提出すること）：20%
中間試験：30%
期末試験：30%
期末レポート：20%
毎回出欠を取ります。3回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】
授業内試験のためノートパソコンを用意してください。

【その他の重要事項】
基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。
講義内容や鑑賞作品などにセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】
In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, comics, etc.
Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.
Learning objectives:
By the end of the course, students should be able to do the following:
a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.
Learning activities outside of the classroom:
Students must read the reference material by the next session and submit their learning journal entries (four hours for every session).
Grading criteria/Policy:
The final grade will be decided based on the following:
Learning journal (submit your journal entries via Hosei University Learning Management System at the end of each session): 20%
Midterm exam: 30%
Final exam: 30%
Final essay: 20%
Active participation in class is required.
Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than three classes.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史Ａ

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4回から5回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出でもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第2回	第1章　ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第3回	第2章　ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第4回	グループワークと質疑応答	第1章と第2章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第5回	第3章　教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第6回	第4章　アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第7回	第5章　中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。
第8回	第6章　中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第9回	グループワークと質疑応答	第3章から第6章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第10回	第7章　トマス・アクィナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第11回	第8章　後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第12回	第9章　神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナールの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第13回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトラルカなどついて学びます。
第14回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019年、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
What kind of beings are we as human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage that explores these fundamental questions of existence. This course examines this heritage from the perspectives of faith (believing) and reason (knowing). The course aims to:(1) Deepen students' understanding of Christian doctrine and its historical development. (2) Enhance comprehension of philosophical concepts closely related to Christianity. (3) Explore Christianity's influence on politics, economics, society, and culture (including art and the liberal arts).

Grading Criteria: (1) Evaluation of assignments submitted after each class. (2) Final report at the end of the semester. Each component (1) and (2) will account for 50% of the final grade, and students' overall performance will be assessed comprehensively.
Preparation: Students should read the relevant sections of the textbook in advance. Additionally, they should use reference books to understand technical terms and key concepts (2 hours). Review: Students should go through the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). After each session, they must complete the assigned tasks using the class support system. Furthermore, they should summarize their thoughts on the topic, incorporating insights from discussions with other students (2 hours).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

キリスト教思想史Ｂ

2017年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キリスト教は、わたしたち人間存在、人間社会と生活環境、そして、それらの創造主としての神に関する教義を通して、西欧の人間社会及び文化の諸領域に甚大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。受講生がこれらの学習を通して、キリスト教思想史の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史B）は、ルネサンスと宗教改革から近代ヨーロッパ文学の人間観までを学びます。

【到達目標】
①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義は授業支援システムHoppiiを使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、3回から4回に1度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問へのフィードバックは次回の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppiiを使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第2回	第10章　ダンテと中世文学の思想	中世文学の歴史的展開、ダンテの『新生』『神曲』、ペトラルカの文学を学びます。
第3回	第11章　キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』を解説します。
第4回	グループワークと質疑応答	第10章と第11章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第5回	第12章　ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第6回	第13章　宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。
第7回	第14章　近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第8回	第14章続き　パスカルと信仰	パスカルの生涯、決定的回心（メモリアル）、イエズス会との論争について学びます。
第9回	グループワークと質疑応答	第12章から第14章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第10回	第15章　啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第11回	第16章　ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第12回	第17章　ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第13回	第18章　近代ヨーロッパ文学の人間観	中世から近代への歴史的変遷、近代ヨーロッパ文化および文学について学習します。
第14回	秋期授業のまとめと質疑応答	秋期授業の内容を振り帰った後で、第15章から第18章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。（2時間）
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppiiの投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。（2時間）

【テキスト（教科書）】
金子 晴勇 (著)『ヨーロッパ思想史 ―理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、2021年、ISBN-13 : 978-4480017284、1980円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】
若松英輔・山本芳久（共著）『キリスト教講義』文芸春秋、2019年、ISBN-13 : 978-4163909455、1850円

【成績評価の方法と基準】
①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を50%、②を50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】
病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システムHoppiiにアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】
その他の詳細は、授業支援システムHoppiiに記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】
This course aims to explore the intellectual heritage of Christianity through the lenses of both faith and reason. The goal is to provide a comprehensive understanding of the historical progression of Christian doctrine. Moreover, we will delve into the philosophical concepts closely related to Christianity and how they have influenced various aspects of society, including politics, economics, and culture. Scope of autumn classes: students will study everything from the Renaissance and Reformation to modern European literature's view of the human person.

In preparing for the assignment, students should start by reading the assigned text to understand technical terms (2 hours). They will revise their responses to the questions and complete assignments for the class (2 hours).
Your performance in this course will be evaluated based on two factors: assignment evaluation each time and a final report at the end of the semester. Both carry equal weightage in the grading criteria.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ａ　2017年度以降入学者

鈴木　麻由

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異なる文化背景をもつ人との対話は、日常の中に多く存在する。同じ日本人でも、世代や性別などによって価値観は大きく異なる。学業やビジネスにおいて、語学力があっても文化背景の違いから意思疎通が難しい場面もある。この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化（主に日本文化）を意識化、また相対化する。
②異文化コミュニケーションの基礎である文化背景の異なる人への開かれた心と態度について学習し、理解を深める。
③異文化コミュニケーションの理論を学び、積極的な発信型のコミュニケーションであるアサーティブ・コミュニケーション能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・第1回～12回目は、講義形式。
・第13回は受講者による発表を行う。
・第14回目は期末試験を行う。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
・Google Classroom を使って授業を行う。
　連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主にGoogle Classroomを使い、Hoppiiは補助的な位置づけとなるので、履修が決定したらGoogle Classroomに登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 異文化コミュニケーションとは	・授業運営に関する説明・新しい常識発見・ステレオタイプ
第2回	異文化コミュニケーションとは―異文化理解への態度・文化とコミュニケーション―	・日本文化を紹介するなら・文化とは何か・コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーションスタイルー高コンテクストと低コンテクスト―	・コンテキスト・双方向コミュニケーション：ターンテイキング
第4回	コミュニケーションスタイルーパラ言語について考える―	・自己開示・異文化シミュレーション
第5回	言語コミュニケーションー「文化的な意味背景」を理解する―	・ほめ方・叱り方・謝り方
第6回	言語コミュニケーションー文化によるコミュニケーションスタイルの違い―	・自己紹介・誘い方と断り方
第7回	非言語コミュニケーションーいろいろな文化のしぐさ―	・表情・アイコンタクト・しぐさとジェスチャー・タッキング
第8回	非言語コミュニケーションー対人距離を意識化する―	・空間と対人距離・時間の感覚
第9回	価値観	・ことわざ・異文化ケーススタディ・基本価値志向
第10回	自分を知る	・対立管理スタイル・異文化適応力チェック・共感（エンパシー）
第11回	異文化コミュニケーションスキルー相手の理解の枠組みから物事を見る―	・アサーティブコミュニケーション・DIEメソッド
第12回	異文化コミュニケーションスキルーケーススタディ「対立を解決する」―	・相手の話を聞く（エポケー）・相手を責めない（アイ・ステートメント「わたし文」）・アサーション、総合エクササイズ
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1～13回のまとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
八代京子 荒木晶子 樋口容視子 山本志都 コミサロフ喜美『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度(平常点)　25%
リアクションペーパー　15%
発表　20%
期末試験　40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★グーグルクラスルームへの登録を行うこと。

【その他の重要事項】
★受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
(Outline)
We often have to converse with people from different cultural backgrounds in our daily lives.　Even among Japanese people, values vary greatly depending on factors such as generation and gender.　In academic and business settings, even with language proficiency, there are situations where communication is difficult due to differences in background. This course aims to encourage students to reexamine their own culture and acquire the flexible and open attitude necessary for cross-cultural understanding.

(Learning Objectives)
Students will be able to recognize and appreciate cultures (mainly Japanese culture). They will also learn intercultural communication theory and acquire assertive communication skills, which are positive and diplomatic communication.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 25%
＊Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA（言語学 / Linguistics 300）

異文化コミュニケーション論Ｂ　2017年度以降入学者

鈴木　麻由

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化コミュニケーションは「自分探しの旅」だと捉えることができる。それは、異文化理解が自他の文化の違いを通して自分と自文化を見つめ直す営みだからである。他者との出会いは文化同士の出会いでもあり、交流は潜在していた価値観を浮かびらせ、新たな視点に気づく契機となる。異文化接触は往々にして衝突を引き起こすが、同時に融和や創造を生む。この授業では、参加者の内省や意見交換を通して、異文化に対する柔軟な態度と思考を養うことを目的とします。
★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】
①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
②実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
③異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・第1回～第12回は講義形式で行う。
・第13回は履修者による発表を個人もしくはグループで行う。
・第14回は期末試験を行う。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。
・課題へのフィードバックは適宜、授業内もしくはクラスのgoogle classroomで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己、アイデンティティ、文化「他を知り己を知る」	・授業運営に関する説明 ・自己の形成への文化のかかわりを整理する
第2回	コミュニケーションと文化	・既存のコミュニケーションモデルの限界 ・異文化接触による文化融合
第3回	コミュニケーションと意識構造	・意識/世界の衝突と異文化コミュニケーション
第4回	空間の認識	・空間の認識と様々な感覚 ・固定空間と半固定空間
第5回	時間の認識	・共同社会と利益社会におけるテンポの違いが人間関係に与える影響
第6回	言語の力	・サピア・ウォーフの仮説を日本語と英語とその言語世界を比べ、検証する
第7回	場の形成	・なわばりについて考える ・文化的コンセンサス
第8回	カルチャーショック	・U型曲線とW型曲線が示す適応のプロセス ・「適応」とはどのような状態か「カルチャーショック」とはどのような現象か
第9回	価値・規則と異文化接触	・規範および慣習の違いから起こりうる軋轢について考える
第10回	コミュニケーション能力と相互理解	・相互理解のプロセス ・「コミュニケーション能力が高い」とはどのようなことか
第11回	グローバル化	・文化の画一化 ・世界の画一化および二分化を回避するための議論
第12回	グローバル化とアイデンティティ	・「グローバル市民」「文化を越えたアイデンティティ」という考え方に含まれる矛盾
第13回	履修者発表	・個人もしくはグループによる発表
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。（ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する）

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配付する。

【参考書】
池田理知子/E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション入門』有斐閣アルマ
古田暁/石井敏/岡部朗一/平井一弘/久米昭元『異文化コミュニケーションキーワード[新版]』有斐閣
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（平常点） 25％
リアクションペーパー 15％
発表　20%
期末試験　40％

【学生の意見等からの気づき】
・本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
・インターネット接続可能な機器：ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはＰＣまたはタブレット端末
★授業の運営はグーグルクラスルームで行う。

【その他の重要事項】
・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)
Intercultural communication can be seen as a "journey of self-discovery." This is because intercultural understanding is an endeavor to reexamine oneself and one's own culture through the cultural differences between oneself and others. Encounters with others are also encounters between cultures, and exchanges can bring to light hidden values and provide an opportunity to become aware of new perspectives. Intercultural contact often leads to conflict, but at the same time, it can also produce harmony and creativity. The purpose of this class is to foster flexible attitudes and thinking toward different cultures through participants' introspection and exchange of opinions.
(Learning Objectives)
1. Become aware of and put into perspective cultures that you may not have been aware of before.
2. Consider how to apply knowledge and skills in actual communication.

3. Acquire basic academic knowledge about intercultural communication (knowledge of terminology, concepts, theories, etc.).
(Learning activities outside of classroom)
Your study time is at least 1 hour for each class meeting.
(Grading Criteria/Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 25%
*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の目的は、小説やマンガ、映像作品を通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や、労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の実相を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。
　歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。
　受講人数によりますが、可能な限りやペアワークをグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】
　ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。
　現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った女性史の内側や、文学史の外部を参照しながら、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を追求します。適宜、映画・ドラマなどの映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス 導入として、「白雪姫」のパロディの読み比べ	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	池田理代子『ベルサイユのばら』、手塚治虫『リボンの騎士』	＜男装＞による居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『大奥』（ドラマ参照）	＜男装＞による居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	萩尾望都『あそび玉』、小川洋子『密やかな結晶』	管理社会における居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	管理社会と文学② マーガレット・アトウッド「侍女の物語」	管理社会における居場所さがし② ・グループワークによる意見交換
対面授業	大島弓子『ロングロングケーキ』	＜病＞における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	小山田浩子「工場」	労働と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	笙野頼子「母の発達」、萩尾望都「イグアナの娘」	＜母娘＞における居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	吉本ばなな「キッチン」（映画参照）	家族の多様性と居場所さがし・グループワークと意見交換
対面授業	グループ発表①	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表②	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表③	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	グループ発表④	・互いの意見に耳を傾ける ・自分の考えを深める
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト（教科書）】
取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】
矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『［新編］日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度とグループ発表等の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】
Course outline： Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.
Learning Objectives： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA（文学 / Literature 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

矢澤　美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、小説やマンガを通じて、主に女性作家が愛や性といった＜家族＞にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、社会における＜居場所さがし＞の軌跡に迫ることでもあり、ジェンダー規範生成の内実を検証することでもあります。
歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」やマンガを視座に、日本の近代国家としての歩みを踏まえつつ、現代文学やマンガの生成と変容、芸術と社会の関係について学びます。
各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の芸術概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】
ジェンダーにまつわる様々な問題を、多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、表現の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。
現在の豊かなマンガ等の女性表現を生み出すに至った経緯を女性史の内側や文学史の外部を参照しながら追求し、抑圧される側にとっての「書くこと」の意味を考えます。
適宜、映画・ドラマ等の映像作品や世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。希望者による個人発表も計画します（加点あり）。
＊都合があえば、時には海外の研究者をお呼びして講演してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス 導入として、「世界の女の子の昔話」を読む。	授業方法、成績のつけ方について／春学期の振り返り／発表について相談
対面授業	江國香織『きらきらひかる』（映画参照）	性の多様化と居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	よしながふみ『きのう何食べた？』（ドラマ参照）	性の多様化と居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	須藤佑実『夢の端々』	性の多様化と居場所さがし③ ・グループワークと意見交換
対面授業	村田沙耶香『コンビニ人間』	「普通」概念と居場所さがし① ・グループワークと意見交換
対面授業	ハン・ガン『菜食主義者』	「普通」概念と居場所さがし② ・グループワークと意見交換
対面授業	津島佑子『寵児』、八木詠美『空芯手帳』	「産む性」と居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「青かける青」、村田沙耶香「無」	コロナ禍における居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	山下紘加「あくてえ」／上村裕香「泣いてんじゃねえよ」	ケアと居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	メアリー・シェリー「フランケンシュタイン」、大原富枝「婉という女」	「歴史」と居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	川上未映子「あなたの鼻がもう少し高ければ」、上村裕香「美華とミカ」	ルッキズムと居場所さがし ・グループワークと意見交換
対面授業	個人発表①	報告者による報告と討議
対面授業	個人発表②	報告者による報告と討議
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 振り返り 期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
【予習】報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】
取り扱う作品は、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】
矢澤美佐紀『女性文学の現在ー貧困・労働・格差』（２０１６・４、菁柿堂）、『［新編］日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、２０２０・３、六花出版）、新・フェミニズム批評の会編『現代女性文学論』（2024・12、翰林書房）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む　愛・性・家族』（２００６・１０，東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史　現代編』（２００５・５、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（１９８７・８，吉川弘文館）その他、マンガや映像作品については授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度とグループ発表の平常点が50％、期末レポートが50％とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業資料は事前にできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】
Course outline： Considering modern Japanese sexual issues through women's literature and comic.
Learning Objectives： Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.
Learning activities outside of classroom： Take two hours for review and preparation.
Grading Criteria /Policy： Normal score is 50%, term-end report is 50%.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理Ａ

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。春学期はその中でも古代・中世に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていく。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・古代・中世における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	古代から中世の徳倫理学
第2回	プラトン①	徳と知
第3回	プラトン②	善とイデア
第4回	アリストテレス①	徳と善と幸福
第5回	アリストテレス②	幸福と社会
第6回	エピクロス	快と幸福
第7回	ストア派	理性と幸福
第8回	アウグスティヌス①	キリスト教と徳
第9回	アウグスティヌス②	悪と自由
第10回	トマス・アクィナス①	徳と神
第11回	トマス・アクィナス②	神と幸福
第12回	キリスト教における救済論	徳と死生観
第13回	主意主義とキリスト教的倫理思想	理性と信仰
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
『西洋哲学史〔古代・中世編〕』内山勝利・中川純男編、ミネルヴァ書房、1996年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to offer a roadmap for conversations about ethics by presenting an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concepts to focus on are "virtue" and "goodness."
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought in ancient and medieval times, to practice considering ethical issues, and to enhance your self-awareness by exploring a range of ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%,　Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

徳と倫理Ｂ

2017年度以降入学者

内山　真莉子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とは、人が〈善く生きる〉とはどのようなことかを探求する学問である。本授業は、西洋における倫理思想の流れを概観することで、倫理学の議論への手引きとなることを目的とする。着目するキーワードとして、「徳」と「善」を設定する。
西洋における倫理思想と一口に言っても、そのトピックは様々にある。秋学期はその中でも近世～現代に焦点を当て、どのようなことが論点として扱われてきたのかを見ていくのだが、とりわけ「徳倫理学」について重点的に扱う。そこで得た知見をもとに、自分自身の問題意識を深めていくことも目標とする。

【到達目標】
・近世～現代における倫理思想の主要な論点について理解を深める。
・倫理学の論点について考察するとはどのようなことなのかを理解し、実践することができる。
・様々な倫理思想に触れることで、自分自身の問題意識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は講義形式で、毎回レジュメを配布しそれを元に解説を行う。
・授業毎に、当該授業の内容に関わるリアクションペーパーを提出してもらう。
・次回授業の冒頭に、リアクションペーパーのいくつかを匿名で共有し、フィードバックを行う。
・授業最終回に、論述形式の試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と導入	徳倫理学とは
第2回	ルターと信仰	自由意志と奴隷的意志
第3回	ヒュームと徳	人間本性と共感
第4回	義務倫理	カントの自律
第5回	功利主義	幸福と利益
第6回	メタ倫理と情緒主義	「善」とは何か
第7回	ロールズと正義	善と正
第8回	アンスコムと徳①	道徳哲学の有益性について
第9回	アンスコムと徳②	行為と意図
第10回	マッキンタイアと徳	倫理思想の歴史
第11回	共同体主義と徳	個人は共同体に先立つか
第12回	現代の徳倫理学①	アリストテレスへの回帰
第13回	現代の徳倫理学②	徳倫理学は何を問うのか
第14回	倫理学的考察の実践	授業内試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメを精読することで見直し、リアクションペーパーの作成を通じて自分なりの考察を深める。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。レジュメ・資料は授業毎に配布する。

【参考書】
『倫理学入門』品川哲彦著、中公新書、2020年。
ダニエル・C・ラッセル編『ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学』立花幸司監訳、春秋社、2015年。
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記の到達目標に即して、以下の２項目にて評価する。
①授業最終回の論述試験：60％
②リアクションペーパーの内容：40％

【学生の意見等からの気づき】
板書での補足が多々あるので、見やすくなるよう心がけます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ethics is the study of how to live a good life. The goal of this course is to provide a roadmap for ethical conversations by offering an overview of the development of ethical ideas in the Western world. The key concept to focus on is virtue ethics.
【Learning Objectives】
This course aims to deepen your understanding of ethical thought from early modern to modern times, practice consideration of ethical issues, and enhance self-awareness by exploring various ethical ideas.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to review their resumes and create reaction papers to deepen their reflections.
You are required to dedicate at least four hours to studying for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%,　Reaction papers: 40%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論Ａ

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論A」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A」では、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式で行う。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	ドゥルーズの『フーコー』を読む①	古文書からダイヤグラムへ① 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『知の考古学』分析
3	ドゥルーズの『フーコー』を読む②	古文書からダイヤグラムへ② 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言語表現の秩序』分析
4	ドゥルーズの『フーコー』を読む③	古文書からダイヤグラムへ③ 1.新しい古文書学者（『知の考古学』） ・『言葉と物』分析
5	ドゥルーズの『フーコー』を読む④	古文書からダイヤグラムへ④ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『監獄の誕生』分析
6	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑤	古文書からダイヤグラムへ⑤ 2.新しい地図制作者（『監獄の誕生』） ・『性の歴史』第1巻「知への意志」分析
7	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑥	トポロジー、「別の仕方で考えること」① ・地層あるいは歴史的形成物
8	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑦	トポロジー、「別の仕方で考えること」② ・可視的なものと言表可能なもの（知）
9	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑧	トポロジー、「別の仕方で考えること」③ ・戦略あるいは地層化されないもの①
10	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑨	トポロジー、「別の仕方で考えること」④ ・外の思考（権力）
11	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑩	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・褶曲あるいは思考の内（主体化）
12	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑪	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑤ ・『性の歴史』第2巻「快楽の活用」分析
13	ドゥルーズの『フーコー』を読む⑫	トポロジー、「別の仕方で考えること」⑥ ・『性の歴史』第3巻「自己への配慮」分析
14	ドゥルーズの『フーコー』とは何だったのか？	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
・ジル・ドゥルーズ『フーコー』河出文庫、2007年
参考文献
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史―― 構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想―― サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【参考書】
参考文献
① 渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
② 岡本裕一朗『フランス現代思想史―― 構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
③ 伊東直『戦後フランス思想―― サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年
④ 船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
⑤ 船木亨『現代思想講義―― 人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
⑥ 川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

⑦ 鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点（リアクションペーパー／小テスト）（30％）（質問を3点以上用意する）
（2）期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・秋学期科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ)」と内容的に連続しているので、両方を受講することが望ましい。
・また「受講上の注意」として、秋学期科目「人間存在論Ｂ」（哲学科専門科目「人間学**5**（人間存在論）Ｂ」については、選抜試験で「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学**5**（人間存在論）Ａ」の受講許可のある学生のみが登録・履修できることに注意してもらいたい

【受講上の注意】
・本授業は、定員（**30**名）が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。
・初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course "Human Ontology A" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) A"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.
【Course Objectives】
Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.
We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj ☒ i ☒ ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

人間存在論Ｂ

2017年度以降入学者

森村　修

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の概要】
本科目「人間存在論Ｂ」〔哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ｂ」は、春学期科目「人間存在論Ａ」（哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）Ａ」との連続性がある科目である。「人間存在論Ａ」と同様に、いわゆる「現代思想」や「ポストモダン思想」（欧米では一般的に「ポスト構造主義」と呼ばれる）哲学思想の流れを歴史的に辿りながら、主要な哲学について検討する。

第二次世界大戦後から、1960年代の「政治の季節」と呼ばれる時期を挟んで、21世紀の現在に至るまでの欧米中心の西洋の哲学思想を歴史的に辿りながら、重要な哲学的なテーマを中心にして考察する。

おもに、フーコー・ドゥルーズ・デリダという「フランス現代思想」を代表する3人の哲学思想とその意義を、現代を生きる我々の視点から再考することを目的とする。その際に、彼らの哲学思想がどのように今日の哲学思想に影響をもたらしているかを、「同一性（アイデンティティ）と差異」、「マジョリティとマイノリティ」などをキー・ワードとして検討する。また、彼らの哲学を批判的に乗り越えていこうとする哲学者・思想家（ジュディス・バトラー、スラヴォイ・ジジェク、カトリーヌ・マラブーら）を視野に入れつつ、21世紀に生きる私たちの生存／実存（existence）を哲学的・倫理学的に考察する。

【到達目標】
①現代思想（モダニズムからポストモダニズム、構造主義からポスト構造主義）の歴史的概略について考察できるようになる。
②現代思想が抱えている哲学的・倫理学的問題を哲学的に考えることができる。
③哲学テキストの読解力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・基本的には、講義形式と演習形式の双方で行うことを考えている。ただし、哲学的なテーマについて、受講生との討議・議論を積極的に行なっていく。
・人数がそれほど多くない（30名定員）ことから、受講生それぞれに主要な哲学者の哲学テキストを抜粋して配布し、それを読んでもらい、テキストについての簡単な小レポート（あるいはレジュメ）を書いてもらう。授業では、各自のレポートを利用して議論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・選抜試験 ・受講上の注意点 ・授業の概要説明
2	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む①	序論①
3	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む②	1. 哲学 ① ひとつの概念とは何か
4	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む③	1. 哲学 ② 内在平面
5	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む④	1. 哲学 ③ 概念的人物
6	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑤	1. 哲学 ④ 哲学地理
7	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑥	2. 哲学―― 科学、論理学、そして芸術 ⑤ ファンクティヴと概念
8	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑦	2. 哲学―― 科学、論理学、そして芸術 ⑥ 見通しと概念
9	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑧	2. 哲学―― 科学、論理学、そして芸術 ⑦ 被知覚態、変様態、そして概念
10	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑨	3. 結論 ・カオスから脳へ
11	ドゥルーズ哲学解説①	千葉雅也『働きすぎてはいけない」① ・切断論・生成変化の原理
12	ドゥルーズ哲学解説②	千葉雅也『働きすぎてはいけない」② ・関係の外在性、存在論的ファシズム
13	ドゥルーズ哲学解説③	千葉雅也『働きすぎてはいけない」③ ・『ニーチェと哲学』における〈結婚存在論〉の脱構築
14	ジル・ドゥルーズ＋フェリックス・ガタリの『哲学とは何か』を読む⑬	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・ジル・ドゥルーズ『哲学とは何か』河出文庫、2012年
・近藤和敬『ドゥルーズとガタリの『哲学とは何か』を精読する――〈内在〉の哲学試論』講談社選書メチエ、2020年
・千葉雅也『動きすぎてはいけない―― ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』河出文庫、2017年
※ドゥルーズのテキストについては、授業参加者は必ず各自で準備すること。
※他のテキストについては、随時、こちらで準備するが、各自がなるべく準備することが望ましい。

【参考書】
①　船木亨『現代思想史入門』ちくま新書1183、2016年
②　船木亨『現代思想講義―― 人間の終焉と近未来社会のゆくえ』ちくま新書1334、2018年
③　川口茂雄・越門勝彦・三宅岳史編『現代フランス哲学入門』ミネルヴァ書房、2020年

④　鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房、2024年
⑤　渡名喜庸哲『現代フランス哲学』ちくま新書1749、2023年
⑥　岡本裕一朗『フランス現代思想史―― 構造主義からデリダ以後へ』中公新書2300、2015年
⑦ 伊東直『戦後フランス思想―― サルトル、カミュからバタイユまで』中公新書2799、2024年

【成績評価の方法と基準】
(1) 平常点（リアクションペーパー／小テスト）(30％)（質問を3点以上用意する）
(2) 期末レポート（70％）

【学生の意見等からの気づき】
・授業内の質問は授業内で解決する

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・本科目の内容は、春学期科目「人間存在論A」(哲学科専門科目「人間学5（人間存在論）A)」と内容的に連続しており、またその内容を前提しているので、できる限り両科目を受講することが望ましい。
・現代哲学のなかでも、ドゥルーズの哲学は極めて難解であり、本科目のテキストは、難解を極めるので、出席する場合は、準備を怠らないでもらいたい。

【受講上の注意】
・本授業は、定員（**30**名）が決められている。「人間存在論A」の初回の授業で、選抜試験を合格し、授業担当者から受講許可がある学生のみが受講登録できる。
・春学期「人間存在論A」の試験を未受験の人は、受講登録できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course "Human Ontology B" [Specialized Course in the Department of Philosophy, "Anthropology 5 (Human Ontology) B"] we will discuss major philosophers, tracing historically what is called "modern thought" or "postmodern thought" (commonly called "poststructuralism" in the West).

Specifically, Western philosophical thought will be traced historically from the post-World War II period through the "political season" of the 1960s to the present in the 21st century.
【Course Objectives】
Primarily, we aim to rethink the philosophical thought of Foucault, Deleuze, and Derrida, the three leading figures of "contemporary French thought," and their significance from our contemporary perspective. We will examine how their philosophical thought has influenced contemporary philosophical thought, using "identity and difference" and "majority and minority" as keywords.
We will also look at philosophers and thinkers (Judith Butler, Slavoj ☒ i ☒ ek, Catherine Marabou, etc.) who are trying to critically transcend their philosophies and examine our existence in the 21st century from a philosophical and ethical perspective.

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

木村　正俊

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水5/Wed.5
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後イギリスの政治と社会の変化とロック・ミュージックの交錯を検討することによって新自由主義と何であるかに学ぶ。特にマンチェスターのロック・シーンに注目する。また、日本との比較を行う。

【到達目標】
新自由主義について知る。
戦後イギリスの政治・社会の転換点としての1979年の意味ついて知る。
イギリスにおけるマンチェスターがもつ意味について知る。
MADCHESTERについて知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
テーマに関する文献講読、映像視聴、個人＆グループ発表、ディスカッションを行う。
授業の初めに，前回の授業に関する復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	話し合いによるゼミの具体的内容の決定
#2	映像視聴（1）	Seven Ages of Rock 3 Blank Generation: Punk rock の視聴と議論
#3	映像視聴（2）	Seven Ages of Rock 7 What the World Is Waiting For: British Indie rock の視聴と議論
#4	映像視聴（3－1）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（1）
#5	映像視聴（3－2）	マンチェスターの歴史と音楽に関する映像の視聴と議論（2）
#6	文献講読（1－1）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：ビートルズを中心に
#7	文献講読（1－2）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：豊かな社会と労働者階級の変容
#8	文献講読（1－3）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：フォーディズムの崩壊とパンクロック
#9	文献講読（1－4）	戦後イギリスの政治・社会と音楽：サッチャリズムとマンチェスター
#10	音楽聴取と映像視聴	Madchester
#11	文献講読（2）	Joy Divisin～New Order:マンチェスターの再生あるいはthe Neoliberal City化
#12	文献講読（3）	OASIS と新自由主義
#13	文献講読（4）	イギリスの労働者階級の現在：モリッシーの言説を通して
#14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回に決定

【参考書】
デヴィッド ハーヴェイ『新自由主義: その歴史的展開と現在』（作品社、2007年）
ミシェル フーコー『ミシェル・フーコー講義集成〈8〉生政治の誕生 (コレージュ・ド・フランス講義1978-79)』（筑摩書房、2008年）
小関隆『イギリス1960年代-ビートルズからサッチャーへ (中公新書, 2021年)
ジョン サヴェージ『イングランズ・ドリーミング』（シンコーミュージック、1998年）
マーク フィッシャー「もはや喜びはない――ジョイ・ディヴィジョン」 in『』わが人生の幽霊たち――うつ病、憑在論、失われた未来』(ele-king books、2019年)
Martin J. Power, Eoin Devereux, and Aileen Dillane eds, Heart and Soul: Critical Essays on Joy Division (Rowman &Littlefield International , 2018)
Leonard Nevarez, “How Joy Division Came to Sound Like Manchester:　Myth and Ways of Listening in the Neoliberal City,” Journal of Popular Music Studies, Volume 25, Issue 1, Pages 56– 76.
nevarez-how-joy-division-came-to-sound-like-manchester.pdf
ジェームズ・ナイス『ファクトリー・レコード全史』(シンコーミュージック、2025年）
横田勇司 (著), 大和田良 (写真)『マッドチェスターの光芒: ニュー・オーダーからザ・ストーン・ローゼズへ MADCHESTER 1988-1992』（スローガン、2024年）
Seven Ages of Rock (BBC, 2007)
NHK BS世界のドキュメンタリー / みんなロックで大人になった（2009年）
3 Blank Generation: Punk rock
7 What the World Is Waiting For: British Indie rock
Seven Ages of Rock - Wikipedia
Grant Gee, Joy Division (2007 DVD)
ニュー・オーダー・ストーリー (1993/2005, DVD)
デボラ カーティス『タッチング・フロム・ア・ディスタンス: イアン・カーティスとジョイ・ディヴィジョン（蒼氷社、 2006年）
バーナード・サムナー『ニュー・オーダーとジョイ・ディヴィジョン、 そしてぼく』 (ele-king books、 2015年)
ジョン サヴェージ『この灼けるほどの光、この太陽、そしてそれ以外の何もかも――ジョイ・ディヴィジョン ジ・オーラル・ヒストリー』(ele-king books、2019年)
ブレイディみかこ『いまモリッシーを聴くということ (ele-king books、2017年)
ジョニー・マー『ジョニー・マー自伝 ザ・スミスとギターと僕の音楽』（シンコーミュージック、2017年）
アレックス・ニヴン『オアシスの階級闘争《Definitely Maybe》で読み解く、音楽とポピュリズム』(DU BOOKS、2025年）
OASIS『スーパーソニック 完全、公式、ノーカット・インタビュー』（光文社、2025年）

【成績評価の方法と基準】
ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】
新規の内容のゼミなので言及すべき点はない。

【学生が準備すべき機器他】
PCあるいはタブレット

【その他の重要事項】
学期中、以下のことを考えてください。
Oh Manchester, so much to answer for

“Suffer Little Children “by The Smith
Manchester, so much to be thanksful for
Phil Gatenby
Morrissey’s Manchester: The Essential Smiths Tour: 2nd Edition(2009)

【Outline (in English)】
This seminar investigates the nature of neoliberalism through an analysis of how postwar political and social transformations in Britain intersected with the evolution of rock music, with particular attention to Manchester’s rock scene. A comparative examination with Japan is also undertaken.

SOC300LA（社会学 / Sociology 300）

福祉社会論Ａ

2017年度以降入学者

小峯　敦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉社会論Aでは「経済思想から福祉社会を考える」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。この授業では、イギリスの救貧法を出発点として、福祉に関する考え方がどのように変化していったのか、そこに経済学者を含めた多くの思想家がどのような貢献を果たしたのかを辿ります。意外にも経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の助けを借りながら、福祉社会に関する知見を学ぶたいと思います。

【到達目標】
「どのような社会が望ましいのか、福祉社会とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「経済思想から福祉社会を考える」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家の発想を借りて、現在の福祉問題（生きづらさ、学習障碍、ハラスメント、働き方、ケア、外国人排斥、少子高齢化など）に対し、触れる・知る・理解するという三段階で、外部の知を自分の血肉にするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業を次の三段階で構成します。（1）現代の福祉問題に触れる。（2）過去の経済思想を知る。（3）まとめとして、グループ討論またはreaction paperによって、自分なりに問題を理解する。授業の順序は、教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深ます。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション～福祉と／の　経済思想	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介；現代の不安・不利・不信とは何か（教科書・第１章）
2	経済の発見と福祉の問題～旧救貧法の成立まで	経済と福祉の関係；死刑や元受刑者の問題（教科書・第２章）
3	スミスと労働貧民～商業文明の開化	分業、国富；推し活（サービス業、消費文化）、外国人労働者（教科書・第３章）
4	ベンサムと改正救貧法～監獄の誕生	功利主義；マイナ保険証、監視社会（教科書・第４章）
5	マルサス・リカードの経済論争～救貧法批判へ	人口論；少子化・避妊・人工中絶（教科書・第５章）
6	J.S.ミルの協同組合～自湯主義の二側面	定常状態；不倫、選択的夫婦別姓問題（教科書・第６章）
7	マルクスの資本主義観～疎外、搾取	産業革命の負の遺産；非正規雇用、働き方改革、ハラスメント（教科書・第７章）
8	マーシャルの経済騎士道～論語と算盤	科学的貧困調査；社会的企業、企業の社会的責任（教科書・第11章）
9	ピグーの福祉経済学～welfareとは	自由党の改革；世界幸福度調査、ウェルビーイング（教科書・第12章）
10	日本の福祉思想～福田徳三と河上肇	経世済民；震災復興（教科書第16章）
11	福祉国家の合意～ケンズとベヴァリッジ	完全雇用と社会保障；生活保護は恥辱か（教科書・第17章）
12	福祉国家の変貌～ミュルダール、ハイエク、フリードマン	福祉世界へ、負の所得税；高等教育の無償化（教科書第21章・第22章・第23章）
13	サッチャー・ブレアの挑戦～リベラリズムの興隆	新しい福祉国家像；働き方改革、移民問題、正義の戦争（教科書第25章）
14	この授業のまとめ　理解度小テスト	現代の福祉問題（触れる）→過去の経済思想（知る）→討論とRP（理解する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】
・小峯敦編（2025）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。
https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10134458.html

【参考書】
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。（経済学LAの教科書）
https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html
・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。（経済学LBの教科書）
https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html

【成績評価の方法と基準】
（1）平常点：40％
（2）理解度小テスト：60％
（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の内容および提出回数、その他授業への参加度合い（特にグループ討論）等によって定めます。
（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）８割、記述式２割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ１枚）が持ち込み可能です。
（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】
資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】
「福祉社会とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】
'Welfare Society Theory A' focuses solely on "considering welfare society through economic thought", approaching this issue from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy-based. From the past to the present, society has been rife with economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. This course traces how welfare concepts evolved, beginning with Britain's Poor Laws, and examines the contributions made by numerous thinkers, including economists. Surprisingly, economists have not merely been portrayed as money-grubbers or self-serving individuals; they have offered numerous perspectives on the welfare of society as a whole. This course aims to explore insights into the welfare society with the aid of economics.

SOC300LA（社会学 / Sociology 300）

福祉社会論Ｂ

2017年度以降入学者

服部　あさこ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉は、実践と呼応しながら理論が洗練され、制度が形成されてきた。若くて健康な人々にとって福祉は身近に感じにくいが、実際には人々はみな福祉の受益者であり担い手でもある。日本の社会保障制度を軸として、形成と変動の歴史、諸外国との比較を通して、社会福祉に関連する概念を整理する。また、制度ではカバーしきれない対象への福祉実践の事例を知り、福祉がわれわれ一人一人の尊厳を守るものであることを理解する。

【到達目標】
社会保障制度について、自身ととくに深いかかわりのあるものの概略を説明できる。
諸外国の実践と比較して、日本の社会福祉の考え方の特徴を説明できる。
制度と個別のニーズは必ずしもマッチングしないという事例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、福祉のイメージ	あなたと社会福祉について思い出を教えて
2	社会福祉制度（1）	日本における社会保障制度の概要
3	社会福祉制度（2）	日本の社会福祉の歴史
4	社会福祉制度（3）	欧米の社会福祉の歴史
5	生活困窮者と福祉（1）	自分は困窮者にならないといえるか
6	生活困窮者と福祉（2）	オリンピックが排除したもの
7	子どもの福祉（1）	子どもが「守られるべき存在」ではなかった時代
8	子どもの福祉（2）	社会で育てるということ
9	女性、母子と福祉	「女ばかりが優遇される」言説の周辺にあるもの
10	障害と福祉（1）	バスはいつから低床になったのか
11	障害と福祉（2）	隔離しない国が考えていること、してきたこと
12	地域福祉	「この土地で暮らしたい」をいかにしてかなえるか
13	厚生と正義	主観的な満足は数字で測れるか
14	総括	「頑張る」ことに疲れても、安心して生きるための知

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
阿部彩、2011『弱者の居場所がない社会――貧困・格差と社会的包摂』講談社
安積純子ほか編著、1990『生の技法――家と施設を出て暮らす障害者の社会学』藤原書店
杉田真衣、2015『高卒女性の12年 不安定な労働、ゆるやかなつながり』大月書店
湯浅誠、2008『反貧困: 「すべり台社会」からの脱出』岩波新書

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等による平常点30％、期末試験70％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
Learn about Japan’s social security system.
Learn about the history of social welfare in other countries.
The standard preparation and review time for this class is two hours each.Read your notes. Research the concepts you have learned in your book.
Grades are distributed 70% based on test scores and 30% based on regular class behavior.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーA

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンが文化コンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特に文化コンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、日本化現象、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。
The goal is for students to gain the ability to analyze and evaluate each case. In particular, we would like students to strive to understand cultural content works, the potential for local content creation, the Japanification phenomenon, and the policy framework of Cool Japan, as well as to acquire a wide range of knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
観光文脈での文化コンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。また文化コンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。状況によっては授業内容の変更もあり得る。
We will consider the utility of cultural content in the context of tourism. The class will proceed by defining content tourism, examining its history, and introducing recent examples. As it can be said to be a new approach to regional development, it naturally comes with a variety of challenges, which will be discussed appropriately. We also plan to introduce the cultural content works themselves. The content of the class may change depending on the situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /Guidance.	ガイダンス/Guidance.
第2回	コンテンツツーリズムの歴史/The history of content tourism.	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯/The history of content tourism.
第3回	大河ドラマによる聖地巡礼/Pilgrimage to sacred sites through historical dramas	大河ドラマの観光的側面 /Tourism aspects of taiga dramas.
第4回	司馬遼太郎と藤沢周平/RyotaroShiba and ShoheiFujisawa.	時代小説を巡る/Exploring historical novels
第5回	韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/the charm of the Korean drama "Winter Sonata.	韓国観光の契機/Opportunity for tourism in Korea.
第6回	「水木しげるロード」ができた理由/Why Mizuki Shigeru Road" was created.	マンガ、アニメによる観光創出 /Creating tourism through manga and anime.
第7回	『らき☆すた』現象 /The Lucky Star phenomenon.	アニメツーリズムの活発化/The rise of anime tourism.
第8回	テレビドラマの聖地巡礼/「silent」「First love 初恋」 /Pilgrimage to the sacred sites of TV dramas: "Silent" and "First Love"	ロケツーリズムの紹介 /Introduction to location tourism.
第9回	ご当地ソング考1/Thoughts on local songs①.	JPOPを巡る旅1/A Journey Through JPOP1
第10回	ご当地ソング2考 /Thoughts on local songs2	JPOPを巡る旅2/A Journey Through JPOP2
第11回	「ガールズ&パンツアー」と地域振興 /"Girls &Pan Tour" and regional development.	大洗町/Oarai Town
第12回	「ラブライブ！ サンシャイン!!」と地域振興/"Love Live! Sunshine!!" and regional development.	沼津市/Numazu City
第13回	スタジオジブリ作品を巡る/Explore Studio Ghibli.	「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」など/"Whisper of the Heart" and "Spirited Away"
第14回	新海誠作品を巡る /Exploring Makoto Shinkai's works.	「秒速5センチメートル」「すずめの戸締り」/"Sparrow's Door Lock" from "5 Centimeters per Second"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。ただし状況によっては授業の内容の変更もある。
Please review the class. The standard time for preparation and review is 2 hours each. However, the content of the class may change depending on the situation.

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。
The class will focus on the resume.

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之,彩流社
「物語を旅するひとびと2」増淵敏之,彩流社
"People Traveling Through Stories" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha
"People Traveling Through Stories 2" by Toshiyuki Masubuchi, Sairyusha.

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％
30% for regular classes, 70% for reports

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。
There will also be presentations by students focusing on specific case studies.

【学生が準備すべき機器他】
映像を使用することもある。
Sometimes video is used.

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施、オフィスアワー：月16 – 18時。
Classes are generally conducted face-to-face, office hours are 4-6pm Mondays.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
Content tourism has been attracting attention recently. Traditionally, this would be called a "pilgrimage to sacred places," where fans become interested in cultural content works and travel to the locations where they are set. Explained in this way, it may not seem like anything new, but what is important is that content tourism today is not just a tourist context, but is linked to the regeneration and revitalization of local areas. This lecture will discuss the development of content tourism, focusing on domestic examples, and will also look at how the country will be perceived in the future and the creation of new schemes.

HUG300LA（人文地理学 / Human geography 300）

人文地理学セミナーB

2017年度以降入学者

増淵　敏之

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の概要としては、文化観光の一形態であるコンテンツツーリズムを軸に、その発展の過程、現状を視野に入れて論じていきます。またコンテンツツーリズムの資源である文化コンテンツそのものを生産する産業のありかたや拡張するコンテンツ（スポーツ、食文化など）にも言及していきます。授業の目的は観光行動、観光を取り巻く周辺環境の変化を読み込みつつ、コンテンツツーリズムの一般化の要因についてを明らかにしすることです。意義は日本の産業振興、地域振興のために文化コンテンツの波及に寄与するコンテンツツーリズムの活用の方法を学ぶことで、グローバル社会のなかでの競争優位を考える一助になる点にあります。

【到達目標】
・セミナーAの発展的授業です。
・学生がコンテンツツーリズムの資源となる文化コンテンツ産業振興政策及び企業のイノベーションを理解することができます。
・学生がグローバル社会の中でのコンテンツツーリズムの果たす役割、コンテンツ産業の比較優位確保の重要性を理解できます。
・日本のみならず国際的な視点から他国（韓国）のコンテンツツーリズムの現状にも言及していきます。
・This is an advanced seminarA class.
・Students will be able to understand cultural content industry promotion policies and corporate innovation that are resources for content tourism.
・Students will understand the role that content tourism plays in global society and the importance of securing a comparative advantage in the content industry.
・We will also touch on the current state of content tourism in other countries (Korea) from an international perspective, not just in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めます。適宜、授業内での議論も行い、また授業の性格上、映像資料を効果的に使っていきます。
Focus on the lecture. Discussions will be held in class as appropriate, and due to the nature of the class, video materials will be used effectively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス /guidance	授業の概要/Class outline
第2回	取り巻く環境の変化 /Changes in the surrounding environment	コンテンツを取り巻く経済，社会状況の変化についての説明 /Explanation of changes in economic and social conditions surrounding content
第3回	拡張する文化コンテンツ/Expanding cultural content	スポーツ、食文化などへと拡張する現状/The current situation is expanding to sports, food culture, etc.
第4回	文化コンテンツ産業の現状/Current state of the cultural content industry	日本の文化コンテンツ産業の概要/Overview of Japan's Cultural Content Industry
第5回	文化コンテンツ産業の東京集中と地域分散/Concentration of the cultural content industry in Tokyo and regional dispersion	文化コンテンツ産業のこれまでと今後について/The past and future of the cultural content industry
第6回	クールジャパン/Cool Japan	政府のクールジャパン政策の評価/Evaluation of the government's cool Japan policy
第7回	日本化現象 /Japanification phenomenon	日本の文化コンテンツの海外波及/The spread of Japanese cultural content overseas
第8回	デジタル化と文化コンテンツ /Digitalization and Cultural Content	流通システムの変化、バーチャル観光/Changes in the distribution system, virtual tourism
第9回	プロダクトプレイスメントとクロスメディア/Product Placement and Cross Media.	文化コンテンツ作品を活用したプロモーション/Promotion using cultural content
第10回	韓国のコンテンツ産業振興政策/Korea's content industry promotion policy	韓国のコンテンツ産業政策の評価/Evaluation of Korean content industry policy
第11回	ローカルコンテンツ /Local content	ローカルでのコンテンツ産業創出/Creating a local content industry
第12回	メディアの変化 /Media changes	メディアの多様化/Media diversification
第13回	体験的具体例の紹介 /Introduction of experiential concrete examples	札幌、岩見沢、南魚沼、宇都宮などの事例/Cases of Sapporo, Iwamizawa, Minami Uonuma, Utsunomiya, etc.
第14回	議論（日本のコンテンツの未来） /Discussion (Future of Japanese content)	日本のコンテンツは比較優位をどう取ればいいのか？ /How should Japanese content take a comparative advantage?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習、復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1時間（合計28時間）を標準とします。
Please prepare and review. The standard time for preparation and review for this class is 1 hour each (total of 28 hours).

【テキスト（教科書）】
特にありません。PP（授業資料）を配布します。
Nothing in particular. PP (class materials) will be distributed.

【参考書】
増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社
増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

Toshiyuki Masubuchi (2010) "People Traveling Through Stories: What is Content Tourism?" Sairyusha Toshiyuki Masubuchi (2018) "Local Content and Regional Revitalization: From Tourism Creation to Industrial Promotion" Suiyosha

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、レポート70％、平常点は授業での発言を評価、レポートは完成度、先行研究のサーベイ、独自性を重視して評価します。授業終了後に提出してもらいます。
Normal score 30%, report 70%, normal score evaluates remarks in class, report evaluates with emphasis on completeness, survey of previous research, and originality. Please submit after class.

【学生の意見等からの気づき】
前年度アンケートを授業に反映させていく。
The previous year's questionnaire will be reflected in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。
Nothing in particular.

【その他の重要事項】
・セミナーAを履修してから受講されることをお勧めします。
・オフィスアワー月曜日16 – 18時
・実務経験者として、さまざまな地域振興に関わっていますので、携わった事例も授業内で紹介します。
・We recommend taking Seminar A before taking this class.
・Office hours: Mondays from 4pm to 6pm
・As a person with practical experience, I am involved in various regional development projects, so I will introduce some of the cases I have been involved in during the class.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞＜研究テーマ＞＜主要研究業績＞

【文化地理学】
・『路地裏が文化を生む!: 細街路とその界隈の変容』青弓社

【観光地理学】
・増淵敏之（2010）『物語を旅するひとびと―コンテンツツーリズムとは何か？』彩流社

【地域振興】
・増淵敏之（2018）『ローカルコンテンツと地域再生　観光創出から産業振興へ』水曜社

【経済地理学】
・増淵敏之（2010）『欲望の音楽』法政大学出版局

【Outline (in English)】
The outline of the class will be to discuss content tourism, a form of cultural tourism, with a view to its development process and current situation. We will also touch upon the state of the industry that produces the cultural content itself, which is the resource of content tourism, and the expanding content (sports, food culture, etc.). The purpose of the class is to clarify the factors behind the generalization of content tourism while examining changes in tourist behavior and the surrounding environment surrounding tourism. The significance is that by learning how to utilize content tourism to contribute to the spread of cultural content for the promotion of Japanese industry and regional development, it will help us consider competitive advantage in the global society.

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論Ａ

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、私たちの日常生活の場における、他者や自然や世界についての別様の「しり方」とその表現を学ぶ。自らに対する感受性を麻痺させること（自分に対する抑圧者になること）と、様々な形の暴力の問題（植民主義／開発や自然環境破壊など）との結びつきについて学ぶ。日々の暮らしの中で自分自身への感性を取り戻すことで、他者への感受性や想像力を育むことはますます重要になっている。国内外の様々な文芸作品や映像などに触れながら、自分や世界に対する感性の回復を試み、それを足場にして自他を理解する人類学の可能性を探る。思考や分析によってのみならず、感じることや「他者」に圧倒されること、自己変容することを通じて、他者や世界、そして自分を「しる」方法を学ぶ。

【到達目標】
・自然と人間との関わり方について、異なる文化や社会の人々の視点や、環境破壊の現場を生きる人々の思想から理解できる。
・自分自身や自然に対する感性の摩耗と、植民主義／開発や自然環境破壊とが地続きであることが理解できる。
・自然とのつながりの回復を通じて、自分自身とのつながりを取り戻すという経験について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッションの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	アラスカ先住民の世界①	・アラスカ先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第3回	アラスカ先住民の世界②	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第4回	アラスカ先住民の世界③	・テーマ（土地、開発、自然、死者など）についてディスカッション
第5回	北米先住民と植物の世界①	・北米先住民の歴史、社会、文化についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第6回	北米先住民と植物の世界②わたしたちが享受するもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第7回	北米先住民と植物の世界③わたしたちがお返しするもの	・キマラー2018『植物と叡智の守り人』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第8回	水俣病の思想 ①	・水俣病についての概説 ・文献発表、ディスカッション
第9回	水俣病の思想②近代とシステム社会、「加害者」／「被害者」	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第10回	水俣病の思想 ③「魂のゆくえ」と救済、「命のふるさと」／おのれに還る	・緒方2020『チッソは私であった』の朗読 ・テーマについてデスカッション
第11回	自然と自分に対する感性を取り戻す①	・文献発表、ディスカッション ・R. カーソン『沈黙の春』
第12回	自然と自分に対する感性を取り戻す②	・R.カーソン『センス・オブ・ワンダー』の朗読 ・テーマについてディスカッション
第13回	自然と自分に対する感性を取り戻す③	・映像鑑賞とディスカッション
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、朗読に使用する文献やテキストの予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・緒方正人. 2020『チッソは私であった 水俣病の思想』河出書房新社.
・キマラー, R. W. 2018『植物と叡智の守り人:ネイティブアメリカンの植物学者が語る科学・癒やし・伝承』三木直子訳 築地書館.
・星野道夫.
1998『イニュニック』新潮社.
2000『ノーザンライツ』新潮社.
・ネルソン, R.1999『内なる島：ワタリガラスの贈り物』星川淳訳めるくまーる.
・Carson, R.
1962 Silent Spring, Houghton Mifflin. (『沈黙の春』渡辺政隆訳 光文社)
1965 The Sense of Wonder: A Celebration of Nature for Parents and Children, Harper &Row.（『センス・オブ・ワンダー』新潮社 上遠恵子訳）
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・落合一泰. 1997「東方の驚異、ワイルド・マン、インディアン、グリーザー:
近代西欧＜民族人類学＞によるアメリカ大陸の＜占有＞ー」青木保ほか編『岩波講座　文化人類学　第１巻　新たな人間の発見』岩波書店 pp. 141-80.
・松村圭一郎. 2020『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版.
・松村圭一郎、中川理、石井美保（編）2019『文化人類学の思考法』世界思想社.
（その他、必要に応じて紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表と討論の内容、毎回のリアクション・ペーパー、授業への参加態度など平常点（40％）
・学期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しない。
・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもある。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知する。

【Outline (in English)】
・The aim of this course deals with other ways of “knowing” others, nature, and the world in our daily lives. The goal of this course is to learn the relationship between numbing one’s sensitivity to oneself (becoming one’s own oppressor) and various forms of violence (colonialism/development, destruction of the natural environment, etc.). It is becoming increasingly important to nurture sensitivity and imagination toward others by regaining sensitivity to oneself in daily life. Through various literary works and videos from Japan and abroad, students will attempt to regain sensitivity to themselves and the world, and explore the possibilities of anthropology in understanding the self and others. Students will learn ways to "know" others, the world, and themselves, not only through thinking and analysis, but also through feeling, being overwhelmed by the "other," and self-transformation.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report (60%) and in class contribution including presentation and reaction paper (40%).

CUA300LA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

文化人類学方法論Ｂ

2017年度以降入学者

菊池　真理

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、これまでの文化人類学的研究における議論や実践を踏まえて、他者と自分を別様に理解し、表現する方法について学ぶ。1）理性や客観的分析による理解を見直し、身体的な経験の次元から他者や社会を捉えなおそうとする人類学の情動論、2）儀礼とパフォーマンスの人類学とにおける議論や実践、3）文化人類学の新しい民族誌の可能性を拓いている作品に触れることを通じて学ぶ。「わからないまま」他者に圧倒され、他者との新たな関係性に自分を見いだすという、他者と自分を理解することの可能性を学ぶ。また、戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）するということについて学ぶ。

【到達目標】
・人類学の情動論、儀礼とパフォーマンスの人類学的研究における議論を理解できる。
・民族誌や映像の読解だけでなく、それに揺さぶられる経験や、それを通じて他者と自分を「しる」という実践から、自他を別様に理解する方法を身につける。
・戯曲を演じることを通じて、他者に「なる」ということ、自分を「しる」ことや新たに創造（表現）する方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・基本的に、履修者による発表、朗読、ディスカッション、ドラマリーディングの形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる。
・発表者は指定する文献についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。それを受けて履修者全員でディスカッションを行う。コメンテーターは事前にコメントを準備する。
・指定するテキストを朗読し、テーマについてディスカッションを行う。
・全ての履修者は文献やテキストを熟読の上で授業に参加すること。
・リアクション・ペーパーなどで履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の進め方、受講上の注意点 ・学生の自己紹介（本講義を受講した理由・動機など）
第2回	情動の人類学①	情動の人類学的研究の紹介
第3回	情動の人類学②	文献発表とディスカッション
第4回	別様の「しり方」と表現①	スリランカ、内戦についての概説
第5回	別様の「しり方」と表現②	映像鑑賞
第6回	別様の「しり方」と表現③	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第7回	別様の「しり方」と表現④	初見2021『ハレルヤ村の漁師たち』の朗読、ディスカッション
第8回	他者の傷みの「しり方」	・スリランカ内戦にまつわる憑依儀礼に関する民族誌的研究の紹介 ・ディスカッション
第9回	儀礼とパフォーマンスの人類学①	儀礼・パフォーマンス研究についての講義
第10回	儀礼とパフォーマンスの人類学②	文献発表とディスカッション
第11回	儀礼とパフォーマンスの人類学③	文献発表とディスカッション
第12回	ドラマリーディング①他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第13回	ドラマリーディング②他者に「なる」／自分を「しる」	戯曲を演じる実践
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表、ディスカッション、朗読、ドラマリーディングに使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
・発表のための資料作成やプレゼンテーション、朗読、ドラマリーディングの練習を行う。
・本授業の準備学修・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・シェークナー，R. 1998『パフォーマンス研究：演劇と文化人類学の出会うところ』高橋雄一郎訳 人文書院
・ターナー，V. 1996『儀礼の過程』新思索社.
・初見かおり 2001『ハレルヤ村の漁師たち：スリランカ・タミルの村 内戦と信仰のエスノグラフィー』左右社.
（その他、必要に応じて関連資料を配布する。）

【参考書】
・小栗宏太 2022「情動の人類学：感情史との対話」『文化人類学』87(1): 94-105.
・西井涼子 2013『情動のエスノグラフィー：南タイの村で感じる・つながる・生きる』京都大学学術出版会.
・西井涼子・箭内匡編 2020『アフェクトクス（情動）：生の外側に触れる』京都大学学術出版会.
・Das, V. 2015. What does Ordinary Ethics Look Like. In M. Lambek, V. Das, D. Fassin, and W. Keane (eds) Four Lectures on Ethics: Anthropological Perspectives, pp. 53-117. The University of Chicago Press.
・Lawrence, P. 1997. Work of Oracles, Silence of Terror: Notes on the Injury of War in Eastern Sri Lanka. unpublished Ph.D. thesis submitted to the Faculty of the Graduate School of the University of Colorado.
———. 2000. Violence, Suffering, Amman: The Work of Oracles in Sri Lanka's Eastern War Zone. In Veena Das et al. (eds) Violence and Subjectivity, pp.171-204. Oxford University Press.
（以上の他、授業時に適宜紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
・発表内容、リアクション・ペーパー、演劇、授業への参加態度など平常点（40％）
・映像鑑賞文（10％）
・学期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】
受講にあたって、文化人類学の基本的な考え方や方法論についての理解が必要となります。文化人類学の科目を受講したことがない学生さんを含め、事前に指定する課題文献に目を通しておいて下さい。初日の授業内でも短い概説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。

・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn theoretical discussion on anthropology of affect and anthropology of performance, and feeling and performing ethnography to explore possibilities of anthropology. The goals of this course are to understand different ways of understanding and expressing others and oneself. In addition, through performing a play, students will learn about what it means to "become" others, to "know" oneself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on final report(50%), briefing paper on short film(10%) and in class contribution including presentation and reaction paper(40%).

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

犬塚　元

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想Ⅰ」として履修することになります。

【到達目標】
・英文翻訳のスキルアップをめざす人、
・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
・人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
・哲学や思想史に興味のある人、
・機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
・少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。
原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
２０２３年度・２０２４年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】
ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）１００点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】
担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、２０２０年、『ヒューム　イングランド史I/II』名古屋大学出版会、２０２５年）。

【Outline (in English)】
Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA（政治学 / Politics 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

犬塚　元

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業ですこしずつ検討していきます。今年度に扱うテキストは、デイヴィッド・ヒュームの書簡です。
＊この授業は、ILACの総合科目（300番台）ですが、法学部政治学科のみなさんのみ、政治学科選択科目「政治思想II」として履修することになります。

【到達目標】
・英文翻訳のスキルアップをめざす人、
・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人、
・人文学・社会科学の研究者志望の人、大学院進学に興味がある人、
・哲学や思想史に興味のある人、
・機械翻訳の精度を確かめてみたい人、
・少人数・双方向のきちんとした授業を履修したい人、
など、各人のニーズに応じた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
春学期の続き。担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ検討していきます。高校生が読んで理解できる翻訳をつくるのが目標です。一緒に作業をおこなっていきましょう。
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。
原則として対面開講を予定。課題等のフィードバックは授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	ヒュームの書簡
3	翻訳の検討	ヒュームの書簡
4	翻訳の検討	ヒュームの書簡
5	翻訳の検討	ヒュームの書簡
6	翻訳の検討	ヒュームの書簡
7	翻訳の検討	ヒュームの書簡
8	翻訳の検討	ヒュームの書簡
9	翻訳の検討	ヒュームの書簡
10	翻訳の検討	ヒュームの書簡
11	翻訳の検討	ヒュームの書簡
12	翻訳の検討	ヒュームの書簡
13	翻訳の検討	ヒュームの書簡
14	翻訳の検討	ヒュームの書簡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読み、英語原文や機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所・改善すべき箇所、（2）英語の読解として疑問や問題がある箇所、をリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】
今年度は、デイヴィッド・ヒューム（1711-1776）の書簡（手紙）を翻訳します。必要なテキストは、履修者に配付します。
２０２３年度・２０２４年度は、ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）をテキストとしていましたが、今年度は、手紙の翻訳なので、哲学書を訳す場合とは異なる翻訳スキルが必要となります。

【参考書】
ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）１００点。欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】
コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありません。分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】
担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作もいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、２０２０年、『ヒューム　イングランド史I/II』名古屋大学出版会、２０２５年）。

【Outline (in English)】
Hands-on Training in Translation: Translating David Hume's correspondences into Japanese. This class can contribute to the improvement of your English-Japanese translation skill and your understanding on the history of ideas. Students are required to prepare for the class for more than four hours every week. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学Ａ

2017年度以降入学者

田中　慎太郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学には、人生上の様々な困難に対応する上で、仏教に代表される歴史のある精神文化と協働を深める動きがある。本授業では、マインドフルネスに関する文献の丁寧な精読を通して、現代心理学と精神文化の協働の在り方に理解を深める。

【到達目標】
・マインドフルネスがどのような実践なのか説明出来るようになること
・自分自身の日常の体験を元に、マインドフルネスに関連した心理学的現象に理解を深めること
人間行動学Ｂとの連続履修を勧める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。受講生全員が、三回目以降、授業前までに指定された箇所について精読を行う。授業は、担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、マインドフルネスの実践演習を行うことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス/マインドフルネスとは何か	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	現代心理学と仏教の接近の背景	近年の心理学と仏教の関連について説明する。学生発表の順番を決定する
第三回	『仏教と心の科学の出合い』序文～第１章 マインドフルネスを紐解く」	・担当者の発表とディスカッション
第四回	『仏教と心の科学の出合い』第２章こころの地図１～４	・担当者の発表とディスカッション ・自動操縦、知覚プロセス
第五回	『仏教と心の科学の出合い』第２章こころの地図５～８	・担当者の発表とディスカッション ・体験の入り口としての注意、不一致モニター
第六回	マインドフルネス認知療法の体験実習①	・呼吸瞑想の実習
第七回	『仏教と心の科学の出合い』第３章こころの地図１～４	・担当者の発表とディスカッション ・さまよう心、文脈
第八回	『仏教と心の科学の出合い』第４章仏教心理学の地図	・担当者の発表とディスカッション ・２本の矢、悩みの３つの領域
第九回	マインドフルネス認知療法の体験実習②	・マインドフルムーブメントの実習
第十回	『仏教と心の科学の出合い』第５章悩みと苦しみの統合された地図	・担当者の発表とディスカッション ・悩みと苦しみの維持、悪の花
第十一回	『仏教と心の科学の出合い』第６章変容	・担当者の発表とディスカッション ・注意を安定させる、洞察
第十二回	『仏教と心の科学の出合い』第７章実践における心情	・担当者の発表とディスカッション ・四つの態度
第十三回	マインドフルネス認知療法の体験実習③	・困難と共に座る瞑想の実習
第十四回	全体のまとめ	・受講者全員で、本授業での学びを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講生は、第一回、第二回の講義の合間に教科書全体を通読し、その後、授業でのディスカッションと実習を繰り返しながら、教科書の精読を行う。

【テキスト（教科書）】
クリスティーナ・フェルドマン＆ウィレム・カイケン「仏教と心の科学の出合い　マインドフルネス」（北大路出版、2024年）

【参考書】
ケネス・タナカ「アメリカ仏教」（武蔵野大学出版、2010年）
シャロン・ペグリー「「脳」を変える「心」」（バジリコ、2010年）

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（60%）
期末レポート（40%）
期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【その他の重要事項】
本科目では、マインドフルネスを体験的に理解する上で、講師の主導による、マインドフルネスの実践演習が含まれる。マインドフルネスの実践は運動に似ており、受講生は自分への負荷に応じて中断をしたり、参加せずに静かに過ごすことも選択が出来る。

【Outline (in English)】
Modern psychology has increasingly engaged with spiritual traditions — most notably Buddhism — in addressing various difficulties encountered in life.
In this course, students will deepen their understanding of how contemporary psychology can collaborate with long-standing spiritual traditions through the careful close reading of key texts on mindfulness.

PSY300LA（心理学 / Psychology 300）

人間行動学Ｂ

2017年度以降入学者

田中　慎太郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の心理療法の知見を学び、可能な範囲で実践（実験）を試みることを通して、人間および人間の行動に関して体験的に視野を広げることを目的とする。本授業ではACT（アクセプタンス＆コミットメント・セラピー）の基礎を学ぶ。

【到達目標】
・人間行動学Aでのマインドフルネスの学びを踏まえて、ACT（アクセプタンス＆コミットメント・セラピー）の概要を理解すること
・「人間の行動」を現代の行動主義心理学がどのように扱うのかの概要を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は対面でのゼミ形式（学生発表と議論）で行う。担当する学生が発表を行った後の、受講生全員でのディスカッションを中核とするが、講師の主導に基づき、ACT/マインドフルネスの実践演習を行うことがある。担当箇所や授業の進め方は受講生のニーズに応じて変更・調整を行う。人間行動学Aからの連続受講を推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	授業の概要・進め方・注意事項の説明を行う
第二回	「ハピネス・トラップ」第一部	・担当者の発表とディスカッション ・幸福、前進行動、後退行動
第三回	「ハピネス・トラップ」第二部①	・担当者の発表とディスカッション ・脱フュージョン、エクスポージャー
第四回	「ハピネス・トラップ」第二部②	・担当者の発表とディスカッション ・セルフコンパッション、マインドフルネス
第五回	「ハピネス・トラップ」第三部	・担当者の発表とディスカッション ・価値、コミットされた行為
第六回	前半の振り返り	・前半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第七回	人間関係①	・担当者の発表とディスカッション ・普遍的な人間関係に対するACTの応用を検討する
第八回	人間関係②	・担当者の発表とディスカッション ・身近な人間関係にACTの応用を検討する
第九回	自信と行動①	・担当者の発表とディスカッション ・自信について考える
第十回	自信と行動②	・担当者の発表とディスカッション ・自信についてACTの応用を検討する
第十一回	人生の困難①	・担当者の発表とディスカッション ・人生の困難について検討する
第十二回	人生の困難②	・担当者の発表とディスカッション ・人生の困難に対するACTの応用を検討する
第十三回	後半の振り返り	・後半部分の受講生全員での内省とディスカッション
第十四回	全体の総括	・授業全体の受講生全員での内省とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ラス・ハリス(2023)「定本ハピネストラップ　マインドフルに生きたい人のための心理療法ACT入門」筑摩書房

【参考書】
ラス・ハリス（2019）「相手は変えられないならば自分がかわればいい　マインドフルネスと心理療法ACTでひらく人間関係」筑摩書房
ラス・ハリス（2021）「自分自身にやさしくすれば悩みの出口がみえてくる　マインドフルネスと心理療法ACTで人生のどん底からはい上がる」筑摩書房
ラス・ハリス（2019）「自信がなくても行動すれば自信はあとからついてくる　マインドフルネスと心理療法ACTで人生が変わる」筑摩書房

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（60%）
期末レポート（40%）
期末レポートの文字数はクラスで発表した学生は約2,000文字以上、発表しなかった学生は約3,000文字以上とする。講義中に行うマインドフルネスの実習への参加や中断の有無は、成績評価に反映されない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき、アンケートは実施していない。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出に学習支援システムを使う場合がある。

【その他の重要事項】
・本授業は、主に心理学・臨床心理学を専攻としていない学生を想定しているが、自分の体験や行動に関心を持ち、学んだことを試してみる気概のある学生であれば、学部学科と問わず歓迎したい。
・本授業では、教科書や参考書に書かれている作業を試してみるかどうかを各自が選択する場面がある。実際に作業を試したか否かは成績評価に関係しない。
・本授業はあくまで講義であるため、本授業は、直接に心身の健康向上に寄与するものでも、医療専門職の診察や支援を代替するものでもない。

【Outline (in English)】
This course aims to foster an experiential understanding of clinical psychology by introducing key concepts from contemporary psychotherapy and, where appropriate, engaging in limited practical exercises. The course focuses on the fundamentals of Acceptance and Commitment Therapy (ACT).

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄を知るための基礎知識①	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②	沖縄の歴史と地理に関する概説
4	琉球沖縄の歴史①	考古学からみた琉球沖縄（先史時代）
5	琉球沖縄の歴史②	「古琉球」時代
6	琉球沖縄の歴史③	「近世琉球」時代
7	琉球沖縄の歴史④	「近代沖縄」
8	琉球沖縄の歴史⑤	「沖縄戦」
9	琉球沖縄の歴史⑥	「戦後沖縄」
10	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の言語
11	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の文学
12	琉球沖縄の文化③	琉球沖縄の芸能①
13	琉球沖縄の文化④	琉球沖縄の芸能②
14	春学期のまとめ	琉球沖縄を再考する視点をめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。
学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この春学期の授業の前半は基礎的な内容に重点を置いており、秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA（地域研究（東アジア）/ Area studies(East Asia) 300）

沖縄を考えるB

2017年度以降入学者

中野　勝郎、大里　知子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】
毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業は、オムニバス形式でおこないます。シラバス作成時点では各回の担当講師が決まっていないため、シラバスの内容は暫定的です。
初回の授業までには、Hopiiで確定版のシラバスをアップします。沖縄文化研究所HPでも公開しますので確認してください。
授業はすべて対面でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講にあたっての諸注意、オムニバス授業についての説明など
2	沖縄の政治①	沖縄の政治問題
3	沖縄の政治②	日本の中の沖縄
4	沖縄の社会①	沖縄の経済
5	沖縄の社会②	沖縄のジェンダー問題
6	琉球沖縄の芸術①	琉球沖縄の美術工芸
7	琉球沖縄の芸術②	琉球沖縄の音楽
8	平和を考える①	沖縄の視点から平和を考える①
9	平和を考える②	沖縄の視点から平和を考える②
10	沖縄の自然環境①	沖縄の自然
11	沖縄の自然環境②	沖縄の環境問題
12	琉球沖縄の文化①	琉球沖縄の食文化
13	琉球沖縄の文化②	琉球沖縄の祭祀
14	秋学期のまとめ	「万国津梁」と沖縄

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2.毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3.本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】
なし。各回の講義に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席票：リアクションペーパー付き）（50点）と学期末レポート（授業最終回に教室で作成）（50点）によって成績評価をします。
学期末レポートの作成の仕方については追って指示します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の「沖縄を考えるA」の前半は基礎的な内容に重点を置いており、この秋学期の「沖縄を考えるB」とともに通年で履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論Ａ

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Aでは、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EUの経済政治統合（EU統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中でのEUの新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを身に着けられる。
・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に着けられる。
・米中だけでなく、もう1つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とします。
必要に応じて英語での解説も加えます。
後半にグループディスカッションが入ります。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 国際体制の変容の理論	政治と経済 政治経済学とは？ 学際的アプローチとしての国際政治経済学 世界情勢と政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論１	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 （理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義）
3	国際政治経済学基礎理論２	新たな学際アプローチへの基礎理論 （重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学（アダム・スミス、リカード、J.Bセイ）
4	国際政治経済学基礎理論３	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 （ケインズ経済学の思想と理論）
5	19世紀ガバナンス体制	19世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開１	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開２	ECからEUへ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生
9	グローバル市場化の進行と国際ガバナンスの分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融危機 （リーマンショックの展開と衝撃）
10	グローバル市場化と国際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EUソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台頭とEUの分断危機	世界格差の進行と反グローバリズムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波及と反統合、EU民主主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化とEU民主主義の危機
13	EUの東欧拡大とウクライナ戦争	EU統合拡大の文脈から見たウクライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80％
課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】
世界で起こっている様々な問題をより深く理解できるようになった。
ヨーロッパの現状についての理解が深まった。
などの感想をいただきました。
今年度も興味を刺激する授業を心がけていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
「ヨーロッパ政治経済論B」では、直面する問題とEUの新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.
At the end of the course, students
・ Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
・ Should have comprehensive knowledge about EU and its relation in the world.
・Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA（経済学 / Economics 300）

ヨーロッパ政治経済論Ｂ

2017年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ政治経済論Ｂでは、ヨーロッパ政治経済論Ａで学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生起した問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EUの分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EUが地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対するＥＵの新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に着け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義を中心とします。
必要に応じて英語での解説を加えます。
授業後半にグループディスカッションを行います。
最終回（第14回）に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論Aのレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 （体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学）
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 （市場経済と統治、史的推移5つのフェーズ）
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体（EC）の形成	戦間期からECSC、EC形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり
5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大とEC機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断１	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断２	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭とＥＵ内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国のＥＵ脱退（BREXIT）	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合（英国）vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係
11	市場と国家の力学構造の変質	情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中の統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー ブリュッセル効果、グリーンディール、SDG s における主導的役割 EUの立ち位置と日本への示唆
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EUの対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習１時間、復習時間３時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝80%
課題およびディスカッションへの参加＝20%

【学生の意見等からの気づき】
国際社会が直面する様々な問題、特にロシア・ウクライナ問題に対するEUの立ち位置が理解できた、また変容するグローバル社会におけるEUの役割を理解できた、などの感想をいただきました。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】
None.

【Outline (in English)】
This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.
At the end of the course, students
・Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
・ Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
・ Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA（法学 / law 300）

法の人間学Ａ

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。
人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。
秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法制度と人間の生命や生き方が関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法制度と人間本性（1）	もしも法がなかったらどうなるか？
第3回	法制度と人間本性（2）	ホッブズの自然状態について
第4回	法制度と人間本性（3）	ロックの自然状態について
第5回	法制度と人間本性（4）	ルソーの自然状態について
第6回	死刑制度の是非（1）	死刑制度の歴史と現状について
第7回	死刑制度の是非（2）	袴田事件について
第8回	死刑制度の是非（3）	死刑制度をめぐる立場の対立について
第9回	裁判員制度と死刑（1）	国民が刑罰を決める意義と問題点について
第10回	裁判員制度と死刑（2）	法制度と個人の生命の関係について
第11回	人工妊娠中絶（1）	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第12回	人工妊娠中絶（2）	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第13回	人工妊娠中絶（3）	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第14回	人工妊娠中絶（4）	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】
小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の６つの視点』中公新書、2018年
ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ！』ちくま新書、2022年
萱野稔人『死刑　その哲学的考察』ちくま新書、2017年
塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
秋学期開講の「法の人間学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学B」も続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.
(Learning Objectives)
At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.
In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA（法学 / law 300）

法の人間学Ｂ

2017年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。
人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。
春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は20人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】
①法制度と人間の生命や生き方が関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法と道徳と復興増税（1）	法と道徳の関係について
第3回	法と道徳と復興増税（2）	「危害のない不道徳行為」の規制について
第4回	法と道徳と復興増税（3）	支援の法的義務について
第5回	法と道徳と復興増税（4）	個人の自由と法的強制の関係について
第6回	一夫一婦制と婚姻の自由（1）	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第7回	一夫一婦制と婚姻の自由（2）	一夫一婦制の根拠について
第8回	一夫一婦制と婚姻の自由（3）	契約婚の考え方について
第9回	一夫一婦制と婚姻の自由（4）	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第10回	代理出産と親子関係（1）	親子に関する法的取り扱いについて
第11回	代理出産と親子関係（2）	代理出産の歴史と現状について
第12回	代理出産と親子関係（3）	代理出産をめぐる最近の事例について
第13回	代理出産規制の是非（1）	代理出産規制をめぐる法的論点について
第14回	代理出産規制の是非（2）	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。（レジュメや配布資料に即して授業を進める。）

【参考書】
小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003年
神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の６つの視点』中公新書、2018年
蔵研也『リバタリアン宣言』朝日新書、2007年
森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001年
ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下)講談社、1995年
デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000年
ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993年
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業の中で課す小論文課題（もしくは授業内試験）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文課題（授業内試験）：80％、コメント等：20％の予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】
履修人数は20人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。
春学期開講の「法の人間学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学A」から続けて履修すること。（春学期の「法の人間学A」受講者には、秋学期の「法の人間学B」の履修を優先的に認める。）
あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.
(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.
In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで，コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され，我々の生活に深く関わっている．その一方で，多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり，その動作原理に触れる機会が十分あるとは思われない．こうした背景の下で，魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て，「コンピュータの箱の中がどのようになっているか？」「そうした機械仕掛けの上で，言語に関する様々な処理ができるのは何故なのか？」などの疑問に対して解説・実験する．

【到達目標】
本講義では「コンピュータの仕組を理解すること」を目標としている．（例えば，電卓とPCの違いを尋ねられた時，皆さんは説明できるでしょうか？）また，「コンピュータでの言語処理に関する幾つかの活用法を体験して，その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている．（例えば，コンピュータに大量の文章データを機械学習させると，各単語を数値データとして捉えるようになり「東京-日本＋フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります．同様に「法政大学- 東京＋大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるでしょうか？ 実際に実験してみれば確認できます．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する．（特に，手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして，作業面で負担が掛からないように配慮します．）学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	PCが動作する様子とその特徴を紹介する．
第02回	計算機の歴史	コンピュータ開発の歴史を解説する．
第03回	計算できる言語(1)	電卓的な機械の仕組みについて解説する．
第04回	計算できる言語(2)	電卓的な仕組みで計算できる言語について紹介する．
第05回	計算できる言語(3)	そのような言語の計算を日常文書の編集に活用する例を学ぶ．
第06回	計算できる言語(4)	そのような言語の計算を表計算に活用する例を学ぶ．
第07回	計算機のしくみ(1)	汎用コンピュータの理論的な仕組みについて紹介する．
第08回	計算機のしくみ(2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する．
第09回	計算機のしくみ(3)	コンピュータにおける文字・数値の表現を確認する．
第10回	自然言語とAI(1)	Web上でプログラムを動かす方法を確認する．
第11回	自然言語とAI(2)	日本語の文章を品詞に分解する方法を学ぶ．
第12回	自然言語とAI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる．
第13回	自然言語とAI(4)	学習済みAIを用いて法政大学のシラバス文章を分析する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で，内容を体験できればと考えています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です．課題なども相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．）

【Outline (in English)】
We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.
Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

コンピュータと数理の活用

2017年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学で勉強する様々な計算方法は理にかなったものであるが，それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い．（平均値を計算する方法自体は分かっていても，実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない．）一方で，身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり，大きな問題こそ答を知りたいという現状がある．こうしたジレンマに対して，コンピュータによって人間の計算力不足を補い，実生活で直面するような大規模な問題の答を求める経験は重要となる．そこで，講義では，様々な分野の中で「数学の計算方法」と「コンピュータの計算力」を組合せて活用する事例を体験することを主な目的としている．

【到達目標】
講義では「プログラムを自分で設計・作成すること」までは想定せず，あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し（場合によっては自分好みに調整して）活用の勘を養うこと」を目標としている．（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて，1つの課題が理解できなくても，次の課題に影響を与えることが少ないことになります．）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
進度や難易度等は受講生の様子を考慮して対応する．（特に，手間が掛かる内容は教員によるデモンストレーションによって確認することにして，作業面で負担が掛からないように配慮します．）学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり，詳細は学習支援システムに提示する．課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は，直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する．
第02回	コンピュータで数学(1)	Web上でプログラムを実行する方法について説明する．
第03回	コンピュータで数学(2)	大政奉還があった日は何曜日か計算してみる．
第04回	コンピュータで数学(3)	SymPyと呼ばれる関数電卓機能を統計に活用してみる．
第05回	平方根の計算(1)	開平法と呼ばれる筆算で平方根を計算してみる．
第06回	平方根の計算(2)	より効率的な方法で平方根を限りなく正確に計算してみる．
第07回	行列の応用(1)	数学の知識として，行列の掛算について学ぶ．
第08回	行列の応用(1)	行列の掛算を行うプログラムを紹介する．
第09回	行列の応用(3)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する．
第10回	経営計画への応用(1)	上手な経営計画を立てるための数学分野を紹介する．
第11回	経営計画への応用(2)	上手な経営計画を立てるプログラムを紹介する．
第12回	経営計画への応用(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行ってみる．
第13回	機械学習への応用	機械学習を行うプログラムを紹介する．
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ，課題に関する総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある．本授業の準備学習・復習時間は，各2時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない．

【参考書】
テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である．

【成績評価の方法と基準】
授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)，計算機を使う小課題(50%)を行い，平常点(10%)と共に取り組みを評価する．

【学生の意見等からの気づき】
普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて，少しずつ内容・難易度の調整に反映している．

【その他の重要事項】
受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない．（予備知識のない学生にとっても負担にならない程度で，内容を体験できればと考えています．実験についても，特別な電算環境は必要なく，このWebシラバスが読める方でしたら大丈夫です．課題などは，相談しながら気軽に進められるようにしたいと思います．プログラミング言語に限らず，知っていると有利なアプリケーションなどを見つけたら，積極的に使い方を紹介してみたいと考えています．）

【Outline (in English)】
We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.
To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting.Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界Ａ

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率を学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
　春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し，代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	確率の基礎１	確率とは
第3回	確率の基礎２	確率の性質
第4回	確率の基礎３	確率空間とは
第5回	確率の基礎４	事象の独立性
第6回	確率の基礎５	確率変数の使い方
第7回	確率の基礎６	期待値とは
第8回	確率の基礎７	期待値の性質
第9回	確率の基礎８	分散とは
第10回	確率分布１	分散の性質
第11回	確率分布２	二項分布とは
第12回	確率分布３	二項分布の性質
第13回	確率分布４	二項分布の期待値と分散
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　教科書は特に指定しない。

【参考書】
　特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

確率の世界Ｂ

2017年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木4/Thu.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、数学の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば確率や統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】
　秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の概要
第2回	様々な分布１	離散分布とは
第3回	様々な分布２	ポアソン分布とは
第4回	様々な分布３	ポアソン分布の性質
第5回	様々な分布４	ポアソン分布と二項分布
第6回	様々な分布５	正規分布とは
第7回	様々な分布６	正規分布の性質
第8回	様々な分布７	正規分布と二項分布
第9回	推定と検定１	標本の定義
第10回	推定と検定２	標本平均と標本分散
第11回	推定と検定３	点推定
第12回	推定と検定４	区間推定
第13回	推定と検定５	仮説と棄却
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　教科書は特に指定しない。

【参考書】
　特になし。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80％）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、「確率の世界A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%、Short reports 20%.

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

集合論A

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か　〜〜〜　無限の個数

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限の「大きさ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例を一つ以下に挙げよう。〜〜〜
普通のサッカーは１チーム11人であり、反則により退場者が出た側は不利になるが、自然数と同じ数だけ選手のいる２つのチームが試合をした場合はどうであろうか。赤組と白組それぞれ背番号１、２、３、…の選手全員で試合をしていたところ、赤組は奇数番号の選手が皆退場してしまい、背番号２、４、６、…の選手だけ残った。そのとき赤組の選手が自分と同じ背番号の白組の選手に付けば、白組の奇数番号の選手が動き回るので大変不利である。しかし赤組の選手が自分の半分の番号をつけた白組の選手に付けば、つまり赤２が白１、赤４が白２という具合に対応したら、互角に戦うことができる。さらにこの考えを進めれば、赤組のほうが逆に有利になる戦略を見つけ出すことさえ可能である。どのようにすればよいか。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・無限集合が持つ、有限集合とは異なる性質とは？
・無限にも大小はあるか。１個、２個、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	無限の不思議	概要説明
第2回	集合の表記	外延と内包
第3回	部分の全体	冪集合
第4回	対応関係	写像の定義
第5回	特別な対応	全射と単射
第6回	「3」とは	全単射
第7回	無限の大きさ	濃度の定義
第8回	最小の無限	可算集合
第9回	真に大きい？	有理数全体
第10回	色々な単語	可算な文字列
第11回	真に大きい！	対角線論法
第12回	小数表記	実数全体
第13回	無限に大きく	冪集合再考
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（１）秋期科目「集合論Ｂ」の予備知識となる内容を含む。
（２）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理３（集合論）Ａ」。

【Outline (in English)】

[Course outline]
This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite cardinal numbers.

[Learning Objectives]
By the end of the course, students should understand the defference between countable sets and uncontable sets,

[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

MAT300LA（数学 / Mathematics 300）

集合論Ｂ

2017年度以降入学者

安東　祐希

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火1/Tue.1
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無限とは何か　〜〜〜　無限の順序

無限集合についての数学を学ぶ。特に、無限列の「長さ」について考察し、それらの比較方法を学ぶ。具体例を一つ以下に挙げよう。〜〜〜
長男一郎、次男二郎、三男三郎の三人兄弟を一列に並べるとき、並べ方は全部で６通りある。そこで、先頭になった者を改めて長男、中央を次男、末尾を三男と呼ぶことにすると、６通りのいずれも、長男、次男、三男という兄弟構成ができることに変わりはない。さて、同じような並べ替えを、長男一郎、次男二郎、三男三郎、…と、各自然数ｎに対してｎ男のｎ郎がいるような無限の兄弟で行うとどういうことが起こり得るであろうか。例えば、長男を二郎、次男を三郎、三男を四郎、…とし、さらに一郎は他の誰と比べても弟として全員を並べてみよう。このとき、元々の長男、次男、三男、…よりも「長く」伸びた兄弟構成ができる。人の集合としては同じであるが。では、もっと長い構成とするには、どうすればよいか。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・物を並べる、つまり物の間に順番を与える、とは？
・無限の物を並べられるか。１番、２番、…の先は？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	二種類の数	基数と序数
第2回	派閥分け	同値関係
第3回	順序とは	順序集合
第4回	順序の練習	有限順序集合
第5回	順序の形	同型写像
第6回	比較可能性	線形順序
第7回	無限に降下？	整列順序
第8回	順序の順序	順序数
第9回	直線上の表現	実数の部分順序
第10回	順序をつなぐ	順序数の和
第11回	順序上の順序	順序数の積
第12回	順序と写像	順序数の冪
第13回	日常の順序	順序数の実例
第14回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は4時間である。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
・志賀浩二『集合への30講』（朝倉書店）1988年、新装改版2024年
・上江洲忠弘『集合論・入門』（遊星社）2004年、増訂版2013年
・松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店）1968年、新装版2018年

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60％）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40％）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】
（１）春期科目「集合論Ａ」で扱う内容を既知として授業を進める。
（２）文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理３（集合論）Ｂ」。

【Outline (in English)】

[Course outline]
This course deals with the basic concepts of set theory, especially infinite ordinal numbers.

[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to generate "longer" orders on the set of natural numbers.

[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated according to the following process:
Term-end examination (60%) and quizes in class (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起こっているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】
・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験をを通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起こっている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について学ぶ。
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。
[11]	核融合反応	太陽の中で起こっている核融合反応について学ぶ。
[12]	ミューオン	ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
[13]	反物質	相対論により存在が予言された反粒子について学ぶ、
[14]	まとめ	特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著
　(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
　(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

相対性理論と宇宙Ｂ

2017年度以降入学者

石川　壮一

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中は相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】
・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリンゴと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がりの理解	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。
[12]	ブラックホール（１）	ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
[13]	ブラックホール（２）	銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
[14]	重力波	重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】
一般向けの相対性理論の解説書として：
・「超」入門相対性理論 : アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著
(ブルーバックス ; B-2087)、（講談社、2019.2）
・ゼロからわかる相対性理論 : 物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論
(ニュートン別冊)、（ニュートンプレス、2019.2）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート(60%)と小テスト等の平常点(40%)から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.
The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ａ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。
本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか？（１）―化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか？（２）―気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか？（３）―気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？（１）―元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？（２）―電気分解や原子が出す光	第５回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造（１）―電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造（２）―量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ（１）と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ（２）と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

現代の錬金術Ｂ

2017年度以降入学者

井坂　政裕

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展(失敗)によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金(元素)を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。
本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行う。
秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第１３回授業においてその講評や解説を行う。
講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第8回	標準模型	第７回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第10回	宇宙における元素合成（１）―ビッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（２）―恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（３）―恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第14回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配付資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績(70％)と平常点(30％)で評価する。期末試験では、授業中に配付した資料やノート、メモなどの参照を可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
・Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
・Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
・Describe the importance of accelerators in the modern physics
・Explain the origin of matters in the universe
・Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination (70%) and usual performance score (30%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子A

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。
この授業では、ミクロの世界に焦点をあてて、生物や地球、宇宙における元素存在比の話題からスタートして、結晶構造とその構造が生じる原因となる原子の構造、そしてそれらに関連する様々な現象・応用についての理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】
この講義では、原子、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。また、元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期表	元素周期表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第5回	結晶構造	物体がもつ３次元的な立体構造について解説し、氷やダイヤモンド等いくつかの具体例を紹介する。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質について解説する。
第7回	原子のスペクトル	原子から光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつ仕組みについて紹介する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象（超伝導・超流動）について紹介する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について解説する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course mainly introduces the atom by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the abundance ratio of elements not only on the Earth but also in the universe, the structure of crystal and atom, and the various phenomena and applications related to these. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA（物理学 / Physics 300）

原子核と素粒子Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　智

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていました。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当しています。
この授業は、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深めると共に、原子核反応の応用技術についても理解を深めることを目的としています。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定です。

【到達目標】
この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としています。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第5回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉の構造などについて紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉などの核融合反応の応用について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第9回	太陽ニュートリノ問題とニュートリノ振動	スーパーカミオカンデなどで行われているニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クオークとレプトン）	現時点でのこの宇宙における万物の基となる素粒子などについて紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	宇宙論などの最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題(70%)と期末レポート(30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】
This course introduces the nucleus and elementary particle by focusing on the microscopic world. In particular, the aim of this course is to help students understand the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei and their applied technologies. Finally this course introduces the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe to students taking this course. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．
用いる教科書は内容的に難しく感じるが，これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する．
生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．
また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．

【到達目標】
生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し，レポートをまとめ，討議してもらう．
オータムセッション（秋学期として：9月13日～9月19日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス．進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNAの変異
第2回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化，など．
第3回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌のDNA2本鎖が解離しない仕組み
第4回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成，など．
第5回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物，など．
第6回	多細胞かと有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり，など．
第7回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成，など．
第8回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発，など．
第9回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か，など．
第10回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現，など
第11回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する，など．
第12回	エボデボー体制の進化ー	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた，など
第13回	エボデボー特異体制の進化ー	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フグの特異な形態をつくるしくみ，など．
第14回	まとめ．重要用語の振り返り．博物学について，生物の名前の付け方．	まとめと振り返り．ホモサピエンスの7万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方．など．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
更科 功 (著)2025
「世界一シンプルな進化論講義 生命・ヒト・生物――進化をめぐる6つの問い」 (ブルーバックス B 2282)
講談社 ISBN 978-4065382929

【参考書】
必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】
毎回行う授業内の小レポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】
適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります．）．ガイダンスに必ず出席して下さい．

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います．
3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII 「自然史」を両方とも履修すること．
※どちらか一方だけの授業は履修できません．
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと．
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

島野　智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session ｜ 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制(20)
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教養ゼミIIでは，オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，現地調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．
最終的には，自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である．生物としての人間を知るために，地球史における自然の形成プロセス（生命史）と生物の進化を学ぶ（自然史）．
生物学の観点から生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える．
また，現在，生物進化の結果，維持されている生態系と人間との関係は，水産業，農業，林業などの産業によって結びついていることについても考える．

【到達目標】
生命（生きていること）を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること．年度の最後に，種々の資料や調査を付き合わせて，各自の成果を発表にまとめる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
オータムセッション（秋学期として：9月11日～9月17日）では．生物学の観点から，生命とは何か，進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し，社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう．
つぎに，春学期に学んだ自然史の知識をもとに，自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない，展示などの調査に基づいて，博物館の展示の意義と内容，その展示手法を学ぶ．事後には討議，ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる．命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	フィールドワークI (1)．	博物館学と博物学．博物館フィールドワークについて【講義】
第2回	フィールドワークI (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第3回	フィールドワークII (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)
第4回	フィールドワークII (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)
第5回	フィールドワークII (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第6回	フィールドワークII (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第7回	フィールドワークIII (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第8回	フィールドワークIII (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第9回	フィールドワークIII (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史（地質）と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（3）
第10回	フィールドワークIV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（1）
第11回	フィールドワークIV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する（2）
第12回	フィールドワークV (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（1）
第13回	フィールドワークV (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館，付属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し，園の展示の工夫を調査する（2）
第14回	フィールドワークVI 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう．フィールドワークのまとめ．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
疑問などはそのままにせず，まず自分で解決するよう努力して下さい．事前につたえるので，討議に必要な事前の調査，あるいは，授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）．
また，レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからのcopy &pasteは、容易に判明することが可能ですので行わないように．
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
進化生物学 －ゲノミクスが解き明かす進化－，赤坂甲治（著），裳華房，2021年出版，定価3520円（本体3200円＋税10％）

【参考書】
必要に応じて，その都度指示する．

【成績評価の方法と基準】
毎回行うフィールドワーク後のレポート（60%）および，授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）(40%)も加え，総合的に評価する．この成績評価の方法をもとに，本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
積極的に疑問点などについては，自分で調べることが大切である．

【学生が準備すべき機器他】
適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう．適宜パソコンを使用できるようにしておくこと．

【その他の重要事項】
1) 現地調査（フィールドワーク）のための，交通費（宿泊はしません）が必要です（5,000～9,000円程度：入館料，ガイド料，交通費など，金額は前後することがあります.）．ガイダンスに必ず出席して下さい.
2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また，受講希望者が定員（最大20名程度）を超えた場合にも、再度，選抜を行います.
3) 2017年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミII」として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方．教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミII 「自然史」を両方とも履修すること.
※どちらか一方だけの授業は履修できません.
4) 2016年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学４（自然史)」として履修する方．年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月11日～9月17日）での，フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと.
5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。
6) 9月の初旬（オータムセッション：9月11日～9月17日）に，東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】
In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.
Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.
From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.
We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.
Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class.Your study time will be more than four hours for a class.
The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.
Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学Ａ

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明。
第2回	原子の構造	原子の構造と性質について。
第3回	砂糖と塩	有機化合物と無機イオンの違いについて。
第4回	金属の酸化とイオンの還元	金属を溶かしたり、鏡を作る実験。
第5回	炎色反応	花火の原理についての学習と炎色反応の実験。
第6回	化学発光	ルミノール発光やサイリウムの原理とその実験。
第7回	ホウ砂球反応	イオンの状態変化による色変化を利用したガラス玉を作る実験。
第8回	酸と塩基	酸塩基の定義の種類について。
第9回	色素の色変化	物質の色変化に及ぼすイオンの働きについて。
第10回	金属イオンの沈殿反応	イオンの組み合わせによる溶解度の違いについて。
第11回	金属イオンの分離1	様々なイオンが溶けた水溶液から特定のイオンを分離する実験。
第12回	金属イオンの分離2	様々なイオンが溶けた水溶液から分離したイオンを同定する実験。
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料にどのイオンが含まれているかを検査する実験。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回実験を行い、その結果のまとめを平常点(配分80%)として評価し、学期末の試験(配分20%)とあわせて評価します。実験結果のまとめは、その授業時間内に提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるような配分にしています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

イオンの科学Ｂ

2017年度以降入学者

向井　知大

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】
イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。実験は10分程度で終わるものもあれば、授業時間のほとんどを使うものもあります。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数の数え方について。
第3回	中和反応とpHの変化	中性のpHが7の理由と、中和反応におけるpH変化の測定。
第4回	弱酸と解離定数	重曹が洗剤、料理、消火剤に使われる原理について。
第5回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて。
第6回	ボルタの電池	電池における電解質の役割について。
第7回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験。
第8回	亜鉛めっきと合金	金属でできた銅製品を銀色にしたり、金色に変える実験。
第9回	自己触媒型無電解めっき	電気を使わないめっきの原理とその実験。
第10回	フォトレジスト	光化学反応を利用して金属表面に保護膜で模様を作る実験。
第11回	エッチング	ガラスにめっきされたニッケル薄膜を溶かして目的の模様を作る実験。
第12回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止する方法について。
第13回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について。
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小レポートを平常点(配分80%)とし、学期末試験(配分20%)とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験だけでなく結果をまとめる時間を十分に取ることができるよう時間配分に気をつけています。

【その他の重要事項】
この授業はボアソナードタワー10階のサイエンスルームで行われます。
受講希望者数が過剰な場合、第1回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。
過去3年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamental principles of ions.
The goal of the course is to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

ＩＴリテラシー

2017年度以降入学者

髙田　美樹

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2 進数、8 進数、16 進数（１）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第4回	2 進数、8 進数、16 進数（２）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第5回	2 進数、8 進数、16 進数（３）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム（１）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム（２）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ（１）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ（２）	ウィルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
春学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClassを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

PRI300LA（情報学基礎 / Principles of informatics 300）

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

髙田　美樹

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】
講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。 具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。
毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】
開講時に指示する。学習管理システム WebClass上に公開する。

【成績評価の方法と基準】
秋学期期末ウェブ試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム WebClassを活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers.
[Learning Objectives]
The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 40% and attendance score of 60%.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在「持続可能性」はキーワードとして国際的に広く認識されています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困などの社会経済的な問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、持続可能性の観点から人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、特に、誰もが接点を持つ「食」に関連する農業に注目し、環境問題の科学的側面だけでなく関連する社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】
本授業では以下の３点を最終的到達目標とします。１）種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。２）環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。３）食を接点として授業で扱われる諸問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、各回の授業内容へのリアクションや質問を集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	多重危機の時代と持続可能性	導入として、全体のキーワードとなる持続可能性の概念について解説し、食と種々の環境問題との関連性を概観します。
第2回	生態系の基礎理解	生態系の基本的特徴について、システムとしての構造、機能、振る舞いの観点から考えます。
第3回	生物多様性とは	生物多様性の基本的特徴を解説するとともに、その保全が求められる理由について考えます。
第4回	土中環境	普段目を向けない地中の環境並びに自然環境の基盤としての土壌の重要性について考えます。
第5回	演習１：農地を支える生物	農地という生態系に着目し、食糧生産に関与する生物的要素についてグループワークを通して考えます。
第6回	農業の歴史と近代化	農業の歴史を概観するとともに、近代化のもたらした変化と食糧生産における成果について考えます。
第7回	近代農業の環境負荷	「慣行農法」として定着した近代的生産手法の環境負荷について考えます。
第8回	食糧生産と環境保全1：慣行農法からの展望	慣行農法における食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第9回	食糧生産と環境保全2：代替農法からの展望	慣行農法に代わる「代替農法」について概観するとともに、食糧供給と環境保全の両立の可能性について考えます。
第10回	アグロエコロジーとは	持続可能なフードシステムの枠組みとして注目されるアグロエコロジーについて事例を交えて解説します。
第11回	畜産と感染症	新型コロナウイルスパンデミックを機に対策が急務とされている人獣共通感染症について、畜産との関係性から考えます。
第12回	演習２：飽食時代の飢餓	一見食糧が溢れているように見える現代における飢餓の問題について、グループワークを通して考えます。
第13回	フードシステムと需要・消費側の問題	食糧供給に伴う問題について、農作物自体の生産以外の面から考えます。
第14回	ローカリゼーションとコモンズ	食にまつわる諸問題の解決策について、「ローカリゼーション」と「コモンズ」の２つの視点から模索します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（30%）、平常点（30%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標１、２）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標３）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】
映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、各種WebClassの機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業内外での学習支援システム（WebClass）の使用を想定していますので、利用可能な準備をして参加してください。

【その他の重要事項】
30名の定員制です。必要に応じて選抜を行います。

【Outline (in English)】
[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

Human Impact on the Global Environment

2017年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】
This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental issues; 2) to understand social problems related to the environmental issues addressed in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
The course is divided roughly into three parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem, biodiversity, and soil, in other words, the natural world that surrounds us and provides us with essential resources and services. The second part will focus on environmental issues related to agriculture (food production). Finally, the third part will mainly address socioeconomic aspects of relevant issues.
The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format; however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group work and discussion. In addition to in-class interactions, students will submit their opinions about/reactions to the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions in the subsequent class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Era of multiple crises and sustainability	As an introduction to the course, the concept of sustainability will be discussed, and an overview will be given on the connection between food and environmental issues.
Week 2	Understanding ecosystem	Basic characteristics of ecosystem will be discussed from the viewpoints of structure, function and behavior as a system.
Week 3	What is biodiversity?	Basic characteristic of biodiversity will be discussed, and the reasons why its conservation is necessary will be considered.
Week 4	Soil environment	General features of soil environment will be described, and its importance as the foundation of natural environment will be discussed.
Week 5	Agricultural field as a habitat	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Historical background and modernization of agriculture	An overview of historical development of agriculture will be given, and changes and achievements brought about by modernization will be discussed.
Week 7	Environmental impact of modern agriculture	Environmental impact of modern production method or "conventional agriculture" will be discussed.
Week 8	Environmental conservation in the case of conventional agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of conventional agriculture.
Week 9	Environmental conservation in the case pf alternative agriculture	Could food production and environmental conservation both be achieved? This question will be addressed from the perspective of alternative agriculture.
Week 10	Agroecology	Agroecology will be discussed as a framework for achieving a sustainable food system.
Week 11	Livestock production and infectious diseases	The risk of zoonotic diseases will be discussed in relation to activities related to livestock production.
Week 12	Abundance and scarcity	Group work will be used to explore the complexity of the issue of hunger in the age of abundance.
Week 13	Localization and food system	The significance and importance of localized food production/supply system will be discussed.
Week 14	Thinking about solutions from the consumer side	Solutions for agriculture and food-related issues will be explored from the consumer side of food system.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to prepare for classes by thoroughly reading distributed materials and utilizing the online learning support system (WebClass) and also to review contents of individual lectures. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】
To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】
Student performance will be graded based on quizzes (40%), a final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course materials by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】
Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved to be effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】
Students will need to have access to Hosei's e-learning system (WebClass). Online format may be used, as needed, and students are expected to prepare necessary devices in such a case.

【その他の重要事項】
There is an enrollment limit of 30 students. There will be selection, if the limit is exceeded, and, to be included in the selection, you will be required to pre-register for the course a few days before the semester begins. Additional information will be provided through WebClass, as needed.

【Outline (in English)】
[Course outline] Sustainability has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. This course examines environmental issues from the viewpoint of sustainability by focusing mainly on agriculture to provide students with reference points in their own daily lives in relation to the course materials via food-related elements. By doing so, the course provides students with an opportunity to learn not only about scientific aspects of environmental issues but also about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.
[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental issues; to understand related social problems; and to develop a personal opinion/understanding about various problems the human species faces based on a holistic understanding of human impact on the global environment.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures and thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system (WebClass). Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40%), final assignment (30%), and participation/in-class contribution (30%).

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論Ａ

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	ボルボックスの観察①	レーウェンフックの顕微鏡と同じ原理でボルボックスを見てみましょう。
第3回	ボルボックスの観察②	光学顕微鏡の原理を学び、明視野法や暗視野法によって生物を観察します。
第4回	ボルボックスの観察③	ボルボックスが回転しながら泳ぐようすや、その周りの水の流れを観察します。
第5回	淡水産プランクトン①	池や川の水の採集方法や観察方法を学び、どのような生き物がいるかを調べます。
第6回	淡水産プランクトン②	一週間培養した後の野外採集サンプルを観察し、その変化について考察します。
第7回	淡水産プランクトン③	観察結果のまとめを行い、形態や運動性の多様性を理解します。
第8回	プラナリア①	高い再生能力を持つ扁形動物プラナリアを切断する実験を行います。
第9回	プラナリア②	切断したプラナリアが一週間後にどのように再生しているかを観察します。
第10回	プラナリア③	プラナリアの採餌行動を観察し、からだの作りと機能を学びます。
第11回	走光性①	ボルボックスが環境の光を感知して遊泳方向を変える「走光性」を観察します。
第12回	走光性②	細胞から生える「鞭毛（繊毛）」が生み出す水流が、光によってどのように変化するかを調べます。
第13回	走光性③	光を感知する構造「眼点」を観察し、ボルボックスの走光性のしくみを考察します。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%（授業内での実験や観察への取り組み）
・授業後の練習問題および授業ノート　30%（提出状況・理解度等を評価）
・授業内テスト　40%
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
Course Outline:
The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.
Learning Objectives:
Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.
Learning Activities Outside the Classroom:
Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.
Grading Criteria / Policy:

The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BIO300LA（その他の総合生物・生物学 / Biology 300）

ボルボックス生物論Ｂ

2017年度以降入学者

植木　紀子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物プランクトンであるボルボックスは、生物が単細胞生物から多細胞生物へ進化したプロセスを研究するための優れた実験生物です。顕微鏡下で生き物が繰り広げる不思議な世界を覗いてみましょう。

【到達目標】
各テーマの背景や歴史を理解し、ボルボックスやその他の生物を用いた実験・観察とその結果の考察を行います。それを通じて、対象物を正確に観察し記述する能力、問題解決能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
・授業では、実験・観察の開始前に、方法と注意点を説明します。受講生はグループごとに課題に取り組み、結果を授業ノートに記録します。講義は、内容や進行状況に応じて、実験・観察の前または後に行います。
・毎回、授業内容に関する練習問題を学習支援システムに用意します。授業後、指定期限までに提出してください。
・授業内テストは学期中に数回実施します（実施回は授業内で告知）。
・授業ノートを学期終了時に提出していただきます。
・課題・練習問題・質問に対しては、授業内もしくは学習支援システムを通じて適宜フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	進化のモデル生物ボルボックス	授業の概略を説明し、ボルボックスとそのなかまの生物学における位置付けについて紹介します。
第2回	有性生殖とその進化①	ボルボックスの無性生殖個体を観察しながら顕微鏡の扱いに慣れましょう。
第3回	有性生殖とその進化②	ボルボックスの有性生殖個体と無性生殖個体を観察して比較します。
第4回	有性生殖とその進化③	異なる種の有性生殖様式を比較し、性の進化について考察します。
第5回	粘菌の行動①	アメーバ状単細胞生物である真性粘菌（変形菌）の探餌行動を調べる実験を行います。
第6回	粘菌の行動②	粘菌内部の原形質が往復流動するようすを顕微鏡で観察・撮影します。
第7回	粘菌の行動③	粘菌が基質の上を移動するようすをタイムラプス撮影し、解析します。
第8回	生活環と形態形成①	ボルボックスの美しい球形を生み出す過程である「インバージョン」について学びます。
第9回	生活環と形態形成②	40分程度かかるインバージョンの過程をタイムラプス撮影します。
第10回	生活環と形態形成③	インバージョンの観察結果から、生物の形づくりのしくみとその進化について考えます。
第11回	鞭毛・繊毛の生理学①	ボルボックスの遊泳や光行動の観察を通して、真核生物が普遍的に持つ鞭毛・繊毛について学びます。
第12回	鞭毛・繊毛の生理学②	細胞膜を取り除いて死んでしまった細胞の運動を復活させる「ゾンビ・クラミドモナス実験」を行います。
第13回	鞭毛・繊毛の生理学③	鞭毛・繊毛がATPのエネルギーで動き、カルシウムイオンで調節されることを実験を通して学びます。
第14回	まとめ	第13回までの授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、予習として各回の授業について、事前調査を行ってください。復習としては、毎回、授業で行った観察や実験についてのノート整理を行ってください。本授業の予習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じて、実験方法・課題などを記したプリントを配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点　30%（授業内での実験や観察への取り組み）
・授業後の練習問題および授業ノート　30%（提出状況・理解度等を評価）
・授業内テスト　40%
・期末試験は行いません。
・正当な理由なく3回以上欠席した場合、原則として単位を認めません。また、20分以上の遅刻は欠席とみなします。（やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます）

【学生の意見等からの気づき】
授業や実験が新鮮だった・難しすぎず楽しく学べた・最新の研究を知ることができてよかったなどの声をいただいています。これらを踏まえ、皆さんが楽しんで取り組める授業にしていきます。

【その他の重要事項】
・できるだけ、専用のノートを一冊用意して下さい。
・授業への遅刻は、特別な理由がない限り、厳禁とします。
・生物材料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
Course Outline:
The course introduces Volvox, a freshwater green alga, as a model organism for studying the evolution from unicellular to multicellular life. Through lectures, experiments, and observations, students work in groups and observe living organisms under the microscope.
Learning Objectives:
Through experiments and observations using Volvox and other organisms, the course aims to help students develop the ability to observe and describe objects accurately. The course also aims to help students consider results and develop problem-solving skills.
Learning Activities Outside the Classroom:

Students are expected to do a brief background search before each class and to organize their course notes on in-class experiments and observations after each class. The standard study time is two hours for preparation and two hours for review.
Grading Criteria / Policy:
The final grade is based on in-class work in experiments and observations (30%), practice questions and the course notebook (30%), and in-class tests (40%). There is no final exam. The course notebook is submitted at the end of the semester. Three or more unexcused absences result in no credit. Arriving 20 minutes late or more counts as an absence.

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界Ａ　2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きる様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようなります。
　プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。
　カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。
　アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。
　粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。
　これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。なを、扱う生物材料は、その時の生き物の成育状況によって変わることが有ります。
受講生は、授業で行ったことを発表するポスターを製作します。
　なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	接写法	花などの生き物に近づいて、大きく撮るための撮影法を習得します。
③	インターバル撮影法	カメラを固定して長時間の定点観測を行う方法を習得します。
④	種々の長時間記録法	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	より小さな生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。
⑨	ストロボ撮影手法・種子の回転運動	ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
⑩	ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	ハイスピード撮影技・アリの歩行	アリの６本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	データ整理法・芽生えの記録１	様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
⑬	動画編集手法・芽生えの記録２	様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
⑭	春学期データ整理	春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週４時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
上記のリストに嫌いな生き物がいる場合は、活動の観察者として直接生き物とかかわらないように配慮しますので、事前に申告して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations(30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

BAB300LA（基礎生物学 / Basic biology 300）

バイオイメージングの世界Ｂ　2017年度以降入学者

木原　章

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見る事が可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】
春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業では、春学期の「バイオイメージングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探って行きます。
　班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの６足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（ＢＴ０９００教室の前に掲示中です）
　授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。
　なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については，次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第３回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。
⑨	秋学期プロジェクト第４回	班別作業
⑩	秋学期プロジェクト第５回	班別作業
⑪	秋学期プロジェクト第６回	班別作業
⑫	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業１	データ整理、表・グラフ作成などポスターのコンテンツを作ります
⑬	秋学期プロジェクト・ポスター作成作業２	プロジェクトの活動報告ポスターを作成します。
⑭	ポスターコンテスト	班毎に 10分程度(質疑応答を含む) のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。

【テキスト（教科書）】
テキストは有りません。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
最終プレゼンを30％、授業中の活動を70％として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合が有ります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】
教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】
必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.
【Learning Objectives】
The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the required presentations (30%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (70%).

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学Ａ

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	分析化学の基礎 (1)	有効数字など分析データの取り扱いについて解説します。
第3回	分析化学の基礎 (2)	酸化剤(還元剤)の濃度を分析する酸化還元滴定を行います。
第4回	分析化学の基礎 (3)	金属濃度を分析するキレート滴定を行います。
第5回	環境中の物質循環	地球上の水などの物質の循環について解説します。
第6回	大気環境の科学 (1)	地球大気の構造とオゾン層について解説します。
第7回	大気環境の科学 (2)	温室効果ガスについて解説します。
第8回	大気環境の科学 (3)	大気汚染物質について解説します。
第9回	水環境の科学	水環境や水質基準について解説します。
第10回	水試料の分析[春学期](1)	環境水試料を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[春学期](2)	環境水試料[春学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[春学期](3)	環境水試料[春学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[春学期](4)	環境水試料[春学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末レポート（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。
環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end report: 30%

CHM300LA（その他の化学 / Chemistry 300）

環境の科学Ｂ

2017年度以降入学者

田中　雅人

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類の日常生活の利便性向上に伴い、天然資源の浪費や環境汚染など環境問題やエネルギー問題が社会問題となり、世界的に持続可能な社会を実現する取り組みに関心が高まっています。環境問題を理解するためには、科学的な視点で環境影響をとらえることが重要です。本授業では、環境に関する知識だけではなく分析化学的な手法による環境分析などの実験も行い、環境を科学的にとらえる視点を養うことを目的とします。

【到達目標】
環境中の物質循環のしくみや大気汚染、水質汚染、土壌汚染など、身近な環境の問題が引き起こされるメカニズムについて理解を深めます。また、実際に環境中の水や土壌などを分析します。これらを通じて環境問題を身近な問題として捉え、環境に対する意識向上をさせるとともに、環境問題を科学的な視点で捉えることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では、環境科学に関する講義とともに基本的な環境分析などの実験を行います。理解度の確認のための課題や実験のレポート課題を出します。課題の内容については、次回の授業で解説するなどフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要について説明します。
第2回	土壌環境の科学	土壌の構成物質、土壌の機能、土壌汚染などについて解説します。
第3回	土壌試料の分析(1)	土壌試料の土壌pH、土壌溶液などを調べます。
第4回	土壌試料の分析(2)	土壌試料の陰イオン吸着能を調べます。
第5回	土壌試料の分析(3)	土壌試料の陽イオン吸着能を調べます。
第6回	土壌試料の分析(4)	土壌試料の分析結果について考察します。
第7回	化学物質と環境	化学物質による環境影響について解説します。
第8回	水中の金属分析(1)	水道水やミネラルウォーターの硬度を調べます。
第9回	水中の金属分析(2)	水試料の電気伝導度や重金属濃度を調べます。
第10回	水試料の分析[秋学期](1)	環境水試料[秋学期]を分析するための前処理を行います。
第11回	水試料の分析[秋学期](2)	環境水試料[秋学期]の溶存酸素(DO)や化学的酸素要求量(COD)を調べます。
第12回	水試料の分析[秋学期](3)	環境水試料[秋学期]のリン酸濃度などの富栄養化項目を調べます。
第13回	水試料の分析[秋学期](4)	環境水試料[秋学期]の分析結果について考察します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
身近な環境に関するテーマを扱うので興味を持った事柄についてWebや書籍等で調べてみてください。各回終了後は、課題を行ってください。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
・坂田昌弘 編「環境化学」講談社
・鈴木孝弘 著「新版 新しい環境科学」駿河台出版社
・酒井忠雄 編「環境・分析化学実験 第3版」三共出版
その他に授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業で出題する課題や実験レポート課題(70%)、期末試験（30%）により取組みや理解度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの記載はありませんでしたが、講義資料等のアップロードを早めに行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するためのPCやタブレットなどの端末機器が必要です。

【その他の重要事項】
この授業はサイエンスルーム(化学)で行います。受講希望者数が定員(30名)を超える場合は、第1回目のガイダンスで抽選を行います。
環境試料の準備状況によって、予定を変更する場合があります。

【Outline (in English)】
There is growing interest worldwide in efforts to achieve a sustainable society. To understand environmental issues, it is important to understand environmental impacts from a scientific perspective. The goal of this course is to cultivate a scientific perspective on the environment. For the purpose, students will not only learn about environmental issues, but also conduct experiments such as environmental analysis.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
required assignments: 70%, Term-end report: 30%

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society A

2017年度以降入学者

ＬＡＳＳＥＧＡＲＤ　ＪＡＭＥＳ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy,immigration, minorities, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to examine and think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan,engage in discussion, and express their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates, and a final presentation by students. Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading,discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate
8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues:Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor either in paper or PDF format.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 20%
Midterm essay: 30%
Final report: 40%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】
Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will do short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】
Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】
Students in GBP will be given some priority in terms of enrollment, but a primary goal is to have a diverse classroom setting in terms of nationality and experience.

【Outline (in English)】
Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics in society interest them the most.

総合科目：LANe300LA、GBP：HUM200LA

Issues in Modern Japanese Society B

2017年度以降入学者

ＬＡＳＳＥＧＡＲＤ　ＪＡＭＥＳ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制
レベル3〜4（各レベルの目安スコアはILAC掲示板の掲載資料から確認可能です。https://gakububbs.hosei.ac.jp/ilac/gaikokugo/）
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, gender, etc.) using authentic materials. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will be able to choose which topics related to society that they would like to investigate and discuss during the semester.

【到達目標】
Students will be able to improve their academic speaking (discussion, debate) and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members. Course feedback will be provided in class and on written assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with implementation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading,discussion, debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion &debate
6	The declining bithrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due
7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spiritulity and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion &debate
12	Various topics	Students'individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers (reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to have some experience writing a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this course. The instructor will provide reading materials each week either as handouts or PDF files.

【参考書】
Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】
Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.
Class Participation: 20%
Midterm Paper: 30%
Final Paper: 40%
Presentation: 10%
Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the number of students enrolled.

【学生が準備すべき機器他】
Student should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping and organizing class handouts and readings.

【その他の重要事項】
Attendance is very important. Students who have more than three unexcused absences may not receive credit for this course. Students should have some experience in writing essays or reports in English. Students may enroll in this course for one or two semesters.
GBP students may receive some preference for taking this course,but a primary objective is to have a diverse classroom setting, in terms of nationality and gender.

【Outline (in English)】
This intermediate to advanced English course examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ａ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じてドイツ語文法の基礎を学ぶとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Lektion1：発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則1、あいさつの表現１
2	Lektion1：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？ ふたつの二人称
3	Lektion1＆Lektion2：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化（1）、並列の接続詞	自己紹介１：人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第2位の原則
4	Lektion2：動詞の現在人称変化（2）	人称代名詞（1格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介2、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion3：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion3：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞keinと否定文
7	Lektion4：名詞の複数形・人称	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion5：不定冠詞類・定冠詞類	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
9	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（1）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion6：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）（2）	動詞の現在人称変化（4）
11	Lektion7：、命令法と態（Modus）	２人称と依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
12	Lektion7：話法の助動詞（1）	「話法の助動詞」の構文、枠構造の意味
13	Lektion7：話法の助動詞（2）	話法の助動詞を使うそのココロを理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』(郁文堂、2018/2023年)（￥ 2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版) 必携ドイツ文法総まとめ』(白水社) 2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2026年7月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

第三外国語としてのドイツ語Ｂ　2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。（春学期開講の「第三外国語としてのドイツ語A」に引き続き）初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。専門課程でドイツ語の読解能力が必要となる方についてはその基礎固めを目指します。

【到達目標】
１）ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現などの練習を通じて、ドイツ語の考え方の基本を理解できる。具体的には「ドイツ語技能検定試験（独検）」の4級～5級合格レベル到達を目指します。
２）ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力や、他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっていることを理解できる。
３）ドイツ語・ドイツ語圏という異文化との接触を通じて、自分の属する文化と言語圏について反省的に思考できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・LMSとして主にGoogle Classroomを使用します。法政Gメールも随時チェックしてください。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、話法の助動詞
2	Lektion8：再帰代名詞・再帰動詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
3	Lektion9：分離動詞・非分離動詞	動詞の前綴りの話、複合動詞のいろいろ、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
4	Lektion9：zu不定詞	不定詞とzu不定詞およびその用法、zu不定詞句を使った表現
5	Lektion9：従属の接続詞	従属接続詞と副文の作り方、主文と副文の違いを理解する
6	Lektion10：動詞の３基本形（I）（１）・現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion10：動詞の３基本形（I）（２）・過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion11：動詞の３基本形（II）・受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion12：形容詞（１）・形容詞の格変化	形容詞の用法と形容詞の格変化
10	Lektion12：形容詞（２）・比較表現	並列の接続詞、従属の接続詞、形容詞の用法、付加語的用法と格変化
11	Lektion12：関係代名詞（１）	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）
12	Lektion12：関係代名詞（２）	関係副詞・不定関係代名詞
13	補足：接続法	接続法第I式および第II式について
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・新倉真矢子ほか著『ゲナウ！ Grammatik neu』（郁文堂、2018/2023年）（￥2,200）
・学習用独和辞典（別途授業内で案内します）

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『（改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物の成果を合わせて評価する平常点（５０％）および学期末試験（５０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCまたはタブレット、スマートフォン）

【その他の重要事項】
・上記に記した内容や順序は、皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。
・「ドイツ語技能検定試験（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）」や「ドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）」等の受検とその結果は、上記「成績評価の方法と基準」のうち、「授業への積極的な参加」に加算されます（2027年1月下旬までに担当者に通知されたものに限ります）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.
The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each. There are prescribed preparation and review tasks.
【Grading Criteria /Policy】

The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 50% of end-of-term assignments (tests).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the couse, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteie
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholug des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
課題の提出およびフィードバックはHOPPIIで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】
プリント配付。

【参考書】
自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では
・児童文学の古典とされる作品を精読することを通じて
・考えたことを論理的に再構成して，議論することで
・この作品が書かれた当時のドイツ語圏（ドイツとスイス）のあり方を考えること
を学びます.

【到達目標】
この授業を履修することで
・単なる印象に左右されないテクストの読み方
・自らが読解した内容を，他人に伝わるかたちで表現する方法
・ドイツ語圏の19世紀の社会についての理解すること
について学ぶことを目標とします.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行います．したがって，事前のテクストの精読を前提とします．事前に指定箇所を精読し，その中で重要だと思うところを2箇所指摘し，学習支援システムを通じて提出していただきます.
授業では，皆さんから提出された論点について，全員で議論します．事前提出の論点については，授業中にフィードバックします.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	導入	著者のヨハンナ・シュピリと作品の果たした役割についての紹介
第2回	第1部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第3回	第1部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第4回	第1部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第5回	第1部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第6回	第1部9章および10章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第7回	第1部11章および12章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第8回	第1部13章および14章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第9回	第2部1章および2章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第10回	第2部3章および4章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第11回	第2部5章および6章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第12回	第2部7章および8章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第13回	第2部9章	参加者から出た事前学習の成果をテクストに基づいて議論する
第14回	まとめ	まとめおよび授業内で行った課題の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は準備学習を基本とし，テキストとして指定された箇所を精読し，事前に議論すべき論点を2つ提案してから，出席してください．本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ヨハンナ・シュピリ，松永美穂（訳），『アルプスの少女ハイジ』（角川文庫，2021年）

【参考書】
川島隆,『ハイジの生みの親ヨハンナ・シュピーリ』(青弓社, 2024年)

【成績評価の方法と基準】
毎回，該当の章を読んでから出席することを基本とし，
・事前にテクストについて授業で議論すべきことを2つ提出すること（52%）
・議論への参加度（42%）
・期末のレポート（8%）
を基準として成績評価します.
テクストを読まずに出席している場合，または，議論への貢献をしない場合は，議論への参加度を評価する平常点をつけられません.

【学生の意見等からの気づき】
本年度はテーマを変更しましたのでフィードバックできません.

【学生が準備すべき機器他】
ネットワーク接続ができ，Zoomが使えるるPCまたはタブレット，および，オンライン会議に使えるカメラとマイク

【その他の重要事項】
オンラインで開講します．カメラをオンにして参加すること，および，指名された場合に口頭で回答することを出席の条件（平常点採点の対象）とします.

【Outline (in English)】
【Course outline】In this course, students will read Johanna Spyri's classic works on Heidi and discuss/learn about the societal background of the time when the text was written.
【Learning Objectives】Students will acquire the skills to read texts logically, discuss them in line with their understanding, and learn about the society and culture of the German-speaking region in the 19th century. century.
【Learning activities outside the classroom】Participation requires detailed reading of the text and the submission of two discussion points in advance.
【Grading Criteria /Policy】Submission of prior discussion points (52%) + Active participation (42%) + term paper (8%)

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ａ

2017年度以降入学者

大久保　歩

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツは「詩人と思想家の国」と呼ばれるように、後世に大きな影響を与えた思想家たちを多く輩出してきました。
ごの授業では主に18世紀終わりから19世紀前半に活躍した哲学者たちの思想を学びます。
個々の哲学者たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。この時代は、ドイツという国が成立していく過程でもありました。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。
これにより現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】
・19世紀前半のドイツ哲学の概要を説明できる。
・扱われた哲学者の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。
毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。
すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜドイツは「詩人と思想家の国」になったのかについて学ぶ。授業の進め方の確認。
第2回	「ドイツ思想」のはじまり	ルターやライプニッツなど、のちのドイツの思想を方向づけた思想家たちについて学ぶ。
第3回	カント前夜	デカルトやイギリス経験論など、カント哲学の前提となる思想について学ぶ。
第4回	カント（1）	『純粋理性批判』を中心に、カントの認識論について学ぶ。
第5回	カント（2）	『実践理性批判』を中心に、カントの実践哲学について学ぶ。
第6回	カント（3）	『判断力批判』を中心に、カントの美学について学ぶ。
第7回	ドイツ観念論	フィヒテやシェリングなど、カント以後のドイツ哲学の展開を学ぶ。
第8回	ヘーゲル（1）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの認識論を学ぶ。
第9回	ヘーゲル（2）	『精神現象学』を中心に、ヘーゲルの実践哲学を学ぶ。
第10回	ヘーゲル（3）	『精神現象学』や『美学講義』を中心に、ヘーゲルの美学を学ぶ。
第11回	ショーペンハウアー（1）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアーの認識論と実践哲学について学ぶ。
第12回	ショーペンハウアー（2）	『意志と表象としての世界』を中心に、ショーペンハウアー実践哲学と美学について学ぶ。
第13回	近代ドイツ思想とは何か	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。
また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】
御子柴義之『自分で考える勇気―カント哲学入門―』（岩波ジュニア新書）
川瀬和也『ヘーゲル（再）入門』（集英社新書）
梅田孝太『ショーペンハウアー―欲望にまみれた世界を生き抜く―』（講談社現代新書）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー　50%
授業最終回での試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】
Germany has produced many influential thinkers who have left a profound impact on posterity, earning the nation the title "the land of poets and thinkers" (Das Land der Dichter und Denker). This course focuses on the philosophical ideas of thinkers active primarily from the late 18th to the early 19th century. In addition to examining individual philosophical systems, we will explore the historical context of the era— a pivotal period in the formation of the German nation. By examining thought within its historical context, this course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy and develop a critical perspective on the contemporary world.
Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツの思想Ｂ

2017年度以降入学者

大久保　歩

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19世紀後半のドイツは激動の時代でした。そしてこの時代の思想家たちはそれ以前の思想を徹底的に批判することで、20世紀の思想を準備しました。
ごの授業では19世紀後半のドイツで活躍した思想家たちの思想を学びます。
個々の思想家たちの思想を学ぶだけでなく、彼らが活躍した時代の歴史背景も合わせて学びます。思想と歴史文脈を合わせて学ぶことで、より多面的な思想理解を目指します。
これによって、現代に対する批判的な視点を養うことも目指します。

【到達目標】
・19世紀後半のドイツ思想の概要を説明できる。
・扱われた思想家の思想を、当時の歴史背景と関連づけながら説明できる。
・自分の考えを論理的かつ説得的に論じることができる。
・現代の事象に対して批判的に考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
スライドを用いて講義形式で進めます。スライドは事前に配布します。
毎回の授業では、授業内容について考えたことに関してリアクションペーパーの提出を求めます。
すぐれたリアクションペーパーについては次回授業で取り上げ、コメントを加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	19世紀後半のドイツがどのような時代だったのか概観する。授業の進め方の説明。
第2回	カントからヘーゲルへ	19世紀前半のドイツ哲学を概観し、19世紀後半の思想家たちにとっての思想的前提を学ぶ。
第3回	マルクス（1）	『ドイツ・イデオロギー』を中心に、マルクスの唯物論史観について学ぶ。
第4回	マルクス（2）	『資本論』を中心に、マルクスの資本主義批判について学ぶ。
第5回	マルクス（3）	『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』を中心に、マルクスの政治理論について学ぶ。
第6回	ニーチェ（1）	『悦ばしき知識』などを中心に、ニーチェのニヒリズムの思想を学ぶ。
第7回	ニーチェ（2）	『ツァラトゥストラはこう語った』などを中心に、ニーチェのニヒリズム克服の思想を学ぶ。
第8回	ニーチェ（3）	『道徳の系譜学』を中心に、ニーチェの道徳批判について学ぶ。
第9回	フロイト（1）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの無意識についての理論を学ぶ。
第10回	フロイト（2）	『精神分析入門講義』を中心に、フロイトの精神分析の理論を学ぶ。
第11回	フロイト（3）	「快感原則の彼岸」を中心に、フロイトの自我論を学ぶ。
第12回	ドイツからフランス・ポストモダニズムへ	マルクス、ニーチェ、フロイトから大きな影響を受けたフランスのポストモダニズム思想を概観する。
第13回	ドイツの「反哲学」	これまで学んできたことを振り返る。
第14回	まとめと最終試験	最終試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前に配布されるスライドに事前に目を通しておくこと。
また、授業内・授業後にリアクションペーパーを執筆すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業ごとにスライドを事前に配布します。

【参考書】
佐々木隆治『カール・マルクス―「資本主義」と闘った社会思想家―』（ちくま新書）
永井均『これがニーチェだ』（講談社現代新書）
フロイト『精神分析入門講義』上下巻（岩波文庫）

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー　50%
授業最終回での試験　50%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
リアクションペーパーは学習支援システム（予定）を通して提出してもらうので、PCやタブレットを持参することが望ましい。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修することは必ずしも必要としません。

【Outline (in English)】
The late 19th century was a period of great upheaval in Germany. The thinkers of this era paved the way for 20th-century thought by radically critiquing the philosophical traditions that preceded them. This course examines the ideas of key figures active during this turbulent time. Beyond analyzing individual philosophical systems, students will explore the historical backdrop of their era. By integrating the study of thought with its historical context, the course aims to foster a multifaceted understanding of philosophy, thereby cultivating a critical perspective on the contemporary world.
Reaction papers: 50%, Term-end examination: 50%

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A

2017年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
2021年度までに「ドイツ語圏の文学A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：移民・難民・アウトサイダー
2015年、ドイツがシリア内戦などを背景に100万人規模の難民を受け入れたことが話題となりました。また近年では、ウクライナからの難民も100万人を超えています。「移民国家」を自認し、移民の背景を持つ市長が誕生するなど、移民政策において成功しているように見える一方で、極右政党をはじめとする移民排斥の声も年々高まってきているのが現在のドイツです。
本講義では、文学や演劇、映画などにおいて、「移民」「難民」というテーマがどのように扱われてきた／いるのかを、複数の作品を通じて多角的に捉えていきます。

【到達目標】
・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏との相互関係に対する関心や理解を深める。
・作品をただ鑑賞するのではなく、歴史的・社会的・文化的コンテクストを踏まえて批判的に考察する力を養う。
・さまざまな時代・文化・ジャンルの作品の中で共通のテーマやモティーフがどのように扱われているかを比較検討することを通じて、多角的な視点と柔軟な思考力を養う。
・各文化圏における芸術や文化、歴史に関心を持ち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を予定しています。約2回の講義でひとつの作品を取り上げ、作品の概要を説明した後で、主要部分を実際に鑑賞／読解していきます。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。
毎回授業の終盤に時間を設けて、こちらの提示する課題について小レポートを書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 カルチュラル・スタディーズとは？
2	導入	ドイツの移民政策
3	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
4	外国人労働者に向けられる社会の眼差し	映画『不安は魂を喰い尽くす』
5	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
6	難民を受け入れる側	映画『はじめてのおもてなし』
7	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
8	悪いのは移民か？	映画『女は二度決断する』
9	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
10	世代間の葛藤	映画『おじいちゃんの里帰り』
11	当事者たちの取り組み	ベルリン・マクシム・ゴーリキー劇場
12	当事者たちの取り組み	『狂った血』
13	移民排斥に対する挑発	シュリンゲンジーフと『外国人よ出ていけ』
14	旧東ドイツの移民	『マッドジャーマンズ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回で取り上げる映画作品については、日本語字幕付きで観られるので、自分でもぜひ鑑賞してみてください。最後に取り上げるマンガ作品も邦訳があるので、実際に手に取ってみることを推奨します。

【テキスト（教科書）】
パワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】
・本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店，2002年.
・吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店，2001年.
・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房，2015年.
・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研，2017年.
・墓田桂『難民問題』中央公論新社，2017年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加，質問，発言など）：40%
・毎回の小レポート：60%
なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
In 2015, Germany accepted around one million refugees, against the backdrop of the Syrian civil war and other conflicts. Moreover, in recent years, the number of refugees from Ukraine has also exceeded one million. Although immigration policies appear to be succeeding, the reality today is that opposition to immigration is also growing, as evidenced by the rise of far-right parties.This lecture will explore how the themes of 'immigration' and 'refugees' are depicted in literature, theatre and film, examining them from various angles through a selection of works.
At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, short reports for each lecture: 60%

LIT300LA（文学 / Literature 300）

カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏Ｂ

2017年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
2021年度までに「ドイツ語圏の文学Ｂ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：日本においてドイツ語圏の文化はどのように受容されてきたのか
私たちの日常には、さまざまな領域・場面においてドイツ語圏由来のものが存在しています。私たちは意識してか無意識かにかかわらず、日頃からドイツ語圏の文化に触れているわけです。しかし、日本での受容には、ドイツ語圏でのそれと差異はないのでしょうか。この授業では、ドイツ語圏の文学作品が、日本でどのように受容されているかを検討し、またそれらを原作とする翻案作品と比較します。テクストの読解および映像の視聴を通じて、ドイツ語圏の社会や文化、歴史的な文脈について学んでみましょう。

【到達目標】
・ドイツ語圏の文化史ならびに異文化圏（英米・日本など）との相互関係に対する関心や理解を深める。
・作品をただ鑑賞するのではなく、多角的な視点に基づいて批判的に考察する力を養う。
・文学作品や映像作品の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
講義形式を予定しています。2～3回の講義でひとつの作品を取り上げます。原作と日本での受容のあり方を、実際にテクストを読んだり、映像を鑑賞しながら比較していきます。。場合によっては、途中で議題を設けて受講生同士で議論する時間を設ける予定です。
毎回授業の終盤に時間を設けて、講義を通じて考えたことなどをリアクションペーパーに書いて提出してもらいます。内容によっては次回の講義で取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要 身近にあるドイツ語圏
2	グリム童話集について	成立と背景
3	グリム童話集『赤ずきん』	赤い「ずきん」？
4	グリム童話集『死神の名付け親』1	作品の内容について
5	グリム童話集『死神の名付け親』2	古典落語『死神』
6	シラーについて	人物と作品
7	シラー『歓喜に寄せて』1	成立と内容
8	シラー『歓喜に寄せて』2	ベートーヴェンの「第九」
9	シラー『歓喜に寄せて』3	「第九」合唱の文化
10	シラー『群盗』1	成立と内容
11	シラー『群盗』2	黒澤明『戦国群盗伝』
12	シラー『群盗』3	宝塚版『群盗』
13	日本からドイツへ	ブレヒト『イエスマン・ノーマン』と能『谷行』 オペラ『松風』と能『松風』
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回で取り上げる作品で邦訳があるものについては、講義期間中に自分で手に取って読んでみることを推奨します。
取り上げる作品の中には、映像化されているものや舞台上演されているものもあるので、機会があればぜひ鑑賞してみてください。

【テキスト（教科書）】
基本的にパワーポイントやDVD等の映像資料を使用し、適宜資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】
・宮田眞治／畠山寛／濱中春編著『ドイツ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房，2015年.
・新野守弘／飯田道子／梅田紅子編著『知ってほしい国ドイツ』高文研，2017年.
・手塚富雄／神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波書店，1993年.
・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房, 2018年.
・畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著『ドイツ文学の道しるべ―ニーベルンゲンから多和田葉子まで―』ミネルヴァ書房，2021年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点（毎回のリアクションペーパー，授業への積極的な参加）：60%
・学期末試験（論述）：40%
なお、授業回数の3分の2以上の出席と学期末試験を受けることが単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・資料の配布は原則的に授業支援システムを使用します。
・オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoomを用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
German-speaking regions have a presence in many areas of our daily lives.We are constantly exposed to German-speaking culture in our daily lives, whether we are aware of it or not. This course examines the reception of German-language literary works in Japan, comparing them with adaptations based on the original texts.
At the end of this course, students are expected to think critically about issues in different situations
Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%,in class contribution: 60%

ARSk300LA（地域研究（地域間比較）/ Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ａ

2017年度以降入学者

Ｄ．　ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】
◦自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
◦固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
◦海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題の提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	TVの料理ドックメンタリー（1）	テレビの料理ドックメンタリーの比較から偏見を見直す。
③	TVの料理ドックメンタリー（2）	課題、ディスカッション
④	TVのCooking Show（1）	TVのCooking Showの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	TVのCooking Show（2）	課題、ディスカッション
⑥	TVの食品調査番組（1）	日本には存在していない食品調査番組の紹介で文化の違いを学ぶ。
⑦	TVの食品調査番組（2）	課題、ディスカッション
⑧	Youtubeの料理チャネル（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	Youtubeの料理チャネル（2）	課題、ディスカッション
⑩	Webの料理検索・レシピサイト（1）	Webの料理検索・レシピサイトを比較する。
⑪	Webの料理検索・レシピサイト（2）	課題、ディスカッション
⑫	Foodfilm（1）	フードフィルムの分析を学ぶ。
⑬	Foodfilm（2）	課題、ディスカッション
⑭	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、
問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。
授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：６０％
学期末試験：４０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】
Food, Media and Contemporary Culture
Food is a powerful medium through which to enter another culture.　Through food we can communicate cultural and personal identity,　values and emotions. In this class we will compare mainly japanese and european representations of food in various visual and printed media.
—
◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.
◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).
—
Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.
—
Attendance and achievement of in-class assignments: 70%
Normal points such as participation attitude in class: 30%
If more than one-third of the class is absent, it will not be considered for grade evaluation.

ARSk300LA（地域研究（地域間比較） / Area studies(Interregional comparison) 300）

比較文化Ｂ

2017年度以降入学者

Ｄ．　ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火4/Tue.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、グリム童話や日本昔話だけでなく、ウェス・アンダーソンの映画や近代絵画など、幅広いメディアに登場する「動物」を比較・分析します。キツネ、ウサギ、白鳥といった身近な動物が、日本とヨーロッパでいかに異なる「シンボル（象徴）」として扱われているかを探ります。動物は単なる「かわいい」存在ではなく、実は人間社会のルール、政治、あるいはジェンダー観を映し出す「鏡」であることを学びます。具体的な作品比較を通じて、「日本は優しい、西洋は残酷」といった文化的な固定観念（ステレオタイプ）を問い直すことも重要なテーマです。最終的には、動物たちの表象を通して、異文化と自文化の意外な共通点や深い違いを読み解く力を養います。

【到達目標】
◦ 日欧の動物観の比較・分析：文学・美術・映画における動物の描かれ方を比較し、日本とヨーロッパの文化的価値観の共通点と相違点を論理的に説明できる。
◦ ステレオタイプの再考：「日本文化は優しく、西洋文化は残酷である」といった単純な二項対立やステレオタイプ（固定観念）を、具体的な作品分析を通して客観的に問い直す力を身につける。
◦ 視覚メディア・リテラシーの向上： 物語のあらすじだけでなく、映像表現（構図・色彩・演出）や絵画の様式が持つ意味を読み解き、映画やアートを分析する視座を養う。
◦ 社会的・政治的背景の理解： 動物が単なるキャラクターではなく、ジェンダー・政治・社会風刺（風刺画やプロパガンダなど）の道具として機能していることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは何か：文化の鏡としての動物たち	本講義の目的である「日欧の動物表象の比較」について、その意義と分析手法（文学・映画・美術）を解説する。なぜ動物がステレオタイプや社会風刺の道具として使われるのか、具体的な例を挙げながら導入を行う。
②	昔話と童話における狐	日本の昔話「狐の恩返し」とグリム童話「キツネと馬」を比較し、両文化におけるキツネの役割の違いを分析する。
③	「ファンタスティック Mr. Fox」における狐	映画『ファンタスティック Mr. Fox』を題材に、主人公がヨーロッパの伝統的な「キツネ像」をどのように継承しているか、また現代においてどのような新たな象徴性を帯びているかを考察する。
④	芸術史における兎	独仏ドキュメンタリー映画『素晴らしき長耳たち』を鑑賞し、美術史におけるウサギの表象の変遷をたどる。
⑤	昔話と童話における兎	日本の昔話「かちかち山」とグリム童話「うさぎとはりねずみ」を比較し、物語における「暴力」と「知恵」の役割の違いを分析する。
⑥	「ハーメルンの子供たち」におけるネズミ（ラット）の象徴性	「ハーメルンの笛吹き男」の伝説と、それが現代の政治風刺（カリカチュア）でどのように引用されているかを比較・分析する。
⑦	聖書におけるシンボル動物たい日本（中国）におけるシンボル動物	聖書における動物の象徴的意味を分析する。特に「ネズミ」を事例として取り上げ、中国文化（干支）における「富と繁栄」のイメージと、聖書における「不浄と災い」の象徴性を比較・対照する。
⑧	異類婚姻譚とシンボル動物（１）	日本の「鶴女房」とヨーロッパ広域に伝わる「白鳥の乙女」伝説を比較し、異類婚姻譚（動物との結婚）という普遍的なモチーフの共通構造と文化的差異を分析する。
⑨	異類婚姻譚とシンボル動物（２）	アンデルセンの原作『人魚の姫』を、単なる恋愛譚ではなく「不滅の魂」をめぐる実存的な物語として再読する。
⑩	世紀末の白鳥	世紀末芸術における「白鳥」のイメージを比較する。
⑪	王様としてのカエル	シェイクスピアの『マクベス』を分析する。
⑫	ロバとロバの皮の象徴性	ジャック・ドゥミ監督の映画『ロバと王女』におけるロバの多層的な象徴性を分析する。
⑬	クリスマスと食材としての象徴動物	クリスマスの「牛とロバ」および「鯉とガチョウ」の象徴性を分析する。
⑭	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業では、いわゆる外形的なアクティブラーニング手法ではなく、授業前後の資料読解や情報収集を通じて、自ら考え、
問いを持って授業に参加する学修形態を重視する。
授業前後の準備・復習を含め、週あたり約4時間程度の学修時間を想定する。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】
出席及び授業内の課題達成度：６０％
学期末試験：４０％
欠席が全体の３分の１を超えた場合は成績評価対象外となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline

This course analyzes "animals" appearing in a wide range of media, including Grimm's fairy tales, Japanese folktales, Wes Anderson's films, and modern art. We will explore how familiar animals like foxes, rabbits, and swans function as different "symbols" in Japan and Europe. Students will learn that animals are not merely "cute" but serve as "mirrors" reflecting social rules, politics, and gender views. A key theme is questioning cultural stereotypes (e.g., "Japan is gentle, the West is cruel") through specific comparisons.
Learning Objectives
Students will be able to:
◦ Logically explain similarities and differences in Japanese and European values by comparing animal depictions in literature, art, and film.
◦ Objectively rethink cultural stereotypes through specific case studies.
◦ Improve visual media literacy by analyzing film composition, color, and artistic style.
◦ Understand how animals function as tools for gender expression, politics, and social satire
Learning Activities Outside of Classroom
Students are expected to read materials and gather information before and after class to engage in independent thinking and formulate their own questions. The standard study time is approximately 4 hours per week, including preparation and review.
Grading Criteria / Policy
Class participation and assignments: 60%
Final Exam: 40%
Note: Students who miss more than one-third of the classes will not be evaluated.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
18世紀から19世紀にかけて、現在のドイツ、オーストリアとその周辺（中部ヨーロッパ）には「ドイツっぽい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」といった概念を、芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では「ドイツ語圏の芸術B」（秋学期開講）とあわせ、近代ドイツ語圏の造形芸術や音楽、建築、デザイン等を概観しながら「ドイツ語圏」あるいは「芸術」のさまざまな内実に迫ります。

【到達目標】
1）近代ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）とその周辺諸地域の文化・芸術に関し、知識と理解を深める。今日に一般的な「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という社会通念の形成には、ドイツ語圏をはじめとする近代ヨーロッパの歴史が大いに関係しています。
2）造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れること。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21世紀の「グローバルな人」に求められる資質でもあります。
3）芸術と社会をめぐる文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・諸芸術のうち、今学期は近代初期～19世紀の建築と造形芸術、音楽を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、時代背景、受容とその影響について確認する作業が中心です。
・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行いますが、提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第2回	近代の視覚（1）ー キリスト教思想と修道院	「大聖堂」の建設／「スコラ」と「ウニヴェルシタス」／ロマネスク様式からゴチック様式へ
第3回	近代の視覚（2）ー フランス絶対王政の影響	宮殿と庭園／「バロック」と「ロココ」と「新古典主義」／眼前の風景＋ルネサンスの英知
第4回	イタリアに憧れて ― 息子を「音楽家」にしたい	貴族とお城とオペラの関係／モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782年）・『魔笛』（1791年）など
第5回	「趣味は音楽鑑賞」 ― 音楽ビジネスの始まり	市民階級の台頭／エスターハージー家と音楽出版／ハイドン『交響曲第94番ト長調（驚愕）』（1792年）
第6回	革命とナポレオン後の世界（1）ー 真理を「聴く」	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品67（「運命」）』（1808年）・『交響曲第九番ニ短調作品125（合唱付）』（1824年）
第7回	革命とナポレオン後の世界（2）ー ロマン派の世界	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814年）／ゲーテ『ファウスト（悲劇第一部）』（1808年）
第8回	プロイセンの台頭 ー「ドイツ人なら誰でも知ってる絵」？！	メンツェル『サンスーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1850年）ほか
第9回	「音楽の国ドイツ」の成立（1）ー「合唱」と「伝統」	F.ヘンゼルの音楽サロンとベルリンの「ジング・アカデミー」／メンデルスゾーン＝バルトロディによるバッハ『マタイ受難曲』再演（1827年）
第10回	「音楽の国ドイツ」の成立（2）ー ライプツィヒとヴィーン	「フィルハーモニー」と「定期演奏会」／「有名な曲」を作る方法
第11回	「音楽の国ドイツ」の成立（3）ー フランスには負けられない？！	「音楽学校」と「スター誕生」／音楽家の営業活動／ピアノの先生と「家庭の音楽」
第12回	装飾とデザイン（1）― ヴィーン世紀末の都市計画	城壁の撤去とリング通り／O.ヴァーグナーによる都市計画／ヴィーン工房とヴィーン分離派
第13回	装飾とデザイン（2）― 産業革命とユーゲントシュティール	古のヴィーンを優雅なベンチと曲木の椅子で蘇らせる／カフェーハウスの芸術家たち
第14回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品をインターネット上やカタログ等で見る／聴くなどできればなお良いです。
・コンサート／ライブや観劇、映画館・展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布します。

【参考書】
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会）2014年
・高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）1990年
・神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社）1995年
・饗庭孝男、伊藤哲夫、加藤雅彦、小宮正安、西原稔、檜山哲彦、平田達治 『ウィーン 多民族文化のフーガ』 （大修館書店）2010年
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・紙媒体で使用できる筆記用具

・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche（German)" or "deutsch（german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

ART300LA（芸術学 / Art studies 300）

ドイツ語圏の芸術Ｂ

2017年度以降入学者

林　志津江

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【ベルリンの物語】二度の大戦と都市の分断・再統一を経験したドイツとその首都であるベルリンは、圧倒的な強度で描かれ続けているメトロポールです。この授業では、ベルリンあるいはドイツを舞台とする絵画や文学作品、映画（劇映画）、映像作品を通して、ベルリンとドイツを描く映像表象の形式・様相を確認するとともに、変化し続けるメトロポールの姿からその社会の内実に迫ります。春学期開講の「ドイツ語圏の文学A」と比べると、格段に「女性」「弱者」「マイノリティ」がクローズアップされる内容かと思います。多様性とマージナルなものに対する眼差しの中にこそ、都市と国家の分断の歴史が鋭く見出されるのかもしれません。

【到達目標】
１）ドイツ（語圏）とその周辺諸地域の歴史と文化に関する知識と理解を深める
２）文学作品や劇映画の読解を通じて、美的形式を分析する抽象的な議論に慣れる
３）文化闘争の言説とナショナル・アイデンティティとの関連、自己同一性の実体や困難について思考できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
・20世紀～現代の造形芸術（絵画）、映画および文学作品の映像二次創作を時系列的に扱います。
・各回、担当者による解説を行います。文学・映像作品を扱う回では次いで該当テクストの抜粋を読み、映画の該当部分の内容を確認します。
・一連の導入作業の後、ペアワーク／グループワークの時間を設け「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深める時間とします。
・各回授業後にペアワーク／グループワークの成果を課題としてまとめ、提出します。
・Google Classroomを主たるLMSのツールとして使用します。
・授業内で行われたアウトプットに対しては主に授業の場でフィードバックを行いますが、提出物のフィードバックとあわせ適宜全体に向けて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業について（オリエンテーション）
第2回	大都市の誕生 ー 表現主義の絵画	E.L.キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912年）『ポツダム広場』（1914年）など
第3回	地下鉄の走る街・映画の時代	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その１／W.ルットマン『ベルリン ― 大都会交響楽』（1927年、ドイツ）
第4回	大都会で見つける人間の絆	E・ケストナー『エーミールと探偵たち』（1929年）その２／映画『エーミールと探偵たち』（1931年/2000年、ドイツ）
第5回	「エル・ドラド」の世界・大都市の光と影	「両性具有」というイメージの流行／O.ディックス『大都会』（1927/28年）／C.シャート『ソーニャ』（1929年）など
第6回	文化／映画産業の現実 ― サイレントからトーキーへ	H.マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その１
第7回	魅惑的な映画スター―「ニーチェ小説」から「脚線美」へ	H・マン『ウンラート教授』（1905年）／スタンバーグ『嘆きの天使』（1930年、ドイツ）その２
第8回	「ベルリン／都会で成功したい」	E・ケストナー『ファビアン ― あるモラリストの物語』／映画『さよなら、ベルリン またはファビアンの選択について』（2021年、ドイツ）
第9回	一度きり（比類なき）の分断・一度きりの人生	L・クラウメ『僕たちは希望という名の列車に乗った』（2019年、ドイツ）
第10回	支配者にとってベルリンとは	L・デイトン『ベルリンの葬送』（1964 年）／G・ハミルトン『パーマーの危機脱出』（1966年、英国）
第11回	壁の向こう側	L・ハウスマン『ゾンネンアレー（太陽通り）』（1999年、ドイツ）／W・ベッカー『グッバイ・レーニン』（2002年、ドイツ）
第12回	映画の時間・再統一の空気	T・ティクヴァ『ラン・ローラ・ラン』（1997年、ドイツ）
第13回	ミレニアル世代のリアリティ	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その１
第14回	ロードムービーの誘惑	W.ヘルンドルフ『14歳、僕らの疾走（2010年）／F・アキン『50年後のボクたちは』（2016年、ドイツ）その２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
・授業資料に再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品を読んだり観たりできるとなお良いです。
・映画をみる／映画館へ行く、コンサート／ライブや観劇、展覧会訪問はもちろん、他の授業で学んでいることなど、現在進行形で経験されていることは全て関係があります。この授業でもぜひあなたの体験を共有してください。

【テキスト（教科書）】
各回資料を配布します。

【参考書】
・宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・W.ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など［浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（１）（２）』（ちくま学芸文庫）1995年/1996年所収］
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的な参加と議論への貢献・課題の作成）（50%）
・授業後の提出課題（50%）
以上の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・紙媒体で使用できる筆記用具

・WiFiが利用可能なデジタルガジェット（PCないしスマートフォン、タブレット）

【その他の重要事項】
・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテクストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。
・随時、法政GメールとLMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
(Century of image - Berlin Story) This course introduces cinema and visual culture from the era of german modernism (Berliner Moderne) and contemporary works, especially deal with "Berlin" as metropole and divided West- and East Germany as well as after reunification. In the course, we also focus on the sense of big city (Großstadt) and its people that has been developed intensively by Weimar classics as well as by entire German modernism and culture. We com-bine texts of German-language literature with cultural, histor-ical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society.
・Able to reflect on problematics like national identity or representational culture and express their own opinions and to write texts of a certain length about themes above.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
・There are prescribed review tasks.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 50% of ordinary marks (active participation and contribution to the class) and 50% of ordinary submitted assignments (report).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ドイツ語圏における社会哲学・公共哲学の展開を、とりわけ20世紀における「批判理論」（Kritische Theorie）に着目しながら、概観します。
　「批判理論」（あるいはその揺籃の地にちなんで「フランクフルト学派」）と呼ばれる思想潮流に属する哲学者たちは、個人と社会の関係をめぐる哲学理論を展開するとともに、実践的な歴史や政治の諸問題に対する公共の議論に参画してもいます。個人が社会によって構成されているという自己反省は、現実の人々がいかに既存の社会体制によって歪められているかという批判的洞察と不可分なのです。だからこそ批判理論は、ファシズムの台頭やホロコーストを可能にしてしまったドイツ社会と対峙しています。授業においては、社会的・政治的コンテクストを踏まえつつ、批判理論の哲学者たち（ベンヤミン、ホルクハイマー、アドルノ、ハーバーマスら）の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】
（A）（「批判理論」における）ドイツ語圏の社会哲学・公共哲学の議論を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
　毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	批判理論における社会哲学・公共哲学とは？	個人と社会の関係についての自己反省と既存体制の内在的批判
第3回	批判理論の背景	20世紀ドイツの「危機」意識とファシズムの台頭 西欧マルクス主義とフロイト思想
第4回	批判理論の生成（1）	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」
第5回	批判理論の生成（2）	ベンヤミン「歴史哲学テーゼ」と「進歩」への問い
第6回	批判理論の生成（3）	ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の弁証法』と近代的理性の自己省察
第7回	批判理論の展開（1）	ファシズムと反ユダヤ主義、権威主義的パーソナリティ
第8回	批判理論の展開（2）	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」への問い 68年運動と批判理論
第9回	批判理論の展開（3）	ハーバーマスと「公共圏」の思想、コミュニケーション的行為の理論
第10回	批判理論と社会（1）	1980年代の歴史修正主義と「歴史家論争」
第11回	批判理論と社会（2）	東西ドイツの再統一 ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第12回	批判理論と社会（3）	過去の克服と「ドイツ」のアイデンティティへの反省
第13回	批判理論の社会哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・細見和之『フランクフルト学派　ホルクハイマー、アドルノから21 世紀の「批判理論」へ』中央公論新社〔中公新書〕
・三島憲一『戦後ドイツその知的歴史』『現代ドイツ統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with social philosophy and public philosophy in the German speaking region (especially regarding Critical Theory).
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand Critical Theory's social philosophy, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA（哲学 / Philosophy 300）

ドイツ語圏の公共哲学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(60)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ドイツ語圏における公共哲学・社会哲学の展開を、とりわけ「公衆」（Publikum）や「公共圏」（Öffentlichkeit）という概念に着目しながら、概観します。
　現在、私たちは、単に個人として（「私」として）生きるのみならず、様々な人々と共に社会という場で（「私たち」として）生きています。個人と社会というこの二項の関係をめぐっては、公共哲学・社会哲学において、「公衆」や「公共圏」の概念とともに、様々な議論が展開されてきました。このことは、社会的存在としての人間を問うことであると同時に、民主主義体制や憲法のあり方といった政治の問題を考察することにも通じています。授業においては、こうした社会的・政治的な問題意識も踏まえつつ、ドイツ語圏を中心とした哲学者たち（カント、キルケゴール、ハイデッガー、シュミット、アーレント、ハーバーマスら）の言説を検討し、その思想内容を理解・考察することが目指されます。

【到達目標】
（A）（「公衆」・「公共圏」をめぐる）ドイツ語圏の公共哲学・社会哲学の議論を理解できる。
（B）扱われた哲学・思想を、社会的・政治的視座から考察できる。
（C）扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。
　毎回の授業時にリアクションペーパーの提出を求める他、学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の確認
第2回	「公衆」・「公共圏」をめぐる公共哲学・社会哲学とは？	個人と社会の関係および「公衆」・「公共圏」概念をめぐる議論の確認
第3回	カントの公共哲学（1）	「公衆」による啓蒙と理性の公的使用
第4回	カントの公共哲学（2）	公開性の原理と公共の福祉
第5回	「大衆」と公共哲学（1）	キルケゴールとハイデッガーの大衆論
第6回	「大衆」と公共哲学（2）	シュミットの議会論と政治的決断主義
第7回	アーレントの公共哲学（1）	複数性からみる公共的領域
第8回	アーレントの公共哲学（2）	政治的権力と政治的自由
第9回	ハーバーマスの公共哲学（1）	公共性の構造転換とコミュニケーション的行為
第10回	ハーバーマスの公共哲学（2）	討議デモクラシーと憲法パトリオティズム
第11回	宗教と公共哲学（1）	公共圏における宗教と世俗言語への「翻訳」
第12回	宗教と公共哲学（2）	ポスト世俗の社会と「相互学習」
第13回	「公衆」・「公共圏」をめぐる公共哲学のこれまでとこれから	学習事項のまとめと展望
第14回	課題もしくは試験	学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】
・齋藤純一／谷澤正嗣『公共哲学入門　自由と複数性のある社会のために』NHK出版
・川崎修／杉田敦（編）『現代政治理論 新版補訂版』有斐閣
・『ドイツ哲学入門』ミネルヴァ書房
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（リアクションペーパーの提出、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40％、学期末課題もしくは試験の評価60％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を別々に履修することができますが、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with public philosophy and social philosophy in the German speaking region (especially regarding the concept of "the public").
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand the development of public philosophy in the German speaking region, (B) examine it from social and political perspectives, and (C) explain it properly.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史A

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代世界とドイツの歴史
　この授業では、「長い19世紀」における近代ドイツの発展を、世界のさまざまな国と比較しながら概観し、その特殊性と普遍性について理解することを目的とする。比較の対象としては、国民国家・植民地国家として先行したイギリス・フランスや　国民国家として同時期に成立したイタリア、ドイツ語圏のもう一方の中心であったハプスブルク君主国（オーストリア）、さらにアメリカ合衆国や明治・大正期の日本を想定する。

【到達目標】
　ドイツ史において18世紀の末から20世紀の初頭にいたるいわゆる「長い19世紀」は、激動の時代であった。この時代、ドイツはナポレオン戦争や1848/49年の革命を経て統一された国民国家への歩みを始動し、政治的に分立していた多くの領邦が1871年にドイツ帝国として統一された。同時に産業革命を経験して経済的にも大きく発展し、ヨーロッパ有数の強国として確固とした地位を占めるようになった。この時代は第一次世界大戦（1914–1918）によって終わりを告げる。
　この授業では、「長い19世紀」のなかで世界史的に見て重要性を有するトピックを4つのモジュールに分けて扱う。モジュールは以下の通りである。
1. ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり
2. 近代国家の世界基準？ ―国民国家と自由民主主義
3. 資本主義産業社会の繁栄と矛盾―19世紀後半の経済と社会
4. 国連なき時代の外交と第一次世界大戦

　これらのモジュールにより、今なお大きな影響力を持つさまざまな制度や仕組みがつくれらた近代という時代を理解するとともに、その地域的な多様性をドイツを中心として理解することが可能となる。そのことを通じて、現代の日本の状況に対しても批判的な考察をおこなう視座を獲得することができるだろう。
　なお、20世紀初頭以降の時代については、秋学期開講の「ドイツ語圏の歴史B」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　それぞれのモジュールは、概説、演習、発展という3つのパートで構成される。
　まず、概説では、モジュールの対象とする時代についてドイツをはじめとするヨーロッパ各国の状況を学び、その特徴について考える。19世紀の社会がどのようなものであったかを理解することは、続く20世紀の時代を理解するためにも欠かせない。
　次に、演習では、モジュールのテーマにかかわるさまざまな史料を取り上げ、その史料を解読することで得られる情報を分析し、理解を深める。取り上げる史料は文書だけでなく画像・映像や芸術作品を含める（テキストは日本語のものを用意する）。
　最後に、発展では、それまでの2つのパートの内容をふまえ、ドイツだけでなく他国の状況と比較し、歴史の学びを多面的なものとする。
　参加者はいずれのモジュールにおいても主体的な参加が求められる。毎回リアクションペーパーを提出するとともに、各モジュールの発展パートでは自分が選択したテーマに関し簡単な発表をおこなう（少なくとも1回以上）。それらをもとに期末レポートを執筆する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ語圏の特徴とは何か、なぜその近代の歴史を学ぶのかについて考える。
第2回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」概説	19世紀初頭の神聖ローマ帝国の解体とナポレオン戦争について扱う。
第3回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」演習	啓蒙主義の出現と友に始まった新しい公共性のあり方について、史料をもとに分析する。
第4回	第1モジュール「ナポレオン戦争と近代ヨーロッパの始まり」発展	ヨーロッパ各国における新古典主義やロマン主義の文化・芸術の展開と、それを生んだ社会について理解を深める。
第5回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」概説	19世紀前半のウィーン体制から1871年のドイツ帝国創建まで、ドイツ統一をめぐるさまざまなビジョンの競合と対立を扱う。
第6回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」演習	ドイツ・ナショナリズムの出現と発展について、モニュメントや建築・絵画などの史料をもとに解説する。
第7回	第2モジュール「近代国家の世界基準？」発展	1848/49年にヨーロッパを揺るがした革命の経緯と、そこに参加したさまざまな勢力の置かれた状況とその政治的要求を比較分析する。
第8回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」概説	資本主義の発展と、工業化と都市化の進展による社会の変容について扱う。
第9回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」演習	市民層と労働者階級や下層民との関係、社会のジェンダー秩序構造について論じる。
第10回	第3モジュール「資本主義産業社会の繁栄と矛盾」発展	19世紀後半のヨーロッパでは各国でさまざまな芸術文化が開花した。それら新たな芸術潮流について扱う。
第11回	第4モジュール「第一次世界大戦」概説	：第一次世界大戦はどのようにして勃発し、どのように進行したのか、史上最初の「総力戦」について概観する。
第12回	第4モジュール「第一次世界大戦」演習	大戦の結果それまでのヨーロッパ社会はどのように変化したのか。大戦をどのように記録し、評価し、表象したのか。さまざまな史料から読み取る。
第13回	第4モジュール「第一次世界大戦」発展	大戦に関わった各国でのその影響の違いや、大戦後の社会の発展を取り上げる。
第14回	総括と展望	「長い19世紀」とはどのような時代だったのかを総括し、1920年代以降の歴史への展望をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業への参加・リアクションペーパー(30%)、各モジュール第3パートでの報告(20%)、期末レポート(50%)により総合的におこなう。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This course aims to provide an overview of modern Germany's development during the "Long Nineteenth Century," comparing it with various other nations, and to understand its particularities and universal aspects. Countries for comparison include Britain and France, which preceded Germany as nation-states and colonial powers; Italy, which emerged as a nation-state during the same period; the Habsburg Monarchy (Austria), the other major center of the German-speaking world; as well as the United States and Japan during the Meiji and Taisho periods.
This course examines topics of global historical significance within the "Long Nineteenth Century," divided into four modules. The modules are as follows:
1. The Napoleonic Wars and the Dawn of Modern Europe
2. The Global Standard of the Modern Nation-State?— Nation-States and Liberal Democracy
3. The Prosperity and Contradictions of Capitalist Industrial Society— Economy and Society in the Late Nineteenth Century
4. Diplomacy in the Era Without the UN and World War I
These modules enable students to understand the modern era, which created various systems and mechanisms still exerting significant influence today, while also grasping its regional diversity, centered on Germany. Through this, students will gain a perspective for critically examining the situation in contemporary Japan.
The standard preparation and review time for this course is 2 hours each.
Grading will be based on a comprehensive evaluation of class participation and reaction papers (30%), presentations in Part 3 of each module (20%), and the final report (50%).

HIS300LA（史学 / History 300）

ドイツ語圏の歴史Ｂ

2017年度以降入学者

辻　英史

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、ナチズムを中心に20世紀のドイツ語圏の歴史を扱う。ナチスとその支配をドイツ＝ヨーロッパ史の文脈のなかに位置づけ、その特質を理解することを目的とする。

【到達目標】
　20世紀の前半のドイツを中心とするヨーロッパの状況について学ぶ。とくに、歴史上例のない破壊と犯罪行為をおこなったナチ政権の成立に至る過程とその支配のイデオロギーや構造、およびナチ政権の下での「普通の人びと」の日常生活について理解する。ナチスの引き起こした第二次世界大戦とユダヤ人迫害（ホロコースト）を、そのヨーロッパワイドな広がりという文脈において理解する。さらに、大戦後から現代に至るまでのナチスをめぐる歴史認識についても考察する。
　なお、19世紀末までの時代については、春学期開講の「ドイツ語圏の歴史A」で扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　毎回の授業は以下の3つのパートからなる。
①概説：政治・経済を中心に、時代の流れを説明する。
②論点：経済・社会・文化を中心に、その時代の重要な特徴をいくつか抜き出し、解説する。
③演習：それまでに得た知見を踏まえ、同時代史料（文書、画像、映像、芸術作品など）を読解し、解釈する。史料は日本語のものを用意する。
参加者は随時意見を述べたり、ディスカッションに参加することを要求される。また、毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。提出課題は次回授業の冒頭でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの近現代史における特殊性と他地域との共通性について知る。
第2回	近現代ドイツ史の歩みとナショナリズム	ナポレオン戦争からドイツ帝国創建にいたるドイツのナショナリズムの発展を概観する。
第3回	第一次世界大戦とその帰結	ヴェルサイユ体制と敗戦国ドイツの処遇について学ぶ。
第4回	ヴァイマール共和国の誕生	ドイツ革命、ヴァイマール共和国の成立から1920年代半ばの相対的安定期までを扱う。
第5回	ヴァイマール共和国の崩壊	世界大恐慌から、ナチ党の台頭過程を経てその権力掌握に至るまでを明らかにする。
第6回	ナチ独裁支配の確立	全権委任法や「グライヒシャルトゥンク」と呼ばれる国内支配体制の足固め、「経済の奇跡」を達成するまでを概観する。
第7回	ナチ体制への国民統合	ドイツ国民の「民族共同体」への統合と、「共同体異分子」と呼ばれた人びとの排除について扱う。
第8回	ナチ・ドイツと国際社会	ヨーロッパ・グローバルな視点から1930年代の国際情勢を明らかにする。
第9回	「電撃戦」から「総力戦」へ	第二次世界大戦の開戦の経緯とドイツの戦争遂行体制の内実について知る。
第10回	ヨーロッパ・ユダヤ人の「絶滅計画」	大量虐殺に至るユダヤ人迫害の累進的急進化のプロセスについて学ぶ。
第11回	支配と協力のあいだで	ナチ支配体制に対するヨーロッパ各国の協働と抵抗について知る。
第12回	第二次世界大戦後のドイツ（1）	「崩壊社会」と呼ばれた敗戦後の混乱から、東西ドイツの建国にいたる時期を扱う。
第13回	第二次世界大戦後のドイツ（2）	戦後の東西ドイツにおける「過去の克服」の状況、とくに戦争犯罪人の訴追の問題を扱う。
第14回	再統一後のドイツと「記憶の文化」	統一ドイツにおけるナチズムの過去に関する「記憶の文化」の形成について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題（リアクションペーパー）を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。
芝健介『ホロコ-スト―ナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌』中公新書、2008年。
石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』講談社現代新書、2015年。
芝健介『ヒトラー―虚像の独裁者』岩波新書、2021年。
ウルリヒ・ヘルベルト(小野寺拓也訳)『第三帝国―ある独裁の歴史』角川新書、2021年。
小野寺拓也／田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか？』岩波ブックレット、2023年。
原田昌博『ナチズム前夜』集英社新書、2024年。
ほか、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加(20%)、リアクションペーパー(20%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを書いてもらう時間を、毎回の授業時間の最後になるべく長く確保するようにします。フィードバックはなるべく手短にしますが、学生諸君との意見交換をいつも楽しみにしています。

【Outline (in English)】
This course covers the history of the German-speaking world in the 20th century, with a focus on National Socialism. The aim is to place the Nazis and their rule in the context of German-European history and to understand its particularities.
Students will pay close attention to the process led to the establishment of the Nazi regime, which committed destruction and criminality unprecedented in history, the ideology and structure of its rule, and the daily lives of "ordinary people" under the Nazi regime. The course will also provide students with an understanding of the role of the Nazi regime in the Second World War and the persecution of the Jews (the Holocaust) in the context of its Europe-wide spread. The course will also examine historical perceptions of the Nazis from the end of the war to the present day.

Students are required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読A

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。
　『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。
　授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。春学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の序説を講読する予定です。

【到達目標】
（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　はじめにニーチェの生涯や思想、著作について導入をした後、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。
　講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。
　学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション テクストについて導入	授業の進め方の確認 ニーチェの生涯や思想、著作の背景について導入
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	7頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	7-8頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	8-9頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	10-11頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	11-12頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	12-14頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	14-15頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	15-16頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	17-19頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	19-21頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	21-22頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	23頁の精読、検討
第14回	春学期のまとめ 課題もしくは試験	春学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】
・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、学期末課題もしくは試験の評価40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテクスト理解の度合に応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。
・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

LANd300LA（ドイツ語 / German language education 300）

ドイツ語講読Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、F・ニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』のドイツ語原文を講読します。
　『ツァラトゥストラはこう語った』(*Also sprach Zarathustra*, 1883-1885)は、「神は死んだ」という洞察や「超人」の概念、「永劫回帰」の思想など、ニーチェ思想の重要モチーフが展開されている著作です。複数の日本語訳も存在し、ニーチェの主著の一つと見なされているこの著作は、実際に本文に目を通すとわかるように、一義的には理解できない文章によって構成されています。その理解のためには、原文を丁寧に読み、テクストに織り込まれた思想の内実を紐解いていくことが、非常に有益であるはずです。
　授業においては、ドイツ語原文の精読を通して、ニーチェの思想を精確に理解するとともに、学術的なテクストをドイツ語で読む力をつけることを目指します。秋学期には、『ツァラトゥストラはこう語った』の幾つかの説話を講読する予定です。

【到達目標】
（A）辞書や参考書を用い、専門的なドイツ語のテクストを読解できる。
（B）ニーチェの思想を、テクストに即して精確に理解できる。
（C）理解した内容について考察し、他者と議論を展開できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　はじめに序説の内容や論点を確認した後、春学期に引き続き、『ツァラトゥストラはこう語った』（*Also sprach Zarathustra*）のドイツ語原文を輪読形式で講読します。
　講読に際しては、受講者全員が事前にテクストを十分に予習していることを前提とします。予習した内容に基づき、テクストを精確に訳読し、意味内容を厳密に確認した上で、疑問点や議論したい点を発言してもらいます。また各回に記録担当者を設定します。該当者には、担当する回の講読内容やなされた議論を記録し、レジュメにまとめて次回の冒頭に発表してもらいます。受講者には積極的な参加が望まれます。発言や発表に対するフィードバックは、授業の中で適宜行うようにします。
　学期末には、授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。学期末課題もしくは試験の内容は、授業の中で提示します。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、学習支援システムを確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 序説の振り返り	授業の進め方の確認 *Also sprach Zarathustra*, 7-23頁の内容・論点の確認
第2回	*Also sprach Zarathustra* 講読（1）	24-26頁の精読、検討
第3回	*Also sprach Zarathustra* 講読（2）	26-27頁の精読、検討
第4回	*Also sprach Zarathustra* 講読（3）	27-29頁の精読、検討
第5回	*Also sprach Zarathustra* 講読（4）	29-31頁の精読、検討
第6回	*Also sprach Zarathustra* 講読（5）	31-32頁の精読、検討
第7回	*Also sprach Zarathustra* 講読（6）	32-33頁の精読、検討
第8回	*Also sprach Zarathustra* 講読（7）	33-34頁の精読、検討
第9回	*Also sprach Zarathustra* 講読（8）	34-36頁の精読、検討
第10回	*Also sprach Zarathustra* 講読（9）	36-37頁の精読、検討
第11回	*Also sprach Zarathustra* 講読（10）	38-39頁の精読、検討
第12回	*Also sprach Zarathustra* 講読（11）	39-41頁の精読、検討
第13回	*Also sprach Zarathustra* 講読（12）	41-44頁の精読、検討
第14回	秋学期のまとめ 課題もしくは試験	秋学期の講読内容についての整理と議論 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備としては、訳読ができるよう、わからない単語・熟語に関して辞書を丁寧に引き、ドイツ語テクストを予習しておく必要があります。また復習としては、辞書や専門の事典を参照しつつ、訳読内容や授業で議論された内容を整理しておくことが望まれます。

【テキスト（教科書）】
・F. Nietzsche, *Also sprach Zarathustra*, Reclam
※テクストの詳細や入手方法に関しては、第1回の授業で説明をするので、準備はそれからで構いません。

【参考書】
・独和辞典（必須）
・『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社
・『ニーチェ全集9・10　ツァラトゥストラ　上・下』吉沢伝三郎（訳）、筑摩書房〔ちくま学芸文庫〕
・須藤訓任「ニーチェ」(『哲学の歴史　第9巻　反哲学と世紀末【19-20世紀】』中央公論新社、263-376頁)
・細見和之（編著）『ニーチェをドイツ語で読む』白水社
その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（講読時のテクスト理解、議論への参加、担当時の発表、その他の授業への取り組みなどの総合評価）60％、学期末課題もしくは試験の評価40％です。成績評価に際しては、【到達目標】（A）～（C）を基準とし、その達成度合いを考慮します。

【学生の意見等からの気づき】
・読解のスピードや方法について、受講者の人数やテクスト理解の度合に応じて、柔軟に無理なく進めるよう努めます。
・わかりにくいドイツ語の文法事項や表現について、必要に応じて初級文法に立ち返りつつ、丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（必須）とあわせて、ドイツ語学習時に用いた教科書や参考書をできるだけ持ってきてください。

・オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修に際してはドイツ語の初級文法を学習済みであることが望ましいですが、特に希望がある場合、初級文法の学習と並行して履修することも可能です。
・ドイツ語で文献講読をすることに不安を抱く方もいるかもしれません。予習をするのは前提ですが、その上でわからなかったり間違えたりすることは問題ではありません。調べた上で、何がどうわからなかったかを発言してもらうことの方が大切です。
・春学期と秋学期、合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Nietzsche's thought by reading his *Thus Spoke Zarathustra* (1883-1885) in German.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) read academic texts in German, (B) understand Nietzsche's text, and (C) discuss relevant topics.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (60%), and term-end report or examination (40%).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(20〜30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。
体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る (講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習(Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.
In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げでいる。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワーク「他己紹介」を通じたアイスブレイク。（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	運動の心理的効果 バドミントン	運動の心理的効果について、気分調査尺度を用いて検証する。（講義及び実習）
5	運動の身体的効果 バドミントン	運動の身体的効果について学ぶ（講義及び実習）
6	技術を高める効果的な練習法：注意の焦点 バスケットボール(+派生バスケ)	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として注意の焦点を学ぶ。（講義および実習）
7	技術を高める効果的な練習法：フィードバック法 ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてフィードバック法を学ぶ（講義および実習）
8	技術を高める効果的な練習法：運動イメージ ネオテニス	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として運動イメージを学ぶ（講義および実習）
9	技術を高める効果的な練習法：ブロック・ランダム法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法としてブロック・ランダム法を学ぶ（講義および実習）
10	技術を高める効果的な練習法：観察学習法 卓球	効率的に運動・スポーツ技術を高めるための方法として観察学習法を学ぶ（講義および実習）
11	効果的な練習方法の探索 卓球	グループワークを通じて、効果的に運動を学習するための方法について探索する（講義及びグループワーク）
12	効果的な練習方法の実践 ピックルボール	「効果的な運動学習法の探索」での結果を踏まえて、効果的に運動を学習するための方法を実践する（講義および実習）
13	Tea(お茶)とスポーツ ユニホック	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価します。
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。
ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の科学技術の発展により、スポーツ科学および健康科学も多くの進化を遂げている。それにより、運動を効果的、効率的、そして安全に実施する方法や自身の健康を管理するための方法が数多く提唱されている。この授業は運動・スポーツ、特にラケットスポーツ、ニュースポーツを通してスポーツ科学に触れると共に、生涯にわたって身体的・精神的・社会的な健康を維持・増進に資する健康科学について理解を深め、実践する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
授業はグループワークおよび講義、実習から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学および健康科学について学ぶ。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともに実習への取り組みに対する動機づけを図る。（講義）
2	アイスブレイク ドッジビー	グループワークを通じたアイスブレイク。実技種目はドッジビーを用いる（グループワークおよび実習）
3	スポーツ科学・健康科学とは バドミントン	競技スポーツの場面から日常生活まで、スポーツ科学と健康科学の活用事例について学ぶ（講義および実習）
4	プレッシャーとスポーツ：実践 バスケットボール(+派生バスケ)	スポーツの場面ではしばしば緊張が高まる場面でのプレーが求められる。バスケットボールのフリースローを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
5	プレッシャーとスポーツ：基礎理論 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ：実践」での結果を踏まえてプレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
6	プレッシャーとスポーツ：あがりへの対処 バドミントン	「プレッシャーとスポーツ」での結果と基礎理論を踏まえて、プレッシャーがかかる場面でも実力発揮をするための方法とあがりへの対処法を学ぶ（講義および実習）
7	スポーツの価値 卓球	これまでに五輪スポーツから地域レベルでのレクリエーションスポーツまで数多のスポーツ種目が生み出されてきた。既存のスポーツ種目を概観すると共にスポーツの本質的価値を学ぶ（講義および実習）
8	Tea(お茶)とスポーツ 卓球	Tea(お茶)は時に、人の歴史を大きく動かしてきた。お茶を巡る歴史とその健康効果を学ぶ（講義および実習）
9	運動の功と罪 卓球	運動による健康効果についてはよく知られている。一方で、運動が心身に及ぼす負の影響についてはあまり知られていない。運動の功と罪について学ぶ（講義および実習）
10	ニュースポーツと地域活性 ネオテニス	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義および実習）
11	スポーツ栄養 ネオテニス	食の欧米化と多様化により、様々な健康リスクが増加した。近年、危惧されている超加工食品の摂取と健康リスクの関連について学ぶ（講義および実習）
12	睡眠の効果 ピックルボール	睡眠は健康に大きな影響を及ぼす。睡眠の効果について学ぶ（講義および実習）
13	スポーツとコーピング ユニホック	社会生活を営む中で、様々な心理的ストレスを受ける。ストレスに対処する方法を学ぶ（講義および実習）
14	総括・試験	総括およびレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき各2時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ科学および生涯スポーツについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツや健康関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価します。
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。
ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.各スポーツ種目の未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。
ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
With the development of science and technology in recent years, sports science and health science have also undergone many advances. Effective, efficient, and safe methods of exercising and managing one's health have been proposed.
The purpose of this course is to expose students to the latest sports science through exercise and sports and to deepen their understanding and practice of the latest health science that contributes to maintaining and improving physical, mental, and social health throughout life.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第6回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用方法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
本授業は定員制授業です。
①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】
Outline and objectives:
This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.
Goal:
By the end of the course, students should be able to:
1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life
Work to be done outside of class:
The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.
Grading criteria:
1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
- Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
- Whether the assignment appropriately reflects the course content.
- Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
- Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第6回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第7回	卓球①	道具操作、ルール
第8回	卓球②	基礎動作、サーブ
第9回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第10回	ピックルボール②	基礎動作
第11回	トレーニング①	器具の使用方法
第12回	トレーニング②	基礎動作
第13回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
本授業は定員制授業です。
①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】
Outline and objectives:
This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.
Goal:
By the end of the course, students should be able to:
1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life
Work to be done outside of class:
The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.
Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
- Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
- Whether the assignment appropriately reflects the course content.
- Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
- Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス （対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー （講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。 単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 （講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。 呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 （講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。 スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 （講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 （講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 （講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。 走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 （講義および実習））	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。 また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想） （講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 （講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。 また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ （講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典 . 平河出版社 , １９８６
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典（続） . 平河出版社 , １９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。
　１）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
　２）期末レポート 20％
　３）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
　1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
　2) Final report: 20%.
　3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年の研究により、身体活動が健康の維持や疾病予防に及ぼす影響が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度に関する解釈は人によって異なり、運動の利点と欠点についても十分に認識されていないのが現状である。
本講義では、日常的に取り組みやすい運動である「ウォーキング」と「ヨーガ」に焦点を当て、それらが健康促進や疾病予防にどのような影響を及ぼすのかを考察する。また、実践を交えながら、効果的な運動方法について具体的に解説する。

【到達目標】
1.人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2.スポーツウォーキングについて説明できる。
3.スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4.スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5.ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6.ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7.呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8.Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9.スポーツ傷害について説明できる。
10.ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本講義は対面授業を基本として実施する。
・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（対面）	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定（講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康（講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー（講義および実習）	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸（講義および実習）	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要（講義および実習）	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを説明する。スポーツウォーキングが健康に及ぼす影響やその役割を理解し実践する。
8	スポーツウォーキングと基本技術（講義および実習）	歩行姿勢や膝の伸ばし、適正なストライドを意識しながら、バランスを取る技術、惰性を損なわずに推進力を高める技術、さらに重心を上下左右にぶれさせないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢（講義および実習）	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクス的特徴と正確な歩行を理解し実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果（講義および実習）	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康（講義および実習)）	スポーツウォーキングが生活習慣病の改善に果たす役割やその効果について説明する。また姿勢と速度を意識しながら実践する。
12	ヨーガとMeditation（瞑想）（講義および実習）	Meditationについて概説し、ヨーガを実践することでMeditationの状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康（講義および実習）	ヨーガが生活習慣病の改善に及ぼす役割や効果について説明する。また、基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ（講義：課題の提示）	スポーツウォーキング及びヨーガを実践した結果、心身にどのような変化が生じたかについて、ディスカッションを通じて総合的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習を行うにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に参加すること。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし授業に持参すること。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて授業中に伝達する。なお本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典 . 平河出版社 , １９８６
佐保田鶴治 . ヨーガ根本経典（続） . 平河出版社 , １９８６

【成績評価の方法と基準】
以下の内容で総合的に評価する。
　１）毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％
　２）期末レポート 20％
　３）授業への参画状況 20％

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問や相談は、授業中または授業の前後に受け付ける。それ以外については、随時メールにて対応する。
オフィスアワーとして毎週月曜日の16時50分～18時30分までの100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールで連絡を取ること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.
【Learning Objectives】
1. To be able to understand the significance of " walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
　1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
　2) Final report: 20%.
　3) Participation in class activities (not attendance): 20%.
If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.
If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E“.
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木1/Thu.1
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する(講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ(講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価します。
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。
ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木1/Thu.1
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）も含めて授業を進める。
評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ（グループワークおよび実習）
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ（講義及び実習）
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ（講義及び実習）
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア＆ヘアピン、ドロップ＆ロビング、プッシュ＆レシーブ、スマッシュ＆レシーブについて学ぶ（講義及び実習）
6	バドミントンの歴史を知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ（講義および実習）
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ（講義および実習）
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する(講義および実習）
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える(コンディショニング)ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ（講義）
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ（講義及び実習）
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義および実習）
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ(講義および実習）
13	トリプルス	トリプルスのルールとフォーメーションを学ぶ（講義及び実習）
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は1回の授業につき2時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー60％、課題・レポート40％の配分として総合評価します。
授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。
ただし、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1.レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2.リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3.リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4.授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5.指定感染症による欠席の場合、出席可能となった授業時にその旨について、担当教員に報告してください。なお、病気・怪我による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1.食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2.多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3.バドミントンの未経験者にも配慮した授業形態になっています。経験、未経験問わず受講可能です。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

ネイルやアクセサリーの着用は事故およびケガの原因になるため、実習中は外すことが望ましい。

【その他の重要事項】
1.原則として対面授業を実施する予定です。学習支援システムから授業に関する情報を配信します。そのため、都度、学習支援システムをチェックするようにしてください。
2.授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3.授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4.上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。初回のガイダンスに出席してください。
5.授業終了後に教室・教場で質問を受け付ける。随時、電子メールでも質問可。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 60%.
(2) Report on the lecture: 40%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】
①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
　実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。
　なお、本授業は2年生以上を対象としており、A・B連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。
　授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、バレーボールのルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第8回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	集団的技術（三段攻撃使用）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（三段攻撃を用いる）を立ててゲームを行う。
第10回	集団的技術（レシーブのフォーメーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レシーブのフォーメーション）を立ててゲームを行う。
第11回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。
第12回	集団的技術（チームコミュニケーション重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（チームコミュニケーション）を立ててゲームを行う。
第13回	集団的技術（総合）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。
第14回	授業総括と筆記試験	授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。
　本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
　必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
　授業への参画状況（60％）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
　多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.
[Learning Objectives]
1.Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】
①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。
実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。
なお、本授業（スポーツ科学Ｂ）は2年生以上を対象としており、スポーツ科学Aを受講した学生の連続受講が望ましい。
また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス及びビーチバレーのルールについて（講義）	授業のガイダンスを行い、ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第2回	基本的な動きとボールに慣れる（実習＆講義）	スポーツ科学Bからの受講者のため各技術の基本を説明する。
第3回	基本技術の復習（実習＆講義）	スポーツ科学Aで行った基本技術を復習する。
第4回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	スポーツ科学Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第5回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第6回	集団的技術・基礎（実習&講義）	スポーツ科学Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第7回	集団的技術（サーブ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（サーブ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術（レセプション戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（レセプション）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術（トスアップ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（トスアップ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術（ディグ戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ディグ）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術（スパイク戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（スパイク）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術（ブロック戦略重視）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（ブロック）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	集団的技術（総合的）・ゲーム（実習&講義）	チームごとに戦略（総合的に）を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い等を理解し、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参画状況（70%）を主な基準として、授業内でのレポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえるよう努める。

【その他の重要事項】
・対象者は2年生から4年生で公開科目を受講可能な学生とする。
・バレーボール現SVリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.
[Learning Objectives]
1.Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2.Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3.You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.
[Learning activities outside of classroom]
Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/policy]
The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2.目標達成に寄与する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進する栄養、サプリメントなどに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、安全講習、トレーニングの理論の学習、トレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進する栄養、サプリメント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、トレーニング内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
4	グループワーク1	描画法を用いたグループワークに取り組む（講義）
5	グループワーク2	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
6	トレーニングの理論を学ぶ	トレーニングの理論と実践方法を学ぶ（講義）
7	トレーニングの理論と実習3	サプリメントとその摂取方法について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	栄養不足が招く悪影響について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	スポーツ現場での栄養指導について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	栄養摂取のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	アミノ酸の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	脂質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	糖質の役割について学んだ後、トレーニング実習に取り組み記録を収集する（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
１．①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20％の配分として総合評価します。
２．本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
３．授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
４．リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
５．授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】
多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定します。本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2.授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学A・Bの通年履修が理想的です。
3.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館5階の予定です。
4.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students learn the basic theory and methods of physical training that contribute to the achievement of own goals, such as performance enhancement, body makeup, dieting, and health maintenance and improvement, and devise their own training program. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to learn the basic theory and methods of training.
2.to devise and implement original training program that contributes to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of nutrition and supplements to promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

中澤　史

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【到達目標】
1.実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2.目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践する。
3.トレーニング効果を促進するリカバリー、栄養摂取、睡眠の方法などに関する知識を習得する。
4.トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
本授業の主な流れは次の通りである。①授業の初期では、トレーニングの理論に関する学習やトレーニング目標の設定等に取り組む。②各授業では、トレーニング効果を促進するリカバリーの方法、睡眠、栄養、減量のポイント等について学習した後、トレーニング実習に取り組み、その内容を記録するとともに、授業から得た知識や気づき等をリアクションペーパーにまとめる。③最終授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの成果をレポートにまとめる。最終授業時にリアクションペーパー等の課題に関する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明及び受講者の決定を行う（講義）
2	トレーニングの理論と実習1	安全講習及び各種機器の使用方法を学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
3	トレーニングの理論と実習2	体組成の測定及びトレーニング目標を設定した後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
4	トレーニングに関する教養教育1	スポーツ傷害に関する予備知識を習得する（講義）
5	トレーニングに関する教養教育2	トレーニング効果を高める予備知識を習得する（講義）
6	トレーニングに関する教養教育3	栄養、発汗、睡眠に関する予備知識を習得する（講義）
7	トレーニングの理論と実習3	睡眠の質について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と実習4	睡眠時間と就寝法について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
9	トレーニングの理論と実習5	リカバリーとトレーニングの関係について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
10	トレーニングの理論と実習6	生体リズムと体内時計について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
11	トレーニングの理論と実習7	最終目標から逆算した栄養戦略について学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
12	トレーニングの理論と実習8	減量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
13	トレーニングの理論と実習9	増量のポイントについて学んだ後、トレーニング実習に取り組む（講義及び実習）
14	総括、トレーニングの理論と実習10	体組成とトレーニング記録を測定した後、レポートの作成に取り組む（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次の学習活動への取り組みを推奨します。
1. 計画的なトレーニングを実践する。
2. 食事と睡眠時間を記録する。
3. トレーニング、栄養、睡眠に関する資料を読む。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
１．①授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパーが80%、②課題・レポートが20％の配分として総合評価します。
２．本授業ではトレーニング記録の測定・収集・分析等を行う性質上、やむを得ない理由がない限り、全回出席を原則とします。やむを得ない理由による欠席とは、インフルエンザ等の感染症や冠婚葬祭等による欠席を指します。やむを得ない理由によって欠席した場合、証明書類（診断書等の欠席理由を明記した資料）を提出してください。
３．授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
４．リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。課題・レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
５．授業内容の説明や受講者の決定等を実施するため、必ず初回授業から出席してください。また、授業とは無関係な行為（携帯電話の使用、私語、食事等）は禁止します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的人間関係の構築を目的とした体験型学習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1.トレーニングに適した服装と室内用シューズを準備してください。トレーニングウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2.学習支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができる機器を準備してください。

【その他の重要事項】
1.初回授業時に受講者（30名程度）を決定するため、本授業の受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成にはトレーニングの継続が不可欠となるため、スポーツ科学Bの履修者は春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2.初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3.原則として対面授業を実施する予定です。ただし、オンライン授業等に変更される場合があるため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4.授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will acquire practical theories and methods of physical training that contribute to achieving individual goals such as performance enhancement, body sculpting, weight loss, and health maintenance and improvement, and will design their own training programs. Students will also understand that training activities that contribute to physical health can also be a means of contributing to psychological and social health.
【Learning Objectives】
1.to acquire practical training theory and methods
2.to devise and implement effective and practical training program that contribute to the achievement of own goals.
3.to acquire knowledge of recovery, nutrition and sleep methods that promote the effects of training.
4.to understand that training is a means of contributing not only to physical health, but also to psychological and social health.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.
1.to practice systematic training.
2.to record your meals and sleeping hours.
3.to read material on training, nutrition and sleep.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.Participation in class and submission of reaction papers and other materials : 80%.
2.Report assignments : 20%.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	卓球①	道具操作、ルール
第6回	卓球②	基礎動作、サーブ
第7回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第8回	ピックルボール②	基礎動作
第9回	消費とスポーツ	（講義）余暇、記号、物語
第10回	教育とスポーツ	（講義）「効果」の誤認、規格化、体罰
第11回	社会階層とスポーツ	（講義）社会移動、ハビトゥス、再生産
第12回	ピックルボール③	戦術、ポジショニング
第13回	卓球③	ダブルスの動き方
第14回	科学とスポーツ	（講義）必然性、客観性、合理性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
本授業は定員制授業です。
①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】
Outline and objectives:
This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.
Goal:
By the end of the course, students should be able to:
1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life
Work to be done outside of class:
The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.
Grading criteria:
1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).

2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
- Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
- Whether the assignment appropriately reflects the course content.
- Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
- Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

魚住　智広

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、習慣的な身体活動を通じて、他者とともに運動するための知識と技能を身につけることです。主にラケット競技を行いながら、日常生活におけるレクリエーションの意義について理解を深めます。本授業で取り組む運動の負荷は大きくないため、運動習慣のない学生も十分に受講可能です。

【到達目標】
1. 身体活動を通じて、安全に運動を実施するための知識を修得できる。
2. 個々の能力に応じて、他者と運動するための技能を修得できる。
3. 運動に親しみながら、身体や体調の変化に気づくことができる。
4. 日常生活におけるレクリエーションの意義と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
実技授業、講義授業ともに対面で実施します。講義授業後は、指定の課題を期限内に提出してください。提出された課題は、次回授業でフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	（講義）スケジュール、成績評価、受講上の注意点
第2回	バドミントン①	ルール
第3回	バドミントン②	道具操作
第4回	バドミントン③	基礎動作
第5回	ピックルボール①	道具操作、ルール
第6回	ピックルボール②	基礎動作
第7回	ピックルボール③	戦術、ポジショニング
第8回	ピックルボール④	ダブルスゲーム
第9回	地域の生活とスポーツ	（講義）開発、観光のまなざし、ジェントリフィケーション
第10回	メガスポーツイベント	（講義）レガシー、ショック・ドクトリン、ナショナリズム
第11回	障害とスポーツ	（講義）感動ポルノ、社会モデル、インペアメント
第12回	卓球①	道具操作、ルール
第13回	卓球②	基礎動作、サーブ
第14回	差別とスポーツ	（講義）歪められたカテゴリー、構造的差別、アクティビズム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中は、授業内容を踏まえ、自らの日常生活と結びつけながら情報収集に取り組んでください。また適宜文献を紹介しますので、復習時間に精読してください。

【テキスト（教科書）】
特にありません。授業計画に基づいて適宜スライドを提示します。

【参考書】
授業内で教員が紹介する場合があります。

【成績評価の方法と基準】
1. 実技授業の目標達成度（68%）、講義授業後に提出する課題（8%×4=32%）の総合評価とします。
2. 講義授業後の課題がすべて未提出の場合は単位を取得できません（講義授業後の課題を1つ以上提出することを単位取得の条件とします）。
3. 出席回数が授業実施回数の2/3（10回出席）に満たない場合は単位を取得できません。
4. すべての課題において、以下を評価の基準とします。
・課題の内容を理解したものであるか
・授業の内容を適切に踏まえたものであるか
・レポートの体裁をなしたものであるか
・適切な引用がなされているか（盗用・剽窃などの不正行為をしていないか）

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートより「適度な運動だけでなく、座学もあり、スポーツを歴史的観点で捉えることのできるいい授業であった」「身体を動かす機会が大学生になってほとんどなくなっていたため、健康のためにも体を動かすことが出来てよかった」「能力差もカバーするような内容にしていただいたのでよかった」等の回答がありました。本授業は、スポーツに関する人文社会科学の最新の研究動向を踏まえ、授業内容を随時更新します。また、戸籍上の性別に基づくグループ分けを行わず、誰もが安心・安全に授業を受講できることをなによりも重視します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて課題提出を行います。課題を作成・提出するためのデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】
本授業は定員制授業です。
①受講を希望する学生は、第1回目の授業の前々日23:59までに、学習支援システム上で希望する授業を「仮登録」してください。
②仮登録者数が定員数を超え、選抜が必要と判断された場合は、第1回目の授業の前日に選抜を実施します。
③第1回授業の前日23:59までに、学習支援システム上で受講許可者を発表します。
また受講生が定員に満たない場合、追加で補充を行います。希望する学生は、授業を実施している教場に直接来てください。補充の実施の有無および結果は学習支援システム上で通知します。

【Outline (in English)】
Outline and objectives:
This course aims to help students acquire the knowledge and skills necessary to engage in physical activity with others through structured exercise. The course mainly emphasizes the value of recreation in daily life, with racket sports as the primary activity. While various types of exercise and equipment are used, the physical intensity is moderate, making the course suitable even for students without prior exercise habits.
Goal:
By the end of the course, students should be able to:
1. Understand safe exercise practices through physical activity.
2. Develop skills to engage in physical activity with others according to individual ability.
3. Recognize changes in their physical condition while participating in sports.
4. Understand the significance and challenges of recreation in daily life
Work to be done outside of class:
The standard preparation and review time for each class is two hours. During the course period, students are expected to gather relevant information based on the class content, connecting it to their own daily lives. Any readings introduced will be expected to be completed as part of your review time.
Grading criteria:

1. Final grades will be based on the achievement of course goals (68%) and the completion and quality of assigned tasks (8%×4=32%).
2. If students submit none of the assignments, they will not receive credit.
3. Students must attend at least two-thirds of the total number of classes (i.e., at least 10 sessions) to receive course credit.
4. All assignments will be evaluated based on the following criteria:
- Whether the student demonstrates an understanding of the assignment topic.
- Whether the assignment appropriately reflects the course content.
- Whether the assignment meets the format requirements of an academic report.
- Whether sources are properly cited (i.e., no plagiarism or other forms of academic misconduct).

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を、健康づくりの三本柱である「ストレッチング」「ジョギング」「ストレングス（筋力トレーニング）」を通して改善し、心身のコンディションを整えることを目的としたアクティブラーニング型の科目です。
受講者自身が体を動かしながら学ぶ実践的なプログラムを通して、コンディショニングに関する基礎的な知識と、日常生活に応用できる実践力を身につけます。２年生以上の学生を対象とし、自らの健康管理を主体的に行うためのスキル習得を目指します。

【到達目標】
１．トレーニングの原理・原則および運動の功罪を理解している。
２．スマートフォンアプリ等を用いて、身体コンディションに関わる測定と記録が正しく行える。
３．ストレッチングを目的に応じて正しく実践できる。
４．ジョギングまたはウォーキングを安全かつ適切なフォームで行える。
５．ストレングストレーニングを安全に実施し、その効果をレポートとしてまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。
１）シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
２）ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
３）授業のテーマに取り組む
４）ウォームダウンを行う
５）リアクションペーパーを提出する
授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Google クラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	＜教室＞ ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	シェイプアップ・トレーニングⅠ	＜トレセン＞ ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
4	筋力の測定	＜トレセン＞ ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニングⅡ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
6	有酸素能力の測定	＜トレセン＞ ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
7	シェイプアップ・トレーニングⅢ	＜大学周辺＞ ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
8	シェイプアップ・トレーニングⅣ	＜大学周辺＞ ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングⅤ	＜トレセン＞ ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングⅥ	＜トレセン＞ ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングⅦ	＜大学周辺＞ ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングⅧ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングⅨ	＜トレセン＞ ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	＜トレセン＞ ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。
特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。
１．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
２．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
３．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
４．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版

５．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
６．山本利春著，疲れたときは、からだを動かす，岩波書店
７．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】
単位認定は到達目標に示した５項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
１．授業中のトレーニングへの参画状況：**30**％
２．リアクションペーパー：**30**％
３．春学期の学修過程をまとめたレポート：**40**％
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
1）スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
2）スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
3）タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
4）飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
5）必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
6）筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
7）室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
8）替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
9）小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】
1. 授業１回目のガイダンスにおいて、履修希望者が**30**名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。
具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 1を踏まえ、スポーツ科学Ｂまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。
3. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This active-learning course aims to improve reduced physical functions caused by hidden obesity and lack of exercise through the three pillars of health promotion: stretching, jogging/walking, and strength training. Students learn foundational conditioning knowledge and practical skills through hands-on activities.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Understand fundamental training principles and the benefits and risks of exercise.
Conduct and record physical measurements using smartphone applications.
Perform stretching appropriately for specific purposes.
Execute jogging or walking safely with proper form.
Perform strength training safely and summarize its effects in a written report.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review and practice exercises introduced in class at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, body temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements, applying course learning continuously. Standard preparation and review time is two hours each.
【Grading Criteria / Policy】
Evaluation is based on the five learning objectives and consists of:
Participation in training during class: 30%
Reaction papers: 30%
Final report summarizing the semester's learning process: 40%
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は２年生以上が対象です。
　トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、各自の目的に応じたトレーニング方法に着目したプログラムを作成計画し、実践した効果を検証します。
　履修者自ら作成したトレーニング・プログラムを実践していくアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】
1：トレーニング器材を安全に使用できる
2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
5：トレーニングの結果を正しく記録できる
6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
　本授業は、対面授業とオンライン授業を組み合わせたブレンド型授業で開講します。ブレンド型授業とは、14回の授業のうち、対面が望ましい回を対面で実施し、それ以外はオンラインで実施する授業方法です。
　授業では、履修者自身が設定した目的に基づいてトレーニング・プログラムを作成し、その実践と検証を行うアクティブラーニング型の方法で進めます。前半は身体組成や筋力などの測定結果を分析し、トレーニング方法の検討とプログラムの立案を行います。後半は作成したプログラムを段階的に実践し、種目・順序・強度・方法を適宜見直しながら完成度を高めます。最終回には、実践結果の測定と効果の評価を行い、学修過程と成果をまとめて発表します。毎回、トレーニングの記録と振り返りを行い、主体的に学びを深めることを重視します。
　なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、Googleクラスルームまたはe-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・測定	＜トレセン＞ ①シラバスの確認（授業概要と到達目標の説明） ②授業の進め方およびルールと評価方法 ③授業計画 ④受講者の決定 ⑤使用する施設・器材についての解説 ⑥授業支援システムへのメールアドレス登録とGoogleフォームへの回答 ⑦Inbodyを用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う
2	課題検討期Ⅰ・筋力（下肢）測定	＜トレセン＞ ①Inbodyを用いた測定の結果を分析し、評価を行う ②下肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
3	課題検討期Ⅱ・筋力（上肢）測定	＜トレセン＞ ①上肢の筋力を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
4	課題検討期Ⅲ・柔軟性測定	＜トレセン＞ ①柔軟性を把握するための測定を行い、結果を分析し、評価を行う
5	計画立案期Ⅰ・トレーニングの目的とプログラム	＜トレセン＞ ①グループワークを行う ②トレーニングの方法と効果を整理する ③テーマに適したトレーニング方法を検討し、個々に取り組む課題を明確にする
6	計画立案期Ⅱ・トレーニングプログラムの決定	＜トレセン＞ ①トレーニングマシンの操作方法の確認 ②効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ③トレーニングプログラムを作成する
7	トレーニング課題研究Ⅰ（施設利用・実践トラブル編）	＜教室またはオンライン＞ ①トレーニング施設の利用やトレーニング中に生じる典型的な問題を取り上げ、グループまたは個人で解決策を検討する ②提示した解答をAIで評価し、不足する知識や経験に関する情報をAIから収集して学修を深める
8	トレーニング課題研究Ⅱ（食事・休養・コンディショニング編）	＜教室またはオンライン＞ ①食事、休養、体調管理などコンディショニングに関する課題を提示し、グループまたは個人で解決策を検討する ②考えた解答をAIに評価させ、必要な知識や改善点をAIを活用して補いながら理解を深める
9	計画実行期Ⅰ・トレーニングプログラム種目の再検討	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する

10	計画実行期Ⅱ・トレーニング強度に着目	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅲ・トレーニング方法に着目	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法またはピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ・トレーニング方法の実践	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの方法を決定し実践する ②実施したトレーニングを記録する
13	効果検証期	＜トレセン＞ ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	＜教室＞ ①取り組んだ学修過程を発表する ②今後の課題を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
具体的には、授業外でトレーニングセンターや自宅において授業で扱ったトレーニング等の課題を再学修してください。
特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。
１．出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
２．ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCCメディアハウス
３．ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
４．エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
５．伊藤マモル著，若さを伸ばすストレッチ，平凡社新書
６．伊藤マモル監，ひとりで巻けるテーピング，日本文芸社
７．伊藤マモル監，基本のストレッチ，主婦の友社
８．斎藤真嗣著，体温を上げると健康になる，サンマーク出版
９．山本ケイイチ著，仕事ができる人はなぜ筋トレをするか，幻冬舎新書
１０．吉江和彦著，エグゼクティブが身体を鍛えるワケ，グラフ社

【成績評価の方法と基準】
単位認定は到達目標に示した６項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。
１．授業中のトレーニングへの参画状況：30％
２．リアクションペーパー：30％
３．本授業の学修過程をまとめたレポート：40％
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
1）スポーツウエア：運動を安全で効率的に実践できる
2）スマートフォン：活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能
3）タオル：汗を拭いたりストレッチの補助として使えるため、衛生面と実技の安全性向上に役立つ
4）飲料（水またはスポーツドリンク）：脱水や熱中症を防ぎ、安全に運動を継続するために必要である
5）必須ではないが、活動量計（スマートウォッチ等）：心拍数や歩数を正確に把握でき、学習記録や自己管理の精度を高められる
6）筆記用具（またはタブレット）：セルフチェックや気づきの記録、リアクションペーパー作成に必要である
7）室内用・屋外用シューズ：トレーニング施設のルールに対応し、安全に実技を行うために求められる
8）替えのウエア：汗をかいた後に着替えることで、衛生的かつ快適に授業を継続できる
9）小型ビニール袋またはランドリーバッグ：汗で湿ったウエアを持ち帰る際の衛生管理のために必要である

【その他の重要事項】
1. 授業１回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。
　具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

【Outline (in English)】
The subject is over 2nd grade.
【Course outline】
This course is designed for second-year students and above. Students develop a personalized strength-training program based on their individual goals and evaluate its effectiveness through measurement, analysis, and practice. In the first half of the course, students assess body composition, muscular strength, and flexibility. In the second half, they implement and refine their training program, concluding with an evaluation and presentation of their learning outcomes.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Use training equipment safely.
Conduct appropriate physical measurements using training devices.
Evaluate training effects based on measurement results.
Perform training methods suited to individual goals.
Accurately record training results.
Present the learning process based on the verification of training effects.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review and practice training tasks at the Training Center or at home. They should monitor changes in body weight, body fat, temperature, diet, hydration, sleep, and bowel movements to support self-management. Standard preparation and review time is two hours each.
【Grading Criteria / Policy】
Assessment is based on the six learning objectives and consists of:
Participation in training during class: 30%
Reaction papers: 30%
Final report summarizing the learning process: 40%
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　もし授業中に大きな地震が起きて、そのまま大学に泊まることになったら？
　この授業では、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、大学で帰宅困難になった状況を想定し、一泊二日の「キャンパス型避難所演習」を行います。ライフラインが制限された環境の中で、トイレ対策、非常食、教室での就寝などを実際に体験しながら、災害時でも健康を保ち生活する力（レジリエンス）を学びます。防災を「知識」ではなくリアルな体験から学ぶ授業です。**自分の身を守る力と、周囲と協力して問題を解決する力を身につけたい人の参加を歓迎**します。
　帰宅困難という厳しい状況においても、自分の健康を損なわず、安全に滞在し、自宅に帰るための自助防災力と、協働的な問題解決力を身に付けることを目的としています。

　具体的には、断水時のトイレ処理、非常食の栄養評価、教室での就寝環境が身体に与える影響などを、健康測定データと主観的記録の両面から検討し、災害時のコンディショニングを科学的に理解します。あわせて、最小限の携行品で生活の質を高める工夫をグループワークで明確にし、自立した避難者として行動する意義と、共助につながる視点を学びます。
　さらに、体験から得た知見を医学・公衆衛生・歴史など多角的に整理し、現代の環境に適した実効性の高い対応策へと発展させます。最終的には、日常の備えや携行品を自ら見直し、どのような環境下でも心身の健康を保ちながら安全に行動できる判断力の獲得を目指します。

【到達目標】
1．災害時に自分の健康と安全を守る行動判断ができる。
2．トイレ・食事・携行品・就寝環境の課題を見つけ、改善案を示せる。
3．グループで協働し、実行可能な解決策をまとめられる。
4．専門的な見地に立って、解決策を検証・修正できる。
5．学びを日常の備えに生かし、自助防災力を高められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
E 実験/実習/実技 /Experiment、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】
　本授業は**オータムセッション期間中に市ヶ谷キャンパスにおいて開講**します。授業の定員は30名とします。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。
　授業は、講義・演習・体験学習・グループワークを組み合わせて実施します。
　第1回から第4回の事前授業では、災害に関する基礎知識、帰宅困難者の実態理解、健康リスクや避難時の課題抽出、健康に関するデータの計測方法などを学びます。
　第5回から第14回は一泊二日の大規模自然災害後の帰宅困難者を疑似体験する授業を行います。
　本授業は「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、教室での宿泊を通じて、トイレ衛生、非常食、携行品、就寝環境などの生活課題を体験的に学び、体験から得られた問題について、個人・グループで解決策を検討し、その評価と知識補足を通じて内容を深化させます。最終回では体験結果をレポートとしてまとめ、自助防災力の向上につなげます。
【履修希望者へ】
1．履修申請方法
　履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。
　●申込フォーム（Googleフォーム）
　https://forms.gle/npwtTr725NCiv9Yi8
　●申請期間
　2026年3月14日（土）17:00～3月31日（火）12:00
　※期間外の申請は受け付けられません。
2．申込に関する注意
1）履修者選抜について：本科目には定員があります。
　応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。
2）申請後の流れ・注意事項
①申込完了後、Googleフォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。
内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。
※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。
②履修者の決定は**4月9日（木）**です。何らかの事情で**履修を取り消す場合は、4月5日17:00まで**に、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。
※　mamo1@hosei.ac.jp
③**履修登録は2026年度春学期に所属学部事務局が一括して登録します**。学生自身による履修登録は不要です。
④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。**受講しなかった場合の成績はE評価**となるので注意してください。
3）授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。
4）申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。
　なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、GoogleクラスルームまたはE-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	9月11日（2限）：ガイダンス	1）防災教育授業の目的 2）授業におけるリスク管理と誓約 3）大規模自然災害時の帰宅困難者の実態把握 4）一泊二日の疑似的帰宅困難者体験を「実証実験」と定義するマインドセット
2	9月11日（3限）：健康リスク・ブレインストーミング	1）グループワーク（アイスブレーク） 2）帰宅困難者に生じる身体的・精神的な健康問題を抽出
3	9月11日（4限）：発表と課題共有	1）解決策を議論する 2）発表資料を作成する 3）発表会（グループごとの発表資料をもとに） 4）クラス全体での課題（トイレ・食・装備・睡眠）の再認識

4	9月11日（5限）：宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング	1）一泊二日の授業に関するオリエンテーション 2）健康に関する測定の意義を再確認する 3）日常の健康データ計測（歩数・睡眠・心拍等）の開始指示
5	9月13日（2限）：集合・疑似体験シナリオの確認	1）教室集合 2）健康測定 3）スマホ・PC以外の外部連絡制限など、疑似帰宅困難者としてのルールを徹底 4）一泊二日のスケジュールと安全管理を確認 5）自分が持ってきた「携行品」を全公開 6）何があり、何が足りないか、リスト化して現状の「自助レベル」を可視化する
6	9月13日（3限）：トイレ実習	1）断水したトイレでの排泄物処理を体験 2）手順の難しさ、処理袋の扱い、臭いへの懸念など、現場で直面する精神的負荷を記録
7	9月13日（4限）：非常食摂取	1）夕食 2）大学備蓄品等の特定食のみを摂取 3）空腹感、喉の渇き、食事中の孤独感や焦燥感など、心理的変化をサンプリングする
8	9月13日（5限）：健康測定・就寝準備	1）就寝前の健康測定 2）教室の床・机・椅子を使い「朝まで眠れる環境」を設営 3）この時点での疲労度とストレス値を記録
9	9月13日（6限）：健康測定・朝食	1）起床 2）直後の健康測定 3）不十分な睡眠が身体に与えた「痛み・重だるさ」を記録 4）簡素な朝食（大学の備蓄品）を摂り、活動を再開
10	9月13日（7限）：就寝環境に関する問題_安眠と健康維持	1）個人ワーク： 硬い床や椅子での就寝による身体的・精神的苦痛を言語化し、改善案を考案 2）グループ議論： 互いの案を共有し、教室内の資源で可能な「健康を守る寝床」の解をまとめる 3）医学的エビデンス（エコノミー症候群等）に基づく修正と、より高度な環境改善の問いを得る
11	9月14日（1限）：トイレに関する問題_衛生管理と尊厳	1）個人ワーク： 実習で感じた処理の不便さや、回数制限に伴う「水分抑制」等の健康リスクを整理 2）グループ議論： 臭気・衛生・プライバシーを両立させる、受入施設でのトイレ運用ルールを策定 3）過去の災害時の公衆衛生の失敗学や、科学的消毒・処理の最新知見を引き出し、解を深める
12	9月14日（2限）：携行品・非常食に関する問題_自助の最適化	1）個人ワーク： 今回の装備と食事の過不足を振り返り、生存と健康保持に「真に必要なリスト」を再考 2）グループ議論： 「快適に過ごし、安全に再会する」ための、携行品と非常食を決定 3）栄養学・生存科学の視点から欠落を指摘してもらい、社会実装可能なレベルまで「自助」の質を引き上げる
13	9月14日（3限）：整理・資料作成	1）4つのテーマ（トイレ・食・携行品・睡眠）について、体験・問題抽出・グループの共有解・最終回答を整理 2）帰宅困難者となった時の多くの問題を解決するための多様なシミュレーションをグループで統合
14	9月14日（4限）：レポートの作成と総括	1）健康測定結果の解析： 1泊2日の心身への影響を、実体験と客観データから多角的に分析する 2）サバイバル戦略の構築： 健康を維持して帰宅するための、論理的な災害対応策を構造化する 3）行動計画の策定： 帰宅困難者体験の成果を、日頃の備えや「自助」をアップデートする具体的な指針としてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

また、授業外学習として、事前に日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で行ってもらいます。これは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

1．『自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究 (千代田区キャンパスコンソーシアム)』、令和3年度～5年度の共同研究報告書

2．『最期の声 ドキュメント災害関連死』(山川徹 著 / KADOKAWA)

3．『いのちを守るために知る 災害メカニズム図鑑』(京都大学防災研究所 監修 / 二見書房)

4．『人が死なない防災』(片田敏孝 著 / 集英社新書)

5．『帰宅困難者対策ハンドブック』(内閣府 / 東京都)

6．『避難所でのトイレ対策マニュアル』(特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 編)

この他も必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％

2）レポート・作成した資料等：40％

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくない。

ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
　本授業は、想定外の事態に対応する「実証実験」の要素をもった授業です。
　重要なことは、**本授業が「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視していること**です。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品については各自の判断で持参することを推奨します。
　また、本授業は大学の教室内での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての**同意確認書（保護者確認を含む書類）**を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。
　以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】
１．本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出ること。安全確保のための離脱は成績評価に不利に働くものではありません。
２．授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。
３．本授業で得られた健康測定結果や議論の内容、演習風景の写真は、統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは演習終了時までに申し出てください。
４．授業終了直後の帰宅路そのものが、最後の実証実験です。教室での体験と、自身の現在の住環境・備蓄・家族との連絡手段を照らし合わせ、即座に改善行動に移すことを強く期待します。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course provides an experiential, problem‐based disaster preparedness program through a one‐night, two‐day campus‐based shelter simulation. Students experience challenges such as toilet use during water outages, emergency food, personal belongings, and sleeping conditions, while monitoring their physical and psychological responses. They refine their proposed solutions with generative AI and learn how to maintain health, make sound decisions, and strengthen personal disaster‐preparedness skills.
【Learning Objectives】
Students will be able to:
Make safe and appropriate decisions during disasters.
Identify and improve issues related to toilet use, food, belongings, and sleeping environments.
Collaborate to develop realistic solutions.
Use generative AI to validate and refine proposals.
Apply learning to everyday preparedness and enhance personal resilience.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected, as a general rule, to spend approximately two hours on preparation and two hours on review for each of the 14 class sessions.
Additional tasks include reviewing materials, checking personal emergency supplies, organizing health data and notes from the simulation, and conducting basic daily health monitoring before the autumn session.
【Grading Criteria / Policy】
Class participation and engagement: 60%
Assignments and report: 40%
Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.
Evaluation will be comprehensive.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：スプリングセッション/Spring Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

もし大きな災害が起きて、避難所ではなく、自分でキャンプ生活をしながら避難する選択をしたら？

本授業は、「キャンパス型避難所演習で防災を楽しく学ぶ」をコンセプトに、首都圏で大規模災害が発生した際に想定される「帰宅困難」状況をテーマに、1泊2日の滞在型演習を通して、健康管理・行動判断・協働行動の防災リテラシーを実践的に学ぶ社会連携フィールドワーク科目です。実際の防災環境を想定した演習やグループ活動を通して、「自分の身を守る力」と「他者と協力して行動する力」を身につけることを目的としています。

キャンプを楽しみながら、災害時に本当に役立つスキルを身につけたい人の参加を歓迎します。

日本の指定避難所における雑魚寝や集団生活は、プライバシーの欠如に加え、エコノミークラス症候群や感染症、精神的ストレスといった深刻な健康被害（災害関連死のリスク）を抱えています。また、乳幼児を擁する家族など要配慮者への対応も十分とは言えず、2021年の制度改定後も、一般避難者には「自立した避難」の知恵が求められています。

本授業では、こうした屋内避難の限界を背景に、「避難所に行かない選択肢」としての大学キャンパスでの屋外キャンプ型避難を「新しい避難スタイル」として実践的に学びます。特に、不自由な環境下で食事・睡眠・衛生を自らマネジメントする術を習得します。身体データに基づき、過酷な状況下で心身の健康を維持するためのセルフヘルスケアスキルを学びます。

【到達目標】

1．災害時における自助行動の選択肢として「キャンプ避難」の可能性と限界を説明できる
2．猛暑・衛生・睡眠・栄養・水分に関するリスクを理解し、対策を立てられる
3．テント設営、生活動線設計、役割分担ができる
4．自身の健康状態をモニタリングし、異常に気づき行動できる
5．グループで課題を議論し、実行可能な解決策を導出できる
6．実習前後の身体・心理データをもとに振り返り、科学的に考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

本授業は、スプリングセッション期間内に、事前授業（2027年3月8日）は市ヶ谷キャンパスにて、宿泊を伴う実践演習（2027年3月11日～12日）は多摩キャンパスにおいて開講する。授業の定員は30名とする。履修希望者が定員を超過した場合は履修者を選抜します。

授業では、テント設営、生活環境づくり、健康管理、役割分担、食料・水の確保等について、学生主体で計画・実行し、その過程と成果を振り返ります。

【授業実施形態】

1．事前授業を市ヶ谷キャンパスで行う（第1～4回授業）。
2．事前授業では、教員から提示された課題に対して、①グループ討議⇒②問題抽出⇒③対策案作成⇒④発表（意見交換）の流れで、グループごとに「自分たちの答え」を導くプロセスを踏む。
3．数日間の準備期間を経て、**多摩キャンパスにおいて一泊二日のロールプレイ型キャンプ実習**（第5～14回授業）を実施する。
4．強い寒気や悪天候時には内容を変更または中止し、暖房設備のある校舎内に宿泊する場合がある。

【授業時間に関する注意】

本授業は、市ヶ谷キャンパスで実施する回は市ヶ谷の時間割、多摩キャンパスで実施する回は多摩の時間割に基づいて行う。キャンパスによって授業時限が異なるため、履修者は各回の実施時限を事前に必ず確認すること。

【履修希望者へ】

1．履修申請方法

履修を希望する学生は、以下の申請フォームより申し込んでください。

●申込フォーム（Googleフォーム）
https://forms.gle/7BcazVda5FVytKQaA
●申請期間
2026年10月16日（月）17:00～11月13日（金）15:00
※期間外の申請は受け付けられません。

2．申込に関する注意

1）履修者選抜について：本科目には定員があります。
応募者が募集定員を超過した場合は、履修希望アンケートを実施し、その回答内容を参考に科目責任者が履修者を選抜します。選抜結果は大学メール（Gmail）にて通知します。なお、選抜の基準・過程および結果の理由等に関する個別の問い合わせには応じません。

2）申請後の流れ・注意事項
①申込完了後、Googleフォームより「申込内容の確認メール」が自動送信されます。
内容を必ず確認し、メールは削除せず保管してください。
※メールが届かない場合は申請が完了していない可能性があります。申請期間内に再度登録してください。
②**履修者の決定は11月24日（月）です。**何らかの事情で**履修を取り消す場合は、11月19日17:00まで**に、必ず履修辞退（学籍番号・氏名・辞退理由）を以下のアドレス宛に申し入れてください。
※　mamo1@hosei.ac.jp
③**履修登録は2027年度春学期に所属学部事務局が一括して登録します。**学生自身による履修登録は不要です。
④履修者として選ばれた後は、履修の取り下げはできません。**受講しなかった場合の成績はE評価となるので注意してください。**

3）授業の詳細（実施場所・日程・持ち物等）は、履修者決定後に別途案内します。

4）申請後は、大学メールを日常的に確認できる状態にしておいてください。

なお、授業の連絡、学生からの質疑、フィードバックに関しては、GoogleクラスルームまたはE-mailやLINEを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（2限）：ガイダンス&アイスブレイク_なぜ「生きる力」を学ぶのか	1）授業の目的・評価方法・安全配慮説明 2）災害時の帰宅困難問題の共有 3）アイスブレイク「もし今ここで災害が起きたら？」 4）キャンプ避難という選択肢の提示 5）実習シナリオ骨子の共有（大地震・孤立・停電）

第２回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（3限）：課題発見ワークⅠ_寒冷環境と健康リスクを見抜く	※教員から課題提示：「真冬に暖房と電気が止まったら何が起きるか？ …誰にとって一番厳しい環境か？」 ＜ヒント＞ １）低体温症 ２）脱水・エコノミークラス症候群 ３）睡眠障害 ４）呼吸器感染症と乾燥 ５）火気・電力使用に伴う二次災害 ６）その他
第３回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（4限）：課題発見ワークⅡ_生存に必要な生活要素を設計する	※教員から課題提示：「48時間、生き延びるには何が必要か」 ＜ヒント＞ １）水 ２）食料 ３）睡眠 ４）衛生…トイレ・ゴミ ５）体温調整 ６）防犯 ７）情報
第４回：市ヶ谷キャンパス	3月8日（5限）：安全管理・健康管理理解_自分を守れない人は誰も守れない	宿泊の諸注意・健康測定・モニタリング １）一泊二日の授業に関するオリエンテーション ２）中止基準・応急対応 ３）健康に関する測定の意義と方法 ４）持参物最終確認 ５）健康測定（歩数・睡眠・心拍数等）の開始
第５回：多摩キャンパス	3月11日（2限）：キャンプ構築実習Ⅰ_災害後、安全なルートで集合せよ	１）現地集合 ２）被災した前提の詳細シナリオ提示：役割分担 ３）フィールド選定・整地 ４）テント構造理解・設営講習
第６回：多摩キャンパス	3月11日（3限）：キャンプ構築実習Ⅱ_生活空間を完成させる	１）グループごとの設営完遂 ２）耐風・浸水対策 ３）動線設計 ４）簡易昼食（各自持参）
第７回：多摩キャンパス	3月11日（4限）：火気管理とエネルギー確保_熱源を制する者は夜を制す	１）薪・焚き付け採集 ２）火起こし ３）安全管理 ４）モバイルバッテリー残量計算 ※教員から課題提示：「スマホの電池切れ後、何を見る？」
第８回：多摩キャンパス	3月11日（5限）：野外炊事マネジメント_限られた資源で食を成立させる	１）下処理 ２）加熱 ３）食中毒予防 ４）水使用量管理
第９回：多摩キャンパス	3月11日（6限）：ロープワーク＆空間拡張_結べる人は生き残る	１）各種結索 ２）タープ設営 ３）資材固定 ４）タープやブルーシートで簡易更衣室を作る
第10回：多摩キャンパス	3月11日（7限）：夜間安全管理・健康測定_夜をどう越えるか	１）夕食 ２）衛生管理 ３）健康測定 ４）夜間リスク確認 ５）就寝環境整備 ６）照明・騒音環境の把握 ７）睡眠環境と他者配慮
第11回：多摩キャンパス	3月12日（1限）：起床・健康評価・朝食_野外生活は身体に何を与えたか	１）睡眠評価 ２）心身データ確認 ３）火起こし・朝食
第12回：多摩キャンパス	3月12日（2限）：突発課題ロールプレイ_想定外に対応せよ	※教員から課題提示：「現場で高確率で発生する問題に対応せよ」 １）水不足 ２）体調不良者 ３）電源喪失 ４）食料欠乏 ５）追加推奨：盗難・騒音・プライバシー問題 ６）幼児がいる家族が合流 ７）犬を連れた避難者が来た ８）女性の更衣場所がない
第13回：多摩キャンパス	3月12日（3限）：撤収・LNT実習_痕跡を残さず立ち去る	LNT実習：Leave No Trace Training １）装備清掃 ２）乾燥 ３）分別 ４）フィールド点検 ５）迅速移動シミュレーション
第14回：多摩キャンパス	3月12日（4限）：振り返りと社会実装_自助から共助へ	１）データ共有 ２）改善点抽出 ３）「理想のキャンパス避難モデル」提案 ４）レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

これに加えて、指定資料や関連ニュースの確認、非常持出品や防災用品の調査・点検、体験学習で得た気づきや健康データの整理、レポート作成に向けた記録の見直しを行うことを求めます。

＜例＞

１）災害時の避難生活や避難所環境に関する新聞、雑誌、書籍、Web記事等の事前確認

２）授業で扱った事例や課題についての追加調査・振り返り

３）実習に向けた個人装備・持参物の確認と準備

４）グループ課題に関する情報収集・意見整理

また、スプリングセッション前には日常生活における簡易的な健康測定（睡眠時間、歩数、心拍数等）を各自で実施する予定です。これらは、帰宅困難者疑似体験時に生じるストレス下の心身状態と比較し、体験による変化や健康リスクを客観的に把握することを目的とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

１．ビジュアル「生きる技術」図鑑：防災・キャンプに役立つサバイバルテクニック、かざまりんぺい／子供の科学編集部（ナツメ社）

２．キャンプ×防災のプロが教える 新時代の防災術、寒川 一（学研プラス）

３．防災のサバイバル、国崎信江／山本典生（監修）（主婦の友社）

４．ぼくらの災害サバイバルBOOK、国崎信江（監修）（主婦の友社）

５．みんなが知りたい! 自然災害のすべて：日本でおきる災害のしくみから防災へのとりくみまで、菅井貴子（技術評論社）

【成績評価の方法と基準】

１）授業中の活動への参画状況および授業態度（成果発表）：60％

２）レポート・作成した資料等：40％

授業は全回出席が原則であり、特にスポーツ、トレーニング、コミュニケーションが教材となる性質上、欠席は望ましくありません。

ただし、成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していないため、学生の意見を取り入れながら柔軟に実施します。

【学生が準備すべき機器他】
本授業は、「被災直後に十分な物資を持たずに集合せざるを得ない状況」を想定し、可能な限り日常的に身につけている物や、手元にある最小限の携行品で行動する体験を重視しています。一方で、大学の授業として安全面への配慮も不可欠であることから、テントは大学が貸与し、過度な装備や特別な購入は求めませんが、健康と安全を守る観点から、最低限の物品（寒冷対策：シュラフ等の寝具、食料等）については各自の判断で持参してください。なお、授業で扱う健康指標の計測（活動量計・気温湿度等）に必要な機材も貸与します。
また、本授業は屋外での宿泊活動を伴うため、実施内容や安全配慮事項については初回授業時に十分な説明を行い、参加にあたっての**同意確認書（保護者確認を含む書類）**を提出していただきます。これは参加を強制するものではなく、実習の趣旨とリスクを共有し、安心して学修に取り組むための手続きです。
以上の趣旨を踏まえ、必要な物品は事前授業において「持参が望ましい例」として、改めて説明します。自身の体調や特性を考慮し、「健康を保持し、安全に帰宅する」ために必要な備えは各自で調整してください。

【その他の重要事項】
１，本科目の授業形態は対面形式を予定していますが、新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ状況に至った際は変更となる場合があります。授業形態の変更については、学習支援システムを通じて担当教員より周知します。なお、対面形式で実施する場合、実施場所までの交通費は参加学生の自己負担となります。
２．本科目の扱い
本科目は2026年度スプリング・セッションとして開講され、**履修登録・成績付与は2027年度春学期扱い**となります。
※以下に該当する学生は履修できません：
2026年度に卒業予定の4年生
2026年度秋学期に前期留学・SA参加予定の学生
2027年度春学期に休学予定の学生
2027年度春学期に派遣留学・SA参加予定の学生
※本科目は**2026年度秋学期および年間履修上限単位に含まれません。**
2027年度春学期に休学した場合、または派遣留学・SA参加により成績処理が行えない場合、成績は付与されません。
３．その他
１）この授業で用いるグループLINEにおいて、**誹謗中傷・迷惑行為や嫌がらせ等の悪質なメッセージが確認された場合**は、授業運営上の安全管理の立場から、その発信者個人を特定し適切に対応します。
２）2022年度は台風の影響を受け、授業計画を大幅に変更したことがありました。そのため、履修する場合は**スプリングセッション期間（授業予定日：3/8～3/12）に旅行や就職活動等の個人的な予定を組むことを控えてください。**
３）**3/11のテント泊について**
寒冷環境下で行うテント泊に関する説明は事前授業で行います。避難所を想定したキャンプをより現実的に体験するために**暖房器具**は使用しません。しかし、健康障害のリスクが高まる状況では臨機応変に対応します。
４）本授業では、身体的・精神的に一定の負荷がかかる疑似体験を含みます。持病、過度な閉所・暗所恐怖症、心身の不調がある場合は必ず事前に相談してください。授業中、体調に異変を感じた際は直ちに教員に申し出てください。**安全確保のための離脱**は成績評価に不利に働くものではありません。
５）授業期間中は、授業目的（報告・分析・AI壁打ち）以外のスマートフォン利用（SNS、動画視聴、外部への私的な連絡等）を原則禁止します。インフラ寸断時の孤立感や、限られたバッテリーをどう配分するかという『資源管理』のシミュレーションを徹底してください。
６）本授業で得られた実習風景の写真や健康測定結果、議論の内容は統計的な処理を施した上で防災学の発展に資する研究資料（学会発表・論文等）として活用する場合があります。これに同意できない場合は事前、あるいは授業終了時までに申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course addresses the health and privacy problems of Japan's evacuation shelters and introduces outdoor, campus-based camping as a practical "alternative evacuation style." By combining sports medicine with essential outdoor skills, students learn to manage food, sleep, and hygiene independently and maintain physical and mental health in lifeline- free environments.
The course aims to build personal disaster self- reliance by:
Health Management – Learning methods to prevent disaster-related health issues, including DVT and basic nutrition.
Practical Skills – Acquiring minimal-gear "disaster camping" techniques usable as everyday-based evacuation training.
Resilience – Developing the mindset and cooperative ability to adapt and improve living conditions under hardship.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
Explain the potential and limitations of camp-based self-evacuation as a disaster response option.
Understand risks related to heat, sanitation, sleep, nutrition, and hydration, and propose appropriate countermeasures.
Set up tents, design living flow lines, and assign roles effectively.
Monitor their own health status and take appropriate action when noticing abnormalities.
Discuss challenges collaboratively and develop feasible, action-able solutions.
Analyze pre- and post-exercise physical and psychological data and reflect scientifically on the outcomes.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Students are expected to:
Review news articles, books, and online materials related to disaster shelters and evacuation conditions.
Conduct additional research and reflection on issues discussed in class.
Prepare personal gear, supplies, and necessary items for the practical camp exercise.
Collect information and organize ideas for group activities.
Spend approximately two hours on preparation and review for each class session.
【Grading Criteria / Policy】
Class participation and engagement: 60%
Assignments and report: 40%
Attendance at all class sessions is expected as a general principle, and absences are particularly discouraged given the nature of the course, in which sports, training, and communication activities constitute core learning materials. However, the evaluation policy represents a general standard, and individual accommodations and assessments will be provided for students who are in poor health, observers, or those who face special physical circumstances that make standard participation difficult.
Evaluation will be comprehensive

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ａ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力(信頼関係構築力や共同行動力など)の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。
体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う(講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ネットスポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、パラスポーツのボッチャを行う(講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う(講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える(講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う(講義と実習)。
9	バスケットボール	バスケットボールを行う(講義と実習)。
10	フットサル	フットサルを行う(講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策(講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う(講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う(講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る(講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60％、期末レポート20％、授業への参画状況20％の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiやwebclassにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ教員連絡先：kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標（Learning Objectives）】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.

In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Assignments (reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

スポーツ科学Ｂ

2017年度以降入学者

西村　一帆

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(20〜30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。
全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、授業に関わる最新の連絡事項については、授業前日までに授業支援システムを通して告知する。体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	体力測定	現状の自身の体力を知るため、さまざまな測定を行う
3	体力測定のフィードバック 健康とは	体力について考える。また、健康の定義について、その背景も知る(講義)。
4	筋力アップ運動 フィットネス	トレーニング機器や自重による運動を行う (講義と実習)。
5	ニュースポーツとアダプテッドスポーツ	ニュースポーツとしてインディアカ・ソフトバレーボール、またパラスポーツとしてボッチャを行う (講義と実習)。
6	バドミントン	ネットスポーツとしてバドミントンを行う (講義と実習)。
7	自分の運動能力を考える	遺伝的背景や運動歴から自分の運動能力を知る、考える (講義)。
8	卓球	ネットスポーツとして卓球を行う (講義と実習)。
9	バスケットボール	ゴール型スポーツとしてバスケットボールを行う (講義と実習)。
10	フットサル	ゴール型スポーツとしてフットサルを行う (講義と実習)。
11	自分の潜在能力を探る	健康チェックとバランス・柔軟・歪みチェックと対策 (講義)
12	バレーボール	ネットスポーツとしてバレーボールを行う (講義と実習)。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う (講義と実習)。
14	スポーツ史	文化的背景からスポーツを考える、スポーツを知る (講義)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は各2時間を確保することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業時に取り組む課題(リアクションペーパー、小テスト、レポートなど)60%、期末レポート20%、授業への参画状況20%の配分で評価する。欠席・遅刻をした場合は評価が低下する。出席が 授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ種目を行う場合、各自の経験の有無、性差、学年に関係なくチーム編成やゲーム形式を行うので、そのスポーツの経験値の高い者は、他の受講生が満遍なく楽しめるような態度を望む。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにて連絡事項伝達、課題提出等があるので対応できるようにしておく。
教場の使用状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【その他の重要事項】
問い合わせ　教員連絡先: kazuho.nishimura.yn@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【授業の概要(Course outline)】In this course, students will deepen their understanding of the significance and role of physical activity, and develop through lectures and practical training the acquisition of basic knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, physical, and social health and self-management throughout life.
【到達目標(Learning Objectives)】
(1) Deepen their understanding of the significance and roles of physical activity from various perspectives.
(2) Students will acquire the ability to use sports activities as a means to establish a rich and healthy student life and social life.
(3) Students will acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
(4) Acquire the ability to exercise leadership and solve problems through communication with others, which is considered extremely important for students to be active in the real world after graduation.
(5) Acquire various skills that will lead to the development of employability (e.g., the ability to build trusting relationships and act in collaboration).

【授業時間外の学習(Learning activities outside of classroom)】
Students are expected to be physically and mentally prepared for the class so that they will not be physically or mentally deficient during the physical activities in class.
In addition, students should follow the instructions of the instructor for each class regarding assignments to be done after class and preparation for the next class.
【授業の概要と目的(何を学ぶか)】
It is recommended that students allow two hours each for preparation and review for this class. 【成績評価の方法と基準(Grading Criteria /Policy)】Assignments
(reaction papers, quizzes, reports, etc.) to be worked on during each class session will be allocated 60%, final reports will be allocated 20%, and class participation will be allocated 20%. Absence or tardiness will result in a lower grade. If attendance is less than 2/3 of the class sessions, the student will receive an E grade because it is considered to be less than the number of hours completed to earn credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「生理学的変化（特に体脂肪・体組成を対象）に貢献する諸要因の理解」,「健康関連指標（特に体脂肪・体組成）の測定と評価」,「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めて行きます。

【到達目標】
・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ。
・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。
その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお，身体活動の実践に向けた計画や，個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め，評価の一部とします。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第2回	身体活動によって変化する生理的要因1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第3回	身体活動によって変化する生理的要因2	身体組成（体脂肪量・骨格筋）について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第4回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価1	身体組成のうち，特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する（演習）
第5回	身体活動によって変化する生理的要因3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第6回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因（食事）について学ぶ
第7回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案1	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する（プレゼンテーション）
第8回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて，グループで改善・修正案を検討する（演習）
第9回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて，仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する（演習）
第10回	身体活動によって変化する生理的要因4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第11回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実際について学ぶ（演習）
第12回	身体活動によって変化する生理的要因5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第13回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ（演習）
第14回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき，グループで脂肪量減少や身体組成（骨格筋の増減など）に向けた身体活動案を提案する（プレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また，授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価）：80%，2）プレゼンテーションの内容：20%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
履修者はさほど多くありませんでしたが，非常に積極的に活動をしてくれました。体組成の測定時には方法によっては理解し難いように見えたものがあったため，次年度は前年度よりも時間をかけて説明したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので，必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には，事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】
本授業は，授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため，履修者の上限を原則20名とします。第1回目の授業時において履修希望者が20名を超えた場合には，履修人数の制限を行う予定です。そのため，第1回目の授業には必ず出席してください。体調不良等でどうしても出席できない場合には，事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

また，本授業では，演習を行う回がありますが，単に履修者が運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。
なお，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

エビデンスから学ぶ健康と身体の変化B

2017年度以降入学者

林　容市

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は，健康行動を科学的に理解し，目的や対象に合わせて計画・実践・評価することができる基礎的な知識と方法の理解と習得を目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少，骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく，健康やQoLの本質を踏まえて，健康状態を把握するための測定方法と評価の視点を学び，客観的なデータに基づいて自らの健康行動を見直す力を養います。理論と実践を往復しながら，継続可能な健康づくりを主体的に考える態度の形成を目的とします。

【到達目標】
・健康行動を支える基礎理論と評価の枠組みを説明できる。
・自身の生活習慣を踏まえた健康行動計画を立案し，実践結果を測定・評価できる。
・得られたデータを適切に解釈し，改善につなげる思考力を身につける。
・科学的根拠に基づき，健康行動を継続的に設計・調整できる基礎的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
　本授業は，講義と演習を組み合わせて構成します。授業目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。そのため，前半では健康行動の理論，測定方法，評価の基礎を講義形式で学び，中盤以降は，各自が立案した健康行動計画をもとに実践と記録を行い，測定結果の共有と検討を通して理解を深めます。演習では，他者の視点を踏まえたグループ討議や発表を取り入れ，理論学習と実践的活動の両者を踏まえた主体的な学修を促します。
　なお，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，情報選択の基礎的な考え方と健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ（講義）
第2回	健康行動としての身体活動と心理的背景(1)	運動などの健康行動を継続するための要因を学ぶ（講義）
第3回	健康行動の計画と実践（1）	自らを取り巻く環境を確認し，健康行動（体力の維持・向上，減量，食習慣の改善等）を継続するための要因を検討し，生活習慣の改善計画を立てる（講義および演習）
第4回	健康行動の計画と実践（2）	前回策定した生活習慣の改善計画を実践した結果を報告し，他者からの情報や意見を踏まえて再検討する（講義および実践）
第5回	健康行動の効果を測定するための手法(1)	様々な健康関連指標（主に循環器系指標）の原理学び，実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第6回	健康行動の効果を測定するための手法(2)	様々な健康関連指標（主に神経系指標・心理的指標）の原理学び，実際の測定方法を習得する（講義および演習）
第7回	健康行動実践時の生理的反応の測定と評価	運動を行った際の健康関連指標の変化（血圧など）について確認し，運動の効果について確認する（演習）
第8回	健康行動実践時の心理的反応の測定と評価	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化（主に神経系指標・心理指標）について確認し，運動の効果について確認する（演習）
第9回	健康行動実践時の身体的・心理的反応の根拠	運動や食事などを行った際の健康関連指標の変化について，その理論を学び，実際の健康行動への適用可能性について学ぶ（講義）
第10回	健康行動としての身体活動と心理的背景(2)	健康行動を生じさせる心理行動的要因と様々な行動変容モデルについて学ぶ（講義）
第11回	健康行動の計画と実践（3）	これまでに学習した内容を踏まえ，個々人で健康行動を行う目的を設定し，実践の可能性について検討する（講義および演習）
第12回	健康行動の計画と実践（4）	前回の授業で検討した健康行動を行った結果をグループ内で報告し，教員や他の受講生からの評価を踏まえて実践できるよう再検討する（演習）
第13回	健康観に対する意識と主観	健康観や健康行動におけるパラダイムシフトについて学ぶ（講義）
第14回	健康行動の実践とその評価	継続して実践してきた健康行動について，その成果や実践過程における状況を報告する（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　原則として，前週の授業で指示された内容について，事前に情報を収集してから授業に参加してください。また，各履修者の健康行動について報告を求める回がありますので，その回の前には教員の指示に従って準備をしてください。なお，これらの予習・復習のために要する時間は，それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

※購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
　各回の授業における参画状況（課題への取り組みや学習状況など。単なる出席ではない）が60点，プレゼンテーションやグループでのディスカッションの状況40点，合計100点で評価を行います。
　欠席・遅刻をした場合は，授業へ参画することができず，授業内の学習時間も減じることになるため，評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度休講のため，特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
本授業は，「エビデンスから学ぶ健康と身体の変化A」の単位を取得していることを前提としています。ただし，第1回目の授業において履修希望者が定員（20名）を下回っている場合には，担当者との面談を経て履修を認める場合があります。
また，履修者数によって，シラバスの内容を一部変更する場合があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course develops a scientific understanding of health behavior and provides the basic knowledge and methods required to plan, implement, and evaluate health behaviors according to different purposes and target populations. Students examine not only methods for weight loss, body-fat reduction, and muscle gain, but also the essential concepts of health and quality of life (QoL). The course emphasizes measurement and evaluation of health status and encourages students to review their own behaviors using objective data. By connecting theory with practice, students develop an independent and sustainable approach to health promotion.
【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to:
1. Explain fundamental theories and evaluation frameworks related to health behavior.
2. Design a health behavior plan based on their own lifestyle and evaluate its outcomes.
3. Interpret collected data and apply it to behavioral improvement.
4. Continuously adjust health behaviors based on scientific evidence.
【Learning activities outside of the classroom】Students are expected to collect information in advance based on the instructions given in the previous class and attend with preparation. There are sessions in which students report their own health behaviors, and preparation is required according to the instructor's instructions before those sessions. The standard time required for preparation and review is approximately two hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grades are based on class engagement (60%), including work on in-class assignments and learning activities, and on presentations and group discussions (40%), for a total of 100%. Attendance alone does not constitute engagement. Absence or tardiness reduces opportunities to participate in learning activities and therefore significantly lowers the final evaluation.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

データから考えるスポーツ政策A　2017年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(20)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，現在，わが国で立案・実行されているスポーツ政策および関連データの紹介を通じて，する・みる・ささえるスポーツの実態を理解し，学生自身がスポーツ政策に関する現状と課題を論理的に説明できる能力の獲得を目指します．

【到達目標】
(1) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画，組織，財源を理解している
(2) 現在わが国で進められているスポーツ政策の全体像を理解している
(3) わが国のスポーツ政策に関わる問題・課題を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則，対面で授業を実施します．感染症罹患等による欠席に関しては，証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます．それ以外の欠席事由に関しては，配慮対象として認めません．また，仮登録期間に授業が行われる場合でも，その出席と課題提出状況は成績に加味しますので，初回から出席することを推奨します．
各回の授業は，原則として以下の流れで進めていきます．※授業回によって入れ替わることがあります．
(1) 前回授業の復習・解説，各個人・グループによる成果物の発表など
(2) 講義
(3) 個人またはグループでのワーク
各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は，次回授業の冒頭にて紹介・解説します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに，授業の導入として政策の枠組みやプロセスを概説する．
第2回	法・計画・組織・財政	スポーツ基本法，スポーツ基本計画の概要を理解し，わが国のスポーツ政策に関わる財源と組織を学ぶ．
第3回	地域住民(1)	国民の運動・スポーツの実態を捉え，住民のスポーツ環境をささえるスポーツ施設やスポーツクラブに関する政策と課題を学ぶ．
第4回	地域住民(2)	スポーツを通じた住民の健康増進政策，障害者スポーツ政策の現状と課題を学ぶ．
第5回	子ども・青少年	子ども・青少年の体力の現状を理解し，子ども・青少年の主なスポーツ環境となる運動部活動に関する政策を学ぶ．
第6回	国際競技力	国際競技力向上のための政策とその要素を学び，わが国の国際競技力向上のための事業やその環境を理解する．
第7回	地方創生	スポーツイベントやスポーツツーリズム等の事例をもとに，地方創生の目的および現状と課題を理解する．
第8回	産業振興	スポーツを通じた経済活性化の潮流およびわが国のスポーツ経済規模を理解し，政策による支援と課題を学ぶ．
第9回	人材	スポーツに従事する人材を概説し，人材育成に関わる政策や現在の課題を考える．
第10回	ワーク(1)	発表テーマに関するアイデア出しと問題設定を行い，統計調査等を実際に調べる．
第11回	ワーク(2)	テーマに関連した先行研究を調べ，内容を整理する．
第12回	ワーク(3)	テーマに関する重要課題を特定し，発表資料を作成する．
第13回	ワーク(4)	過去のワークをまとめた内容を発表する．
第14回	授業総括	政策評価の必要性およびその方法を概説し理解するとともに，授業全体を振り返り総括する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ各2時間です．
予習では，参考書等の関連ページを事前に読んでおいてください．
復習では，予習と同様に参考書や配付資料を再度確認するとともに，各回の授業に関する新聞記事・ニュースを閲覧してください．

【テキスト（教科書）】
なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】
菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3850円(税込). ISBN：978-4792380670
笹川スポーツ財団(編). (2023). スポーツ白書 2023～次世代のスポーツ政策～. 日経印刷, 4180円(税込). ISBN：978-4915944857
真山達志, 成瀬和弥(著・編集), 日本体育・スポーツ政策学会(監修). (2021). 公共政策の中のスポーツ. 晃洋書房. 2200円(税込). ISBN：978-4771035010

【成績評価の方法と基準】
到達目標にて示した3項目について，以下の基準をもとに評価します．
(1) 講義回のワーク…60点（第1～9回，第14回の計10回分）
各講義回のワークについて，6点満点で採点します（6点×10回）．
(2) ワーク・発表…40点（第10～13回の計4回分）
個人またはグループでのワークおよび発表について，10点満点で採点します（10点×4回）．
最終的に(1)と(2)の合計点で評価します．なお，出席回数が9回未満の場合は，上記の成績にかかわらず単位認定しません．

【学生の意見等からの気づき】
本年度より名称変更の上で開講するため，フィードバックできません．

【学生が準備すべき機器他】
調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）．その他準備が必要な物に関しては，授業前にアナウンスします．

【その他の重要事項】
本授業では「各回の授業テーマを，自身の過去の経験や現在の状況と照らし合わせて考えること」「自身の考えをアウトプットすること」「他者の意見を聞き，考えを深めること」を重視します．各回のリアクションペーパーでは，授業を受けた上で自身の意見を積極的に記述するようにしてください．

また，各回の授業テーマに関連した時事ニュースを取り上げることがあります．こうした時事ニュースに普段から触れるように努め，ニュースに対する疑問・自身の考えを持つように意識してください．

【Outline (in English)】

■Course outline

This course aims to help students understand the situation of participating in, watching, and volunteering for sport by introducing the sport policies currently being formulated and implemented in Japan, along with related statistics. It also aims to develop students' ability to logically explain the current state and challenges of the sport policy.

■Learning Objectives

(1) At the end of the course, students are expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.

(2) Students are also expected to understand the overall sport policies currently being implemented in Japan.

(3) Students are required to understand problems and issues related to Japan's sport policies.

■Learning activities outside of classroom

The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.

For preparation, students will be expected to read the reference books on topics related to the following lecture. For review, students will be expected to review the reference books and the distributed materials again. In addition to preparation and review, students are required to read the news articles related to each class session.

■Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

(1) Lecture-based assignments...60 points (total of 10 sessions: Sessions 1-9 and 14)

Each lecture-based assignment will be graded on a scale of 6 points (6 points $\times$ 10 sessions).

(2) Work and Presentations...40 points (total of 4 sessions: Sessions 10-13)

Individual or group work and their presentations will be graded on a scale of 10 points each (10 points $\times$ 4 sessions).

The final grade will be the sum of (1) and (2). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the scores above.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

データから考えるスポーツ政策Ｂ　2017年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，スポーツに関連する定量・定性調査のプロセスを体験することで，データの収集方法や結果のまとめ方を学びます．これらのワークを通じて，スポーツ政策へのデータの活かし方や，データを読み解く際の注意点を理解します．
なお，本授業は春学期開講科目「データから考えるスポーツ政策A」の発展編となります．したがって，本授業の受講希望者やスポーツ政策の基礎を学びたい学生は，先に「データから考えるスポーツ政策A」を受講しておくことを推奨します．

【到達目標】
(1) 政策プロセスにおいて必要となる社会調査法の基礎を理解しているとともに，その結果を解釈できる
(2) 学生自身の興味関心に応じて仮説を設定し，適切な調査方法を選択できる
(3) 社会調査から得られた結果を政策へ活用する際の注意点を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
原則，対面で授業を実施します．感染症罹患等による欠席に関しては，証憑書類を提出の上で配慮対象として認めます．それ以外の欠席事由に関しては，配慮対象として認めません．また，仮登録期間に授業が行われる場合でも，その出席と課題提出状況は成績に加味しますので，初回から出席することを推奨します．
各回の授業は，原則として以下の流れで進めていきます．※授業回によって入れ替わることがあります．
(1) 前回授業の復習・解説，各個人・グループによる成果物の発表など
(2) 講義
(3) 個人またはグループでのワーク
各回の授業時間内に提出されたワークやリアクションペーパーの内容は，次回授業の冒頭にて紹介・解説します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要や進め方を説明するとともに，授業の導入として問題や課題の設定方法，リサーチクエスチョンの立て方を概説する．
第2回	定量調査(1)	データセットの作成方法を学ぶ．
第3回	定量調査(2)	Excelによる単純集計の出力方法を学ぶ．
第4回	定量調査(3)	Excelによるクロス集計の出力方法を学ぶ．
第5回	定量調査(4)	Excelによるグラフの作成方法を学ぶ．
第6回	定量調査(5)	仮説検定の考え方を理解し，結果を出力・解釈する．
第7回	定量調査(6)	自由に設定した仮説に基づき結果を出力し，発表する．
第8回	定性調査(1)	半構造化インタビューの質問項目を検討する．
第9回	定性調査(2)	半構造化インタビューを実施し，文字起こしを作成する．
第10回	定性調査(3)	文字起こしをもとに小見出しを付与する．
第11回	定性調査(4)	小見出しをもとにコードを作成する．
第12回	定性調査(5)	コードをもとに概念モデル作成する．
第13回	定性調査(6)	完成した概念モデルを発表する．
第14回	授業総括	過去のワークをもとに定量・定性調査における注意点を理解し，授業を総括する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ各2時間です．
予習では，配布資料を事前に読んでおいてください．復習では，予習と同様に配付資料を再度確認するとともに，ワークに再度取り組むなど，次回授業に向けて不明点がないようにしておいてください．

【テキスト（教科書）】
なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】
津島昌寛, 山口洋, 田邊浩(編). (2014). 数学嫌いのための社会統計学　第3版. 法律文化社, 2,970円(税込). ISBN：978-4589042682
石村友二郎, 加藤千恵子, 劉晨, 石村貞夫. (2019). Excelでやさしく学ぶアンケート調査の統計処理 2019. 東京図書, 2,750円(税込). ISBN：978-4489023286
佐藤郁哉. (2008). 質的データ分析法 原理・方法・実践. 新曜社, 2,310円(税込). ISBN：978-4788510951

【成績評価の方法と基準】
到達目標にて示した3項目について，以下の基準をもとに評価します．
(1) ガイダンスおよび授業総括…10点（第1回，第14回の計2回分）
授業参加および提出された課題について，5点満点で採点します（5点×2回）．
(2) 各回のワーク…70点（第2〜6回，第8〜12回の計10回分）
個人またはグループでのワークについて，7点満点で採点します（7点×10回）．
(3) 各回のワークを取りまとめた成果発表…20点（第7回，第13回の計2回分）
定量および定性調査の最終回（第7回，第13回）にて行われる発表について，10点満点で採点します（10点×2回）．
最終的に(1)〜(3)の合計点で評価します．なお，出席回数が9回未満の場合は，上記の成績にかかわらず単位認定しません．

【学生の意見等からの気づき】
本年度より名称変更の上で開講するため，フィードバックできません．

【学生が準備すべき機器他】
調べ物やワークを行う上でPCを毎回必ず持参してください（スマホのみは不可）．また，社会調査の一部プロセスを体験するため，二次分析や模擬インタビューを行います．二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが，必須ではありません．模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC等の利用可）．準備が必要な物に関しては，授業前にアナウンスします．

【Outline (in English)】
■Course outline
This course aims to learn data research methodologies and result summarization techniques through the process of conducting quantitative and qualitative research in sport. It also aims to understand how to use this evidence for sport policy and the key considerations for interpreting it.
■Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the following:

(1) Understand the fundamentals of research methodologies necessary for the policymaking process and be able to interpret the results
(2) Be able to set hypotheses based on their own interests and select appropriate research methods
(3) Understand key considerations when applying findings from the research to policy
■Learning activities outside of classroom
The time required for preparation and review for this course is approximately 2 hours each.
For preparation, students will be expected to read the distributed materials in advance. For review, students will be expected to read the distributed materials again and retry exercises to ensure they have no unresolved questions before the next class.
■Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
(1) Orientation and Course Summary...10 points (total of 2 sessions: Sessions 1 and 14)
Class participation and submitted assignments will be graded on a scale of 5 points (5 points × 2 sessions).
(2) Weekly Assignments...70 points (total of 10 sessions: Sessions 2-6 and 8-12)
Individual or group work will be graded on a scale of 7 points (7 points × 10 sessions).
(3) Final Presentation of Each Research Method Session...20 points (total of 2 sessions: Sessions 7 and 13)
Presentations conducted during the final sessions of quantitative and qualitative research methods (Sessions 7 and 13) will be graded on a scale of 10 points (10 points × 2 sessions).
The final grade will be the sum of (1) to (3). Note that if attendance is less than 9 sessions, credit will not be granted regardless of the above grades.

HSS300LA（健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では「なぜ人は病気になるのか」という身近で根源的な問いを出発点に、人間に備わっているホメオスタシス（恒常性）の考え方を手がかりとして、健康や病気について考察する。人間の存在や「生きること」の意味といった哲学的視点も取り入れ、単一の正解を学ぶのではなく、多様な視点から考える姿勢を重視する。
また、日常生活習慣（食事・運動・休養・睡眠）が心身の状態にどのように関わっているのかについて、生理的・心理的な仕組みを踏まえながら検討する。文献調査や討論を通して、自ら問いを立て、根拠をもとに考えを深め、他者と共有する力を養うことを本授業の目的とする。

【到達目標】
1) WHOの健康の定義について理解できる。
2) 人間とは何か、生きているとはどのような状態であるかが理解できる。
3）ホメオスタシス（恒常性）が備わっている理由が理解できる。
4) 生活習慣が病気の予防や改善に効果的であることが理解できる。
5) 食事、運動、休養、睡眠について、より効果的な方法を理解できる。
6) 各自研究テーマを選定し、自分の意見をレポートまとめることができる。
7) 文献講読をし、その内容をまとめ、全体に対して発表できる。
8) グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
各自が設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を整理・列挙したうえで、グループ内で共有する。グループでは、互いのテーマについて調査方法や分析方法などを議論し内容を深める。
授業は主にSGD（スモールグループディスカッション）形式で行う。
毎回の授業では個人の調査内容をグループ内で報告し、発表技術の向上に努める。
授業の冒頭では、前回の授業で提出されたリアクションペーパーの中からいくつかを取り上げ、全体に向けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の概要、ねらい、到達目標を明示し、半期のスケジュールを確認する。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	文献の講読、プレゼンテーションの発表、レポート作成	テーマ選びから文献の検索及び講読、プレゼンテーションの基本、レポート作成に関する説明を行なう。
第3回	研究テーマの設定と調査方法（1）	WHOの健康の定義について説明し、各自で文献講読し、グループに分かれ意見交換を行い、理解を深める。
第4回	研究テーマの設定と調査方法（2）	「人間とは何か、生きているとはどのような状態であるか」についてグループに分かれ意見交換を行う。
第5回	研究テーマの設定と調査方法（3）	人間に備わっている「ホメオスタシス（恒常性）」について文献講読し、理解を深める。
第6回	研究テーマの設定と調査方法（4）	これまでの内容をまとめ、自分の研究テーマを決定する。 テーマに沿った研究の進め方について説明する。
第7回	中間発表	各自で設定した「研究テーマ及びその調査方法」について発表する。
第8回	文献講読とディスカッション	各自設定したテーマに関する文献をグループに分かれて共有し、意見交換を行う。
第9回	データ収集と分析、グループワーク	グループに分かれて、各自のテーマに沿ったデータを分析し議論する。
第10回	グループワーク及び個人調査	グループワークでの議論を参考に各自により調査を進める。
第11回	研究テーマの調査報告（プレゼンテーション資料の作成）	これまでの内容をレポートにまとめる。また全体発表に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
第12回	調査結果の発表（1）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（前半グループ）
第13回	調査結果の発表（2）	作成した資料をもとにプレゼンテーションを実施し、質疑応答の後、ディスカッションを行う。（後半グループ）
第14回	まとめ	これまでの授業を振り返り、得られた知見や残された課題などについて議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・設定したテーマに関する資料を図書館、WEBを活用して調べておく。
・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
・その科学が成功を決める　リチャード・ワイズマン　文春文庫
・ホモ・デウス 上: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
・ホモ・デウス 下: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
・基礎からわかる論文の書き方, 小熊英二, 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
授業の参画状況（80％）、プレゼンテーション（10％）、レポート（10％）を総合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日16時40分～18時30分の100分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course begins with the familiar yet fundamental question, “Why do people become ill?” and explores health and illness through the concept of homeostasis, an inherent regulatory capacity of the human body. Incorporating philosophical perspectives on human existence and the meaning of living, the course emphasizes developing the ability to think from multiple viewpoints rather than learning a single correct answer.
In addition, students examine how daily lifestyle practices — such as diet, exercise, rest, and sleep — affect physical and mental well-being, with attention to both physiological and psychological mechanisms. Through literature review and group discussion, the course aims to cultivate the ability to formulate one’s own questions, deepen thinking based on evidence, and share ideas with others.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to:
1) Explain how lifestyle habits contribute to the prevention and improvement of illness.
2) Describe effective approaches to diet, exercise, rest, and sleep for maintaining physical and mental health.
3) Select an individual research topic and articulate their own viewpoints in a written report.
4) Read and analyze academic literature, summarize key points, and present the findings to seminar members.
5) Engage constructively in group discussions and exchange ideas with others.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Participation in class activities (not attendance): 80%
2) Presentations: 10%
3) Assignments and reports: 10%
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ａ　2017年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】
　実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベの読み方 ・挨拶表現 ・数字1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞avoir ・否定のde ・疑問文 ・数字11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
10	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞pouvoir
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞prendre, attendre
12	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞devoir
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
　音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（60％）と小テスト（40％）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
term-end test: 60%, mini-test: 40%.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

第三外国語としてのフランス語Ｂ　2017年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水2/Wed.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】
　実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
　日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	人・ものを描写する
	Leçon 7	・IR動詞
		・形容詞
		・動詞savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する
		・数量表現
		・名詞＋à＋不定詞
		・動詞mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う
		・目的補語人称代名詞
		・非人称構文
		・動詞connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う
		・数字21～69
		・動詞faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う
		・代名動詞
		・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う
		・代名動詞の否定文、疑問文、命令文
		・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する
		・直説法単純未来
		・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する
		・形容詞・副詞の最上級
		・特殊な優等比較級・優等最上級
		・指示代名詞
9	Leçon 11	過去のことを言う（1）
		・数字70～100
		・直説法複合過去
		・目的補語人称代名詞を含む複合過去
10	Leçon 11	過去のことを言う（1）
		・代名動詞を含む複合過去
		・中性代名詞en
11	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する
		・直説法半過去
		・直説法複合過去と直説法半過去の違い
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する
		・直接法大過去
		・中性代名詞yとle
		・様々な否定表現
13	Leçon 13	関係代名詞、強調構文
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」をしてください。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。
　音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　田辺保子，西部由里子著，『ヴァズィ！（改訂二版）』，駿河台出版社，2023年.
（＊自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40%）と期末テスト（60%）の結果をもとにして評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
term-end test: 60%, mini-test: 40%.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅠを紹介する動画です　https://x.gd/LgDjY　（約7分8秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●あなたが所属している学部の履修登録期間の最終日までに、この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）の履修登録を済ませるとともに、学習支援システムにて仮登録をおこなってください。
●この科目「教養ゼミⅠ」（Q6605）は、他の教養ゼミと異なり、定員がないため、選抜や抽せん、およびそれらの結果通知はありません。履修登録の流れは、一般的な春学期科目と同じとお考え下さい。
●興味・関心のある方は、教養ゼミⅡ：ポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（9月中旬）【授業コード：Q6606】もぜひ履修しましょう。社会人として知っておいたほうが良い、現代の政治・経済・文化のあり方について、初学者が学ぶコースになっています。
==========
【科目のかんたんな説明】
●この教養ゼミⅠは、**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の4日間で開催**される集中講座です（2単位）。
●**短い日数で効率よく学べる**利点があります。
●いわゆるグローバル・サウスから、より政治的に安定し、社会福祉の制度が整った、いわゆる先進国に旅する移民や難民の動きがテーマです。
●移民や難民といったテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」が軸となる内容ですので理解がしやすく、視野が広がります。
●映像作品に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけになるでしょう。

【到達目標】
コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：
1）人口1700万人強のオランダが、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのはなぜかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
2）欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、就労を促進するための雇用の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅠの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年8月3日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月6日（木）の4日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）4日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのため「まとめコメント」の早期提出を認めています。
（カ）とはいえ、4日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Wordファイル「教養ゼミⅠ『移民社会』入門〜見える国境と見えない国境〜（8月上旬）」URL https://x.gd/SBUYw にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月3日（月）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月3日（月）3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【8月3日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月3日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【8月4日（火）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【8月4日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【8月4日（火）4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【8月4日（火）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月4日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
9	他の人の意見を知る【8月5日（水）2限、Zoom併用なし】	2日めのまとめコメントへの学生投票／映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【8月5日（水）3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【8月5日（水）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【8月6日（木）2限、Zoom併用なし】	3日めのまとめコメントへの学生投票／《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【8月6日（木）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える

14	考える・まとめる【8月6日（木）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
８月のサマー・セッションの時期を待つことなく、Google Classroomをつうじ、４月から資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
水島治郎『反転する福祉国家　オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．まとめコメントの早期提出（教員への相談が必要です）
４．教室内活動への参加 =33%
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/FK17p にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※サマー・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。ただし、サマー・セッションは春セメスター（前期）科目であるため、８月上旬には法政大学に学生の成績を提出する必要があります。そのため出席停止になった学生側は、仮に感染症から健康状態が快復したとして、代替の課題を８月７日ぐらいまでに提出する手はずになります。感染症で出席停止となった学生のための配慮については、オータム・セッション科目である教養ゼミⅡ（Q6606）のほうが、配慮に使える時間的な余地が大きいことを、あらかじめご承知おきください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅠは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料を共有したり、課題を提出したりするさいに、Google ClassroomやBOX、Office365等を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください URL https://x.gd/pbONn

【Outline (in English)】
What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders?　Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception ? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country ? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.
［Learning Objectives］
The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中　一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この教養ゼミⅡを紹介する動画です　https://x.gd/tB16R　（約７分５３秒；学内者のみ視聴できます）
【履修登録にかかわる特記事項】
●この科目「教養ゼミⅡ　ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～ 」（Q6606）は、ひとりひとりの学生ではなく、市ヶ谷リベラルアーツセンター（ＩＬＡＣ）が一括して履修登録を行います。
●履修を希望する方は**2026年4月10日（金）午前11時30分**までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。
●仮登録された学生は全員、この「教養ゼミⅡ」に履修登録されますが、念のため、あなたが所属している学部の履修登録期間になったら、この科目「教養ゼミⅡ」の履修登録がきちんとなされているか、確認を行ってください。
==========
【科目のかんたんな説明】
●教養ゼミⅡ「ポピュリズム入門 ～衆愚政治か、民主的な異議か～」は**2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間で開催される集中講座**です（２単位）。
●世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている、ポピュリズムがテーマです。
●こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。
●短い日数で効率よく学べる利点があります。
●映像作品に興味のある方にとっては、作品を知る機会になるでしょう。

【到達目標】
（1）さまざまな国と地域、歴史時代に存在した、ポピュリズムの構成要素とされる事象に幅広く触れることで、現代の政治・社会現象としてのポピュリズムにかんし、批判的な距離を保ちながら、意見を述べることができる。
（2）ポピュリストと反ポピュリスト、無関心層のような、ポピュリズムをめぐり異なる態度を産みだす感情的なバネについて、ひとつひとつの映像作品や人物の性格、ならびに制度的な背景（例　メリトクラシー）を掘り下げながら、研究上の問い（リサーチ・クエスチョン）を練ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
（ア）この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
（イ）**2026年9月11日（金）・9月12日（土）・9月14日（月）・9月15日（火）の４日間に開催**されます。
（ウ）希望者は一部の授業回について**Zoom**でも参加できます。下記の【授業計画 / Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
（エ）４日間で行いますので、体調不良や他の理由による不参加が生じた場合、成績評価への影響が相対的に大きくなります。
（オ）そのためセッション授業終了後の話題提供を認める予定です。
（カ）とはいえ、４日間参加していれば、それだけできちんと点数はつきます。成績評価について、詳しくは Excel ファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
（キ）問い合わせは、Word ファイル「2026 年度：教養ゼミⅡ ポピュリズム入門～衆愚政治か、民主的な異議か～（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC にある問い合わせ先からお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月11日（金）2限、Zoom併用あり】	シラバス（授業の概要と成績評価）や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月11日（金）3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【9月11日（金）4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月11日（金）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月11日（金）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
5	他の人の意見を知る【9月12日（土）2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか（政治的動員）
6	対立の構図を理解する【9月12日（土）3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【9月12日（土）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月12日（土）分の「まとめレポート」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
8	他の人の意見を知る【9月14日（月）2限、Zoom併用なし】	２日めのまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す。
9	ポピュリズムと女性【9月14日（月）3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【9月14日（月）4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【9月14日（月）5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日（月）分の「まとめコメント」を作成・提出する。遠隔・事前の提出可。ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。
12	他の人の意見を知る【9月15日（火）2限、Zoom併用なし】	３日めのまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私（たち）はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【9月15日（火）3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【9月15日（火）4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月15日（火）分の「まとめコメント」を作成・提出する。※遠隔・事前の提出可。※ただし対面で出席していた学生全員が教室から退出した後は提出できない。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
９月のオータム・セッションの時期を待つことなく、Google ClassroomやBOX、WebClass等をつうじ、資料を事前に配布します。

【参考書】
購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がいっそう進むでしょう。
カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム　デモクラシーの友と敵』永井大輔&髙山裕二訳、白水社、2018年。*Cf.* https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html

【成績評価の方法と基準】
１．平常点　=15%
２．まとめコメント =52%
３．教室内活動（授業時間内の個別の発言やグループディスカッション、各種の投票）への参加 =33%
４．セッション授業終了後の話題提供
５．その他
※成績評価について、詳しくはExcelファイル「進行予定表」URL https://x.gd/ytbHb にあるシート見出しのタブ「成績評価基準」をご覧ください。
※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループ・ディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」を求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、グループ・ディスカッションに替わる課題に取り組んでいただきます。ただし、全ての授業回にZoomで参加するといった形での配慮はできないことを、あらかじめご了承ください。
※オータム・セッションと重なる時期に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部に連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。

【学生の意見等からの気づき】
・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらいから敬遠したいという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有や課題の提出に、Google ClassroomやBOX、Office 365を使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】
・法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、Wordファイル「2025年度：教養ゼミⅡポピュリズム入門〜衆愚政治か、民主的な異議か〜（９月中旬）」URL https://x.gd/q4xhC をご覧ください。

【Outline (in English)】
Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century ?"
［Learning Objectives］
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.
By the end of the course, students should be able to do the followings :
1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.
［Learning activities outside of classroom］
(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
(c) The time required for preparation and revision for this seminor will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.
［Grading Criteria］
Your final grade in this seminar will be decided on the following:
1. Quantity and quality of "summary comments" =70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class =30%

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，　学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレーカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における，日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	西洋人の来日(1)	マスケット伝来
6	西洋人の来日(2)	キリスト教伝来
7	日欧交流の発展（1）	日本における宣教師達①
8	日欧交流の発展（2）	日本における宣教師達②
9	日欧交流の発展（3）	南蛮屏風
10	日欧交流の発展（4）	日本語学習の曙
11	日欧交流の変容	来日西洋人の多様化
12	学生による発表①	史料の紹介と分析
13	学生による発表②	史料の紹介と分析
14	学生による発表③及びまとめ	史料の紹介と分析 前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※ 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した場合は，直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google ClassroomやHoppiiを使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.
One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の主な目的は，「日欧交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って，グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し，考察することです。
もう一つの目的は，英語（もしくは日本語や他の言語）で史資料を読み，分析する方法について学び，活用することです。

【到達目標】
この授業では，学生達はグローバリゼーションの歴史という背景における日本の歴史，とりわけ「日欧交流の歴史」の多様な側面を探求したり，論じたりします。授業終了時には，それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し，以下のことができるようになるでしょう。
1. 主要な概念や考え方を理解し，説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で，「日欧交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日欧交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な史資料を批判的に検討するために，適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業では，学生達は様々な歴史的文章を読解し，語彙を調べたり，それについて議論したり，質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し，できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史資料を理解し，質問に答えることで，グローバル化の歴史の中で「日欧交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。
履修者は史料を見つけ出し，それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって，日本語や英語の他に，様々な言語の史料の紹介も期待できます。
この授業では，学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って，履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて，難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と，歴史や史料，特に「日欧交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。
この授業で成功する鍵は，毎週の予習と復習，そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが，Hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 西洋におけるジャポノロジーの現状
2	世界一周の寄港地としての日本	Francesco Carlettiの見た日本
3	西欧人のサムライ	William Adamsの見た日本
4	オランダ東インド会社の登場	François Caronの見た日本
5	ヨーロッパにおける日本史の定番	Engelbert Kaempferの見た日本
6	ヨーロッパにおける日本キリスト教史	Pierre François-Xavier de Charlevoixの語った日本
7	ヨーロッパにおける日本の植物学①	Peter Thunbergの見た日本
8	ヨーロッパにおける日本の植物学②	Philipp Franz Balthasar von Sieboldの見た日本
9	ヨーロッパ人による日本北方地域の探検	Vasilii Mikhailovich Golovninの見た日本
10	幕末期におけるジャポノロジー①	パリ外国宣教会宣教師の見た日本①
11	幕末期におけるジャポノロジー②	パリ外国宣教会宣教師の見た日本②
12	幕末期におけるジャポノロジー③	レオン「三兄弟」：Léon de Rosny, Léon Pagès, Léon Duryと日本
13	学生による発表①	史料の紹介と分析
14	学生による発表②及びまとめ	史料の紹介と分析 秋学期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，予習，課題や発表の準備等が毎回求められます。
それらは，大学設置基準によれば2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされていますので，そのぐらいかかると予測されます。

【テキスト（教科書）】
ほぼ毎回授業中に配布しますので，教科書を購入する必要はありません。

【参考書】
必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】
・グループワーク，小テスト，宿題，「予習シート」等：約40%
・発表（史料の紹介と説明）：約40%
・平常点（授業への参加状況）：約20%
※尚，平常点に関しては減点方式をとり，4回目の欠席で不合格となります。正当な理由なく10分以上遅刻した場合は，欠席とみなします。10 分までの遅刻は2回で欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。何らかの理由で欠席した・する場合は，速やかに教員にメール等で連絡して説明すること。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに，Google Classroom やHoppii を使いますので，必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】
履修者の人数，個人背景（言語レベル等），希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】
The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese (or in other languages).
It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.
Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.
The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European relations" in the context of the history of globalisation.
The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.
University guidelines suggest that preparation and review should take around four hours per week for a two-credit course.
The grading policy should be the following:
・Group work, quizzes, homework, preparatory sheets, etc.: approximately 40%
・Presentations (introduction and explanation of historical materials): approximately 40%
・Regular assessment (class participation): approx. 20%
※ Please note that regular assessment employs a deduction system, and a fourth absence will result in a fail grade. Arriving more than 10 minutes late without a valid reason will be counted as an absence. Two instances of lateness up to 10 minutes will be treated as one absence; proof of train delay will be accepted for a maximum of two instances. If absent for any reason, you must immediately contact the lecturer via email or other means to provide an explanation.

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）
フランス語コミュニケーション(中・上級) A
2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身につけたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Une rencontre inattendue
2	Faire connaissance: le speed-dating	招待を受け入れる・拒否する
3	La fête nationale belge et le parc Astérix	現在進行形
4	Le festival Gnaoua et le raï	コンサートへの招待
5	Le 14 juillet Un festival d’été	フェスティバルに関する情報 フェスティバルへの招待
6	Se déplacer en ville	交通手段①と道案内
7	Les transports en Afrique de l’Ouest	交通手段②
8	D’autres quotidiens	頻度と時間割
9	Modes de vie au Niger et à Djibouti	お茶 カート (植物)
10	La Défense, Marrakech, Montréal	交通手段③
11	Présenter son quartier préféré	好きな地域の紹介
12	L’habitat（ミニ口頭発表）	フランス語圏の様々な伝統住居
13	Brèves francophones Amélie Poulain	半過去と複合過去の用法①
14	Hercule Poirot: "Que faisiez-vous à l’heure du crime?"	半過去と複合過去の用法②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身につくものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝2単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています)。「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，Hoppiiにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，小テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約 20%。 尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は 2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。10分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6 ヶ月につき990 円になる予定です。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line): 20 %／Reading marathon (Extensive reading): 20 %／Short essays: 20 %／Class participation: 20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語コミュニケーション(中・上級) B

2017年度以降入学者

ル　ルー　清野　ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業はA1レベルに達している学生（つまり2，3セメスターの学習経験者）を対象としています。学生達は，日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に，自然な発音及び独特な表現を勉強し，フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も，勿論多く設けてあります。
尚，この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の段階から，特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は，最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法(“immersion”)」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】
この授業では，日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり，正確なフランス語の発音を身につけたり，日常会話で使える言葉を覚えたりして，積極的に会話ができるようになることを目指します。
この授業を通じて，A1レベルの学生達が完全なA2レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2（仏検準2級・2級）やStudy Abroad留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
Z その他 /Other、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】
様々な資料（新聞記事、画像、ビデオ、歌など）を教材とし，履修者は聴解やオーラル・コミュニケーション能力の補強・発展に取り組みます。それと同時にA1の文法項目の復習とA2の新しい文法項目の学習も行います。授業内容は多岐にわたり，世界を旅しながらフランス語圏の様々な文化的側面を発見することもできます。
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organisation de la classe Voitures du passé et du présent
2	Visite en Normandie	過去の出来事を描写するメールを書く
3	Les Acadiens/Cajuns	歴史について考えよう
4	Histoires de personnalités	直接目的補語の代名詞
5	Quelques écrivains francophones	フランス語圏の文学に触れる
6	Catastrophe naturelle Chez le médecin	健康と身体の部位
7	Fêtes traditionnelles	お祭りについて知ろう
8	Faisons un quiz historique	クイズを作ろう
9	Le caractère	人の性格を描写する
10	Les noms en Afrique	アフリカの名前について知ろう
11	Qui est-ce? (jeu)	La description physique
12	Qu’est-ce qu’on a fait au bon Dieu?	人の描写（作文）
13	Entretien d’embauche	成功と失敗①
14	Le commerce en Afrique	成功と失敗②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身につくものなので，毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。
また，予習・復習は当然ながら必須。本授業の準備学習・復習時間は4 時間以上を標準とします（この授業は総合科目＝２単位科目なので，法政大学学則では「1回の授業につき4時間以上」と定められています）。
「Furago, フランス語の練習帳」というサイトも利用しますので，定期的に目標を達成しないと成績が上がらない仕組みになります。

【テキスト（教科書）】
教材はその都度授業で配布するか，Hoppiiにアップロードします。

【参考書】
仏和・和仏辞書（本でも，電子辞書でも）を持参することが望ましい。翻訳ソフト（Google translate 等）はNG ：クラスではスマホ等の使用を認めません。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，小テスト，ミニ発表等: 約20 %
・「Furago, フランス語の練習帳」：約20 %
・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約20 %
・作文: 約20 %
・平常点（授業への参加状況）:約20%。尚，平常点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。10分までの遅刻は2 回につき欠席扱いとなり，遅延証明は2 回まで認めます。10 分以上の無断遅刻は欠席とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見等を読み，工夫する必要のある点は特にないように思いました。改善は全くしない，という意味ではないのですが！

【学生が準備すべき機器他】
※「Furago, フランス語の練習帳」というサイトへの登録が必須です。スマートフォン，タブレット，パソコンからアクセスできます。有料ですが，学生にとって異常な負担になる金額ではありませんし，定額制ですので，安心して利用できます。
登録費が6ヶ月につき990円になる予定です。

【その他の重要事項】
授業中，頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので，そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】
履修の条件として，フランス語A1レベルが必須。

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students’ general knowledge about "Francophonie" will also be strengthened.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
Homework, short tests, etc.: 20 %／Furago (exercises on line):20%／Reading marathon (Extensive reading):20%／Short essays:20 %／Class participation:20%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読Ａ

2017年度以降入学者

大池　惣太郎

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Elisabeth Roudinesco による子供向けの精神分析の入門書 L'inconscient expliqué à mon petit-fils(Seuil, 2015)を読みます。平易なフランス語で既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目的とします。

【到達目標】
フランス語で書かれた平易な論説文を辞書を使って自力で読み解けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回可能な限り全員が当たるようにする。
当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。
（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）
大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。
期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書の紹介
第2回	文献の講読（1）	p.10～p.19
第3回	文献の講読（2）	p.20～p.29
第4回	文献の講読（3）	p.30～p.39
第5回	文献の講読（4）	p.40～p.49
第6回	文献の講読（5）	p.50～p.59
第7回	文献の講読（6）	p.60～p.69
第8回	文献の講読（7）	p.70～p.79
第9回	文献の講読（8）	p.80～p.89
第10階	文献の講読（9）	p.90～p.99
第11回	文献の講読（10）	p.100～p.109
第12回	文献の講読（11）	p.110～p.119
第13階	文献の講読（12）	p.120～p.128
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Elisabeth Roudinesco, L'inconscient expliqué à mon petit-fils(Seuil, 2015)

【参考書】
辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の発表担当）70％、学期末の授業内試験30％で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This course reads L'inconscient expliqué à mon petit-fils (2015) by Elisabeth Roudinesco, an introductory book on psychoanalysis for children. Using clear and simple French, students will review basic grammar and improve their reading skills.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語講読Ｂ

2017年度以降入学者

大池　惣太郎

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Emanuel Carrèreによる戦慄のノンフィクション小説L'Adversaire（Gallimard, 2000）.を読みます（邦題『嘘をついた男』）。既訳も参照しながら、ある程度まとまった量のフランス語のテクストを通読することで、既習の文法知識の定着と、さらなる読解力の向上を目指します。

【到達目標】
フランス語で書かれたある程度の量のある小説文を自力で通読し、読解力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回可能な限り全員が当たるようにする。
当てられた人は、まず音読し、該当箇所の文構造や語彙を説明する。それから訳案を提示する。
（訳文だけ準備してきても、生成AIでできてしまうことなので、評価されません）
大事な文法事項や役に立つ表現を講師がかいつまんで説明する。
期末試験では、翻訳問題が出題される（紙の辞書のみ持ち込み可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題図書の紹介 映画『見えない嘘』視聴
第2回	文献の講読（1）	p.11～p.27
第3回	文献の講読（2）	p.28～p.43
第4回	文献の講読（3）	p.44～p.60
第5回	文献の講読（4）	p.61～p.77
第6回	文献の講読（5）	p.78～p.94
第7回	文献の講読（6）	p.95～p.111
第8回	文献の講読（7）	p.112～p.128
第9回	文献の講読（8）	p.129～p.145
第10階	文献の講読（9）	p.146～p.161
第11回	文献の講読（10）	p.162～p.188
第12回	文献の講読（11）	p.189～p.205
第13階	文献の講読（12）	p.206～p.220
第14回	授業内試験	翻訳演習実技試験 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当範囲の文法事項と語彙をあらかじめ調べ、整理しておく。分からない箇所は質問できるよう準備しておく。講師が説明した構文や表現を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Emmanuel Carrère, L'Adversaire, Gallimard, Folio, 2011 [2000].
準備するのは文庫版（folio版）にしてください。

【参考書】
辞書等（授業内で指示する）

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の発表担当）70％、学期末の授業内試験30％で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This course reads L'Adversaire by Emmanuel Carrère. Students will read the French text together with the Japanese translation. By reading a longer French text, students will review basic grammar and further improve their reading skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Evaluation: Class presentations: 70% + In-class final test: 30%

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語外部試験講座Ａ　2017年度以降入学者

カレンス　フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金5/Fri.5
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースは、フランス語の公式外部試験に向けて準備したい学生を対象としています。あなたのレベルに応じて、テーマごとの進行が提案され、さまざまな練習問題を基に進められます。これは、目指す試験のレベルに応じたスキルを活用する内容となっています。このトレーニングにより、まずDAPFのいずれかのレベルに向けて準備することができ、将来的にはフランス国内および国際的に認められている認定である初級レベルのDELF取得にも挑戦できる可能性が開かれます。このコースは、フランス語の能力を最適化し、全体的なレベルを強化するだけでなく、フランス語学習へのさらなる動機付けにもなります。

【到達目標】
A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げることができる。
B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。
C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容易になることを目指す。
方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF（Futsuken）の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DELFの試験準備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進行が提案され、さまざまな練習問題を通じて構成されます。これは、目指す試験のレベルに応じたスキルの発揮を促します。課題の準備はレベルごとのグループで行われ、段階的に次のことを可能にします。1. 試験内容の理解 2. 準備 3. 練習 4. 受験。各セッションの初めに行うミニテスト形式の継続的な評価も実施され、学習者の進捗を測定します。学期中間および学期末の試験は、DAPFやDELFの模擬試験に基づいて設計され、実際の試験の前にフランス語のレベルを事前に評価することができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Saluer se présenter interroger quelqu'un Nombres de 0 à 20 L'âge	挨拶、自己紹介 0から20までの数字で年齢を尋ねる
2	Présenter quelqu'un Famille, célébrités Questionner quelqu'un Profession nationalités Pays	誰かを紹介する 家族、有名人について尋ねる 国籍 国
3	Possessions être / il y a / avoir Négation objets courants Animaux	所有物 これは何ですか？ 何がありますか？ 持つこと 否定、日常の物、動物
4	Goûts Aimer + nom Degrés de préférence aimer + verbe infinitif Activités courantes	好み　好き＋名詞 好き　大好き、嫌い、の方が好き 好みの度合い 好み：aimer + 不定詞 動詞：日常の活動
5	Appréciations Adjectifs courants Nuancer : assez / très	評価 一般的な形容詞 どのぐらい好き まあまあ/とても/あまり
6	Situer des lieux Indiquer une direction Lieux du quartier La maison les pieces Prépositions de lieu	場所の位置 道案内　場所の前置詞、道順　近所の場所 家　部屋
7	Test de Mi-trimestre Examen blanc	中間テスト 模擬試験
8	Heures et horaires Nombres de 20 à 60 Interroger sur l'heure Moments de la journée Durée	時間　　時間割 20から60までの数字 時刻を尋ねる 時間帯、期間
9	Emploi du temps Activités courantes Verbes de déplacement partir de/ arriver à	スケジュール 日常の活動- ER動詞、現在形の活用 移動の動詞 ：出発する/到着する
10	Au marché Nourriture boissons Achats Quantité prix	市場で 食べ物 飲み物 買い物 量 価格
11	Au restaurant Repas menu commander Nourriture boissons Appréciation du repas	レストランで 食事 メニュー 料理を注文する 食べ物 飲み物 食事の感想
12	A la boutique de vêtements Choisir un vêtement Taille couleurs Prix	洋服の店で 洋服を選ぶ サイズ　色 値段
13	Test de fin de trimestre Examen blanc	期末テスト 模擬試験
14	Correction du test final Conseils pour les épreuves	テストの採点 試験を受けるアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進捗や評価に用いられます。また、次回の授業のために宿題を準備する必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時間を見込む必要があります。次回の授業で提出する宿題は、DAPFやDELFの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。

【テキスト（教科書）】
書類はオンライン学習システムに送信されるまたは、印刷されたものが直接クラスで
配布されます。

【参考書】
2024年度版３級・４級・５級仏検公式ガイドブック
A5判 256ページ 並製
定価：2400円＋税
ISBN978-4-411-90308-2 C0085
奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]
DELF A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック – 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）総合的に評価します。
評価は次のように割り当てられます：
1.中間テスト・期末試験: 50 %。
中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。
2.ミニテスト： 20%（クラスで行うショートテスト）
3.課題：10%（特に筆記関係問題）
4.積極性・平常点：20 %（クラスでの口頭練習やペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】
この新しいコースについては、最初のクラスからのフィードバックをいただければと思います。
各人のレベルを考慮して、レッスンを綿密に準備します。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】
This course is intended for students who wish to prepare for official external French exams. Depending on your level, a progression by theme will be proposed and will be based on a variety of exercises. It will develop the skills related to the level of the exam you are aiming for. It will allow you to first prepare for one of the DAPF levels and give you the opportunity to later access the first levels of the Delf, a certification recognized in France and internationally. This course will also help optimize your French skills, strengthen your overall level in the language, and provide you with additional motivation for learning French.
As work to be done outside the class, you will need to review the vocabulary and grammar points learned in the previous lesson and prepare to answer the questions on the mini-test. This test will be used to assess learning progress and evaluation. Additionally, there may be cases where you need to prepare homework for the next lesson. You should allow at least one hour for lesson preparation and review. The homework to be submitted in the next lesson will consist of practice problems from the DAPF or DELF exam preparation guides. These will relate to vocabulary, grammar, or writing exercises similar to the aforementioned exams.
The evaluation is allocated as follows:
1. Midterm and final exams: 50%.
The midterm and final exams will be based on examples of actual tests.
2. Quizzes: 20% (short tests conducted in class)
3. Assignments: 10% (particularly written-related problems)
4. Participation and regular points: 20% (oral practice in class and tasks done in pairs)

LANf300LA（フランス語 / French language education 300）

フランス語外部試験講座Ｂ　2017年度以降入学者

カレンス　フィリップ

開講時期：サマーセッション/Summer Session　｜　曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この5日間の集中コースは、公式の外部フランス語試験に備えたいすべての学生を対象としています。この研修は、春学期に行った「フランス外部試験講座を修了した学習者にとっても補完的なものとなります。これらのコースでは、比較的短期間でフランス語のレベルを上げ、日本、フランス、国際的に認められているDapf(フツケン)やDelfのいずれかの試験を受けることができます。この加速トレーニングはフランス語の能力を最適化し、言語全体のレベルを強化し、フランス語学習へのさらなるモチベーションにもつながります。
集中講座は2026年8月３日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月６日（木）・8月7日（金）の5日間で開催される。

【到達目標】
A. フランス語の基礎を固め、目指す試験に向けてレベルを上げることができる。
B. 試験に合格するために必要なスキルを習得することができる。
C. 練習問題に取り組むことで、実際のフランス語試験への受験が容易になることを目指す。
方法論的なアドバイスを活用してフランス語を訓練しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
さまざまなスキルに関連するノウハウの習得は、DAPF（Futsuken）の目標に関連するテーマに沿って段階的に行われ、DELFの試験準備にも役立ちます。レベルに応じて、テーマごとの進行が提案され、さまざまな練習問題を基に構成されます。これは、目指す試験の難易度に応じたスキルの活用を行います。グループ分けで行う試験準備は段階的で、以下を可能にします：1. 試験内容を理解する 2. 準備する 3. 練習する 4. 受験する。 各セッションの最初に行うミニテスト形式の継続的な評価も導入され、学習者の進捗を測定します。
試験は、DAPFまたはDELFの模擬試験に基づいて設計され、実際の試験前にフランス語レベルを事前に評価することができます。
集中講座は2026年8月３日（月）・8月4日（火）・8月5日（水）・8月６日（木）・8月7日（金）の5日間で開催される。
当該科目の履修を希望する場合は、4月20日（月）※までに学習支援システムにて仮登録を行ってください。所属学部の履修登録期間中に自分で履修登録を行ってください。
授業の進行やテストの期限に関する変更は、遠隔授業サポートシステム「Hoppi」のサイトで発表されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の紹介
	Décrire des personnes Adjectifs	人を描写する 形容
	Donner son avis	意見を言う
2	Comparer	比較する
	Comparatif superlatif	比較級・最上級）
3	Achats	買い物
	Pronoms interrogatif	疑問代名詞
	Pronom possessif	所有代名詞、
	Pronom démonstratif	指示代名詞
4	Emploi du temps	スケジュール
	Verbes simples	基本動詞
	Verbes pronominaux	再帰動詞）
5	Autorisation	許可／禁止
	Interdiction	命令を出す
	Donner des ordres Impératif	命令法
6	Inviter	招待
	Volonté, obligation, possibilité	意志、義務、可能性 助動詞
	Verbes auxiliaires : Vouloir pouvoir Devoir savoir	
7	Actions passées	過去の行動：複合過去
	Passé composé	日常生活　休暇
	Vie courante / vacances	
8	Souvenirs:	思い出
	Phrase complexe temporelle: quand je...imparfait	～したとき 半過去
9	Incident/ accident :	事故／アクシデント
	Phrase complexe temporelle :	複合文の時間表現 ～したとき
	Passé composé /imparfait	複合過去／半過去
10	Projets prévisions	計画
	Futur proche	近接未来
	Futur simple	単純未来
	Actions futures	これからの行為
11	L'hypothèse Présent / futur)	…したら、たとえ…
	Phrase complexe : Quand je...	
12	Enquête	調査
	Pronoms	直接・間接代名詞
	COD, COI, EN, Y	Y/en 代名詞
13	Usage des temps	時制用法
	Passé immédiat	近過去
	Présent continu	現在進行形
	Futur proche (2)	近接未来 (2)
14	Examen blanc	模擬授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で学んだ語彙や文法事項を復習し、ミニテストの質問に答えられるように準備する必要があります。このテストは学習の進捗や評価に用いられます。また、次回の授業のために宿題を準備する必要がある場合もあります。授業の準備や復習には少なくとも1時間を見込む必要があります。次回の授業で提出する宿題は、DAPFやDELFの試験対策ガイドからの練習問題になります。それらは語彙、文法、または前述の試験に近い作文試験に関連する内容です。

【テキスト（教科書）】
書類はオンライン学習システムに送信されるか、印刷されたものが直接クラスで配布されます。

【参考書】
2024年度版３級・４級・５級仏検公式ガイドブック
A5判 256ページ 並製
定価：2400円＋税
ISBN978-4-411-90308-2 C0085

奥付の初版発行年月：2024年04月／[2024年04月15日刊行]
DELF A1 100% réussite: Livre + didierfle.app ペーパーバック – 2022/4/20

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）総合的に評価します。
評価は次のように割り当てられます：
1.中間テスト・期末試験: 50 %。
中間試験と期末試験は、実際の試験の例に基づいて行われます。
2.ミニテスト： 20%（クラスで行うショートテスト）
3.課題： 10%（特に筆記関係問題）
4.積極性・平常点：20 %（クラスでの口頭練習・ペアで行うタスク）

【学生の意見等からの気づき】
この新しいコースでは、最初の授業から皆さんのコメントをいただけることを期待しています。それぞれのレベルに応じて、できる限りのアドバイスを提供します。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppiiにある教材にアクセスするには、スマートフォンかパソコンが必要です。

【Outline (in English)】
This five-day intensive course is aimed at all students who wish to prepare for official external French exams. This training also complements the spring semester course for learners who have completed the 'French External Exam Course.' These courses allow you to improve your level of French in a relatively short period and take one of the exams recognized in Japan, France, and internationally, such as Dapf (Futsuken) or Delf. This accelerated training optimizes French language skills, enhances overall language proficiency, and further motivates learning French.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Examinations : 50%, Mini-test : 20% , Assignments : 10 % and in class contribution 20 %.
The intensive course will be held over five days on Monday, August 3, 2026; Tuesday, August 4; Wednesday, August 5; Thursday, August 6; and Friday, August 7.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ａ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。
ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、３）基礎文法、４）文法習熟度確認のための練習問題、５）本文テキスト（朗読と和訳）、６）会話練習、７）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２	単語の発音
第3回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第4回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第6回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第7回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第8回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第9回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第10回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第11回	「（何々）で・によって」、「～（何々）に取り組む」	名詞の造格、ｃｑ動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第12回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第13回	形容詞、関係代名詞	形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication.【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to:Read and write simple Russian.Hold simple conversations in Russian.【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content.【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語Ｂ　2017年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第三外国語として初めてロシア語を学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語のアルファベットとその発音、そして最も基礎的な文法を3か月で学びます。ロシア語の学習は、文法理解の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指します。基礎文法を理解した上で「読む、書く、話す」学習を重ね、日常的な会話ができるようにします。

【到達目標】
簡単なロシア語の文章を理解し、きれいな発音で朗読が出来る。シンプルな文章を書くことができる。コミュニケーションのための日常会話程度のロシア語力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業では、主に以下のポイントの習得に分けて学習を進めていきます。1）文字と発音、2）単語と熟語、３）基礎文法、４）文法習熟度確認のための練習問題、５）本文テキスト（朗読と和訳）、６）会話練習、７）シンプルな和文露訳。これらのポイントを簡潔な初級教科書を用いて学んでいきます。単語や文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。朗読やペアでの会話なども平常点として加算していきます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音１	アルファベットとその発音
第2回	文字と発音２、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第3回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第4回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第5回	「（何々）を」	名詞の対格
第6回	「～しろ」	動詞の命令形
第7回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第8回	「（何々、誰々）の」、「（何々）を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第9回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第10回	「（どこどこ）で」	名詞の前置格
第11回	「～した」、「（誰々）を」	動詞の過去形（性・数変化）、活動体を表す名詞の対格
第12回	「（何々、誰々）へ」、「（何々、誰々）と」	名詞の与格、名詞の造格
第13回	「～する／～しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）
第14回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は1回につき2時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】
中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005年、2,300円＋税

【参考書】
朝妻恵理子・クセーニャ・ゴロウィナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021年、2000円+税
佐藤純一『NHK 新ロシア語入門』NHK出版、2001年
土岐康子・三神エレーナ・佐藤裕子『ティータイムのロシア語《CD付》』白水社、2019年
小田桐奈美・北岡千夏『創って学ぶ！ シン・ロシア語入門』朝日出版社、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、予習復習、課題などの学習への取り組み、単語などのミニテストなど）60％、評価テストが40％の予定ですが、受講者数が少ない場合は平常点のみで評価することもあります。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を提出してもらい、その評価も加味する予定です。一歩一歩確実にロシア語をマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
３か月で新しい語学をマスターすることは難しくもありますが、皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めて参ります。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。
※春学期A／秋学期Bは単独でも履修可能な科目のため初修者歓迎ですが、Aから継続して履修する学生が多い場合、授業内容は履修者の皆さまとご相談させて頂きます。

【Outline (in English)】
【Course outline】Elementary Russian for students learning Russian for the first time as a third foreign language. Students learn the Cyrillic alphabet, pronunciation, and basic grammar in three months, and build skills in reading, writing, and speaking for simple everyday communication.【Learning Objectives】By the end of the course, students will be able to:Read and write simple Russian.Hold simple conversations in Russian.【Learning activities outside of classroom】Students are expected to spend about 2 hours before/after each class reviewing and practicing the lesson content.【Grading Criteria / Policy】Short tests 40%; term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級A

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関するテクストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。会話練習を行なって聞き取り能力及び会話能力を楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ТРКИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテクストや現代文学のテクストの解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の学習	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	学校と大学	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	大学と大学生	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	留学生たち	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	寮の住まい	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	部屋	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	一日の流れ	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	週のスケジュール	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	休暇の過ごし方	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	好きなこと	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	図書館に行く	テクストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	総合復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は合わせて１時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』法政大学　（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
期末テストの範囲及び成績評価の基準を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

第三外国語としてのロシア語中級 B

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続きロシア語の解読と文法中心の授業です。 ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力と共に会話能力も楽しく伸ばしましょう。
ロシア語能力検定試験3級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験(ＴＲＫИ)の 基本レベル (CERF A2) のロシア語運用能力を身につけるべき頑張りましょう。

【到達目標】
授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解読し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は合わせて１時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
学期末試験の範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末(PCやタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】
履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることがあります。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills.This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.
(Learning activities outside of classroom)
The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.
(Grading Criteria /Policy)
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語Ａ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験３級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験の基本レベル (CERF A2) 、ＴＲＫИ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 ＴＲＫИ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。　会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-тем構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1〜12 の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は合わせて１時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時及び学習支援システムにて授業プリントを配布します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＲＫИ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＲＫИ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

実用ロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月4/Mon.4
単位数：2単位
定員制(20)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。
現地留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験　の 基本レベル (CERF A2) 、ＴＰＫＩ-1(CERF B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】
授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語検定試験 ＴＰＫИ A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。 動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援支システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1〜12 の復習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は合わせて１時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、教場で配付もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2018/2019年度版

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト　50％、複数小テスト　30%、宿題　20％

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。
期末テストの範囲を明確にさせます。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムからダウンロードしたPDFプリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】
学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更することがあります。ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.
This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or ＴＰＫИ B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test ＴＰＫИ A2-B1.
（Learning activities outside of classroom）
The standard expectation for combined preparatory and review time is one hour or more.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination 50%, Word tests 30%, Homework 20%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読A

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習(その3)副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する19世紀科学」
7	テキスト講読（その4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より」)、「映画芸術」
9	テキスト講読（その6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その7）歴史	短文「アレクサンドル1世」、「ニコライ2世」
11	テキスト講読（その8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。
授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。
本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading A.
【Course Outline】This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

ロシア語講読Ｂ

2017年度以降入学者

木部　敬

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月2/Mon.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法を修了した学生が対象の授業です。
様々な文章を読んでいくことを通じて、「ロシア語講読A」よりもさらに高度な読解力を培うことを目的とします。
基本的にはロシア語から日本語への訳出を行いますが、複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】
辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読（その1）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第1節）」
2	テキスト講読（その2）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第2節」）
3	テキスト講読（その3）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人（第3節）」
4	テキスト講読（その4）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第1節）」
5	テキスト講読（その5）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第2節）」
6	テキスト講読（その6）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第3節）」
7	テキスト講読（その7）歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生（第4節）」
8	テキスト講読（その8）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第1節）」
9	テキスト講読（その9）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第2節）」
10	テキスト講読（その10）歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者（第3節）」
11	テキスト講読（その11）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第1節）」
12	テキスト講読（その12）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第2節）」
13	テキスト講読（その13）文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』（第3節）」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（訳文提出など）40％、期末試験60％。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】
Russian reading B. Continuation of Russian reading A.
【Course Outline】This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.
【Learning Activities outside of Classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語Ａ

2017年度以降入学者

小澤　裕之

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】
皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	内政①	ロシア語の文章講読
3	内政②	ロシア語の文章講読
4	外交①	ロシア語の文章講読
5	外交②	ロシア語の文章講読
6	軍事①	ロシア語の文章講読
7	軍事②	ロシア語の文章講読
8	司法①	ロシア語の文章講読
9	司法②	ロシア語の文章講読
10	アニメーション①	ロシア語の文章講読
11	アニメーション②	ロシア語の文章講読
12	芸術①	ロシア語の文章講読
13	芸術②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
露和辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】
各回のテーマは、受講生のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade will be based on the following components:
Class participation and coursework: 50%
Final examination: 50%

LANr300LA（ロシア語 / Russian language education 300）

時事ロシア語Ｂ

2017年度以降入学者

小澤　裕之

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ロシア語圏のインターネット記事や雑誌のインタビューなど、「生」のロシア語に触れることで、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実践的に活用するための練習をします。また、関連する映像をお見せすることもあります。ロシア語の講読が初めての受講生も歓迎します。

【到達目標】
皆で精読することで、ロシア語で書かれた時事的な文章をみずからの力で読めるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
ロシア語の時事的な文章を皆で精読していきます。受講生のレベルに応じ、文法事項の詳しい解説をしたり、背景について説明したりします。予習や質問、期末テストへのフィードバックは教室で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	事故①	ロシア語の文章講読
3	事故②	ロシア語の文章講読
4	原発①	ロシア語の文章講読
5	原発②	ロシア語の文章講読
6	環境①	ロシア語の文章講読
7	環境②	ロシア語の文章講読
8	宗教①	ロシア語の文章講読
9	宗教②	ロシア語の文章講読
10	映画①	ロシア語の文章講読
11	映画②	ロシア語の文章講読
12	その他①	ロシア語の文章講読
13	その他②	ロシア語の文章講読
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するテキストを音読し、訳してきてください。目安は1時間半です。なお期末試験では、授業で講読したテキストの文法・語彙の理解度を確認します。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
露和辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験：50％、授業への参加：50％

【学生の意見等からの気づき】
私は今年初めてこの授業を担当しますが、受講生の皆さんが気軽に意見を述べたり質問したりしやすい環境を作るよう心がけます。

【その他の重要事項】
各回のテーマは、受講者のレベルや関心に合わせて変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course offers practice in using the Russian grammar and vocabulary students have learned. We will read current-affairs texts such as online articles and magazine interviews, and sometimes watch related videos. Students who have never read Russian texts before are also welcome.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to help students develop the ability to read current affairs texts on their own through careful, collaborative close reading.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class, students will be expected to read the distributed texts aloud and prepare written translations. The final exam will assess students' understanding of the grammar and vocabulary in the texts read during the course.
【Grading Criteria /Policy】
Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ａ　2017年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。
※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」「中国語の四声」
2	「第１課」「第２課」	「発音１」「発音２」
3	「第３課」「第４課」	「発音３」「発音４」
4	発音の復習	「発音１から４」の復習をする
5	「第５課」「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第７課」「第８課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第９課」「第１０課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	中間試験	第１課～第１０課の内容の定着度チェック
9	「第１１課」「第１２課」	「補語」「動詞述語文１」
10	「第１３課」「第１４課」	「動詞述語文２」「動詞述語文３」
11	「第１５課」「第１６課」	「動詞述語文４」「動詞述語文５」
12	「第１７課」「第１８課」	「動詞述語文６」「動詞述語文７」
13	「第１９課」「第２０課」	「完了態」「変化態」
14	期末試験	第１１課～第２０課の内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。補助問題やｅ宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語Ｂ　2017年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金2/Fri.2
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、１年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って文法・会話文の解説を行い、全員に発言を求めます。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のｅラーニング教材（e宿題）を使用します。
※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを調整する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」「第２２課」	「経験態」「進行態」「持続態」
2	「第２３課」「第２４課」	「形容詞述語文（一)」「形容詞述語文（二)」
3	「第２５課」「第２６課」	「形容詞述語文（三)」「名詞述語文（一)」
4	「第２７課」「第２８課」	「名詞述語文（二)」「名詞述語文(三)」
5	「第２９課」「第３０課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
6	復習課Ⅰ	第２１課～第３０課までの復習
7	中間試験	第２１課～第３０課までの内容の定着度チェック
8	「第３１課」「第３２課」	「程度補語」「数量補語」
9	「第３３課」「第３４課」	「結果補語」「方向補語」
10	「第３５課」「第３６課」	「可能補語」「助動詞」
11	「第３７課」「第３８課」	「兼語文」「受け身表現」
12	「第３９課」「第４０課」	「把構文」「存現文」
13	復習課Ⅱ	第３１課～第４０課までの復習
14	期末試験	第３１課～第４０課までの内容の定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。補助問題やｅ宿題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書)】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や小テスト等）40％、中間試験30％、期末試験30％

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき丁寧な分かりやすい授業を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your final grade will be calculated according to the following process:
Usual performance score 60%, Term-end examination: 40%.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ａ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、文法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。課題等へのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第１課（助動詞、主述述語文の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第１課　（トレーニング１）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第２課（”的”の用法、「原因・理由」の表現、文末助詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第２課（トレーニング２）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第３課（連動文、”是～的”の文、疑問詞）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第３課（トレーニング３）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第１課～第３課の復習	日文中訳・中文日訳の練習。
第8回	第４課（”了”の３つの用法、副詞”就”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第４課（トレーニング４）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第５課（様態補語、推量の表現、「仮定」の表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第５課（トレーニング５）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第１課～第３課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第４課、第５課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
期末試験40％、授業への参加度60％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

第三外国語としての中国語中級Ｂ　2017年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金4/Fri.4
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、引き続き、初級クラスで学修した基礎文法の要点を復習しながら、より実践的な語学力を身に付けつけます。「読む、話す、書く、訳す」技術の向上と、ことばの背景にある中国文化、中国事情の知識を深めることで、発信力と受信力を蓄えてゆきます。

【到達目標】
１．中国語の中級レベルの語彙、その用法を学修し、運用することができる。
２．ことばの背景にある中国文化、中国事情について学び、自国との比較を通じて、正しく日中対訳ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
中国社会を反映した全12課のテキストを使用し、一つの課を複数回に分け、本文の発音練習、訳文練習、会話練習、作文練習、テキスト内の練習問題の解答を行います。
課題等へのフィードバックは授業中またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第６課（結果補語（１）、副詞”有点”の用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第2回	第６課（トレーニング６）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第3回	第７課（存現文、主述句の主語、二つの”了”）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第4回	第７課（トレーニング７）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第5回	第８課（状態の持続を表す“着”、副詞”再”、疑問詞の不定用法）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第6回	第８課（トレーニング８）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第7回	第６課～第８課の復習	日文中訳、中文日訳を中心とした練習
第8回	第９課（方向補語、使役表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第9回	第９課（トレーニング９）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第10回	第10課（可能補語、強調表現）	新出単語、本文音読練習、訳文。
第11回	第10課（トレーニング１０）	文法、構文の解説、作文、会話練習、練習問題の解答。
第12回	総合練習（第６課～第８課）	期末試験に向けた復習と練習。
第13回	総合練習（第９課、第１０課）	期末試験に向けた復習と練習。
第14回	試験・まとめと解説	朗読試験、ヒヤリング・筆記試験およびまとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
事前学修、事後学修は、付属のCDを活用し、発音練習や書き取り練習を繰り返しおこなってください。

【テキスト（教科書）】
『中国語つぎへの一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【参考書】
『中国語さらなる一歩』尹景春・竹島毅　白水社
2200円＋税

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度60％、期末試験40％を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
4群中国語履修者も履修可能ですが、中国語３Ⅰ・Ⅱと同じ教科書となる可能性があるので、履修の際は留意してください。
中国語コミュニケーション基礎Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション初級Ⅰ・Ⅱ／中国語コミュニケーション中級A・B／第三外国語としての中国語A・B／中国語視聴覚中級A・B／中国語作文中級A・B／中国語講読A・B

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This corse is continued from Spring semester.
・To review important point of Chinese grammar.
・Improve reading,speaking,writing,and translating skills.
・Learning Chinese clutures and social changes to enable to express thoughts and opinions in Chinese.
・Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
・Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ａ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。この授業は木曜日2限の中国語視聴覚初級1・Ⅱと同じ教科書を使います。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。
本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第７課	文法理解と応用
3	第７課	会話と応用
4	第７課	読解文の理解と応用
5	第７課	課外練習と作文
6	第８課	文法理解と応用
7	第８課	会話と応用
8	第８課	読解文の理解と応用
9	第８課	課外練習と作文
10	第９課	文法理解と応用
11	第９課	会話と応用
12	第９課	読解文の理解と応用
13	第９課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
This class uses the same textbook as Chinese Audiovisual Beginner Ⅰ and Ⅱ on Thursday 2nd period. Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語視聴覚中級Ｂ

2017年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(25)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。中国語視聴覚初級は1課～6課を勉強します、中国語視聴覚中級は6課～12課を勉強します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【到達目標】
初級で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検３級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
単語を習得し、文法を理解する。
DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。
簡単な中国語作文・会話練習を行う。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第10課	文法理解と応用
3	第10課	会話と応用
4	第10課	読解文の理解と応用
5	第10課	課外練習と作文
6	第11課	文法理解と応用
7	第11課	会話と応用
8	第11課	読解文の理解と応用
9	第11課	課外練習と作文
10	第12課	文法理解と応用
11	第12課	会話と応用
12	第12課	読解文の理解と応用
13	第12課	課外練習と作文
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間（計4時間）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVDで学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、課題30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Beginner Chinese audiovisual students will study lessons 1 to 6, and intermediate Chinese audiovisual students will study lessons 6 to 12.
Final grade will be calculated according to the following
Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each (4 hours in total).

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ａ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。
尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにリライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 春学期の学習を修了した段階で、HSK3級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	第一課	ウォームアップ（1）
3	第二課	ウォームアップ（2）
4	第三課	1. ある・いる 2. お飾りの“很”
5	第四課	1.“☒"がいる時　いらぬ時 2.「行きませんか」は「行きましょう」 3.「何か」「どこか」「だれか」の訳し方
6	第五課	1.「何の映画？」と「なんて映画だ！」 2.「疑問詞＋でも」が隠れていたら疑問詞呼応構文
7	第六課	1. 動詞はどうした？ 2.「サングラスの男」はサングラスをかけている
8	第七課	1. よく現れる“来”と“去” 2.「動目」構造の動詞はとれない目的語
9	第八課	1.「思う」あれこれ 2. 動詞の重ね型
10	第九課	1. 文脈に隠れた代名詞をさがせ 2.“☒么”“那么”がいる　こんな場合あんなとき
11	第十課	1. 中国語では現れる副詞“就” 2.“才”は「やっと」現れる
12	第十一課	1. 例外なしは“都”で 2.「だけ」にあたる“只”の位置 3.「も」にあたる“也”の位置
13	第十二課	1.「また」もう一度“再”“又”“☒” 2. ちょっと待て“再”の出番はこれからだ
14	総括・試験	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
・本授業における準備学習および復習の時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年　ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点を50％（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50％とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions.
In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語作文中級Ｂ

2017年度以降入学者

楊　心苗

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木3/Thu.3
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、中国語作文に必要な知識とスキルを習得するための授業である。初級の文法知識を復習しつつ、短文を作る練習から始まり、作文を行うために必要なステップを学ぶ。また、モデルとなる中国語のテキストを分析し、模倣や書き換え練習を通して、わかりやすい短文の書き方、フィードバックの与え方などを習得する。
尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
1. 興味・関心のある話題について、正確かつ自然な中国語表現を用いて、自分の考えを簡単な文章としてまとめることができる。
2. 受講生同士で、作文に対するフィードバックを行うことができる。
3. 教員が添削した作文をもとにリライティングを行い、よりよい文章を作成する能力を身につける。
4. 秋学期の学習を修了した段階で、HSK4級のライティングに合格できるレベルの能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
・本授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
・指定テキストを用い、練習問題や作文に取り組むとともに、受講生同士でフィードバックを行い、発表する機会も設ける。
・教員は、作文の添削および質問への回答を準備し、授業内で返却・回答することで、随時フィードバックを行う。
なお、以下の授業計画は暫定的なものである。受講人数や受講者のニーズに応じて、進捗のペースや実施順を調整する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第十三課	1.「…から」が“从”にならぬとき 2.「…まで」を“到”に訳さないとき 3. 動詞のあとにくる“到…”
2	第十四課	1.「XはYだ」はいつも“X是Y”とは限らない 2. “是……的”構文
3	第十五課	1.「で」「に」「から」「と」「まで」などは中国語では介詞です。 2. 介詞フレーズを含む文の否定 3.「…について」
4	第十六課	1.「ちょっと・少し」の表し方 2.「安くする」手立て
5	第十七課	1.でしゃばり量詞 2. 数量は動詞・形容詞の後ろ
6	第十八課	1. 形容詞　昨日のとこでも“了”はいらぬ 2.「…ている・ていた」なのに“了”をつける
7	第十九課	1. 中国語　動詞があってこその補語 2. 補語は大事だ　保護すべし
8	第二十課	1. “要”が要るとき 2.「起こりそう」なら“会”を添え 3.「…できる」にあたる“能”“会”“可以”
9	第二十一課	1. おのずから　なるも原因あり“被”構文 2.「東京で開かれる」は“在☒京☒行” 3. 受け身がだめなら　能動文
10	第二十二課	1. こんなときは“把”構文を 2. “把”構文
11	第二十三課	1. やりもらい　だれがいい目を　みるのやら 2. ときに「目的」はあとから 3.「まもなく…する、もうすぐ…する」
12	第二十四課	1. 中国語で出現する“人” 2. 道具・手段や原因を表す「で」 3. 否定と肯定　入れかえてみる 4. 逆転の発想
13	第十三課～第二十四課	総括
14	期末テスト	第十三課～第二十四課　試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・宿題の練習問題や作文を用いて授業を進める場合があるため、宿題には必ず事前に取り組むこと（宿題を行っていない場合、授業への参加が困難になる）。
・本授業における準備学習および復習の時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
相原茂『作文ルール66』（朝日出版社）2025年　ISBN 978-4-255-45138-1

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点を50％（授業への積極的な参加、作文、フィードバックなど）、期末課題を50％とし、合計100点満点で評価する。
本成績評価方法に基づき、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】
・本授業は、中国語の文法知識を有していること（中国語学習歴が最低1年以上あること）を前提として行う。
・事前学習は必須とし、事前学習を行っていることを前提に授業を進める。
・本授業では、全回出席を評価の前提とする。原則として欠席は認めない。ただし、教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書の提出など、各自で適切な対応を取ること。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students acquire the knowledge and skills necessary for writing in Chinese. While reviewing basic grammatical knowledge, students will begin with practice in composing short sentences and learn the steps required for producing written compositions.
In addition, students will analyze model Chinese texts and, through imitation and rewriting exercises, develop skills in writing clear and comprehensible short texts as well as in giving feedback.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ａ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、発音を綺麗にする。
３、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。
また毎回発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（１）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（１）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（２）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（１） 授業内発表（２）	副詞と時間詞につい勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（２）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（３）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（３）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ及び期末テスト	文法のまとめ、と会話の口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.
We should talk by accurate pronunciation.
We should talk daily conversation well.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語コミュニケーション中級Ｂ　2017年度以降入学者

周　重雷

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。
中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】
１、文法をきちんと把握する。
２、作文能力を高める。
３、日常会話をできるようにする。
４、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。
また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（１）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（１）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的用法 会話（２）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（２）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（３）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（３）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（１）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（２）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員によるプリント配布

【参考書】
必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績（60％）と発表（40％）で評価される。
term-end test:60%
presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】
自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
HSKや中国語検定の受験も推奨される。
留学生の受講も歓迎される。

【Outline (in English)】
This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.
We should prepare and review about two hours a week.
Term-end test:60%
Presentation:40%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｃ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期はHSK3級～4級レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その１）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習(その２）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その１）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その２）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その１）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その２）	“往”“朝”“向”“対于”“対”“通過”“按照”“关于”など）
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第12回	特殊構文（その１）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その２）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０%＋中間テスト（３０%）＋期末テスト（３０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語翻訳･通訳Ｄ

2017年度以降入学者

王　安

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初級を修了した学習者を対象に、HSK3級～5級（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期ではＨＳＫ4級～５級レベル（中国語検定試験3～２級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】
１、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
２、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
３、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回３、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。
課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第2回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第3回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第4回	特殊構文（その１）	使役文と受け身文
第5回	特殊構文（その２）	“是・・・的”構文
第6回	特殊構文（その３）	“把”構文
第7回	特殊構文（その４）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿… 都 ”など
第8回	これまでの復習	総合復習（１）、中間テスト
第9回	中国語の補語（その１）	結果補語と方向補語
第10回	中国語の補語（その２）	可能補語、数量補語
第11回	中国語の補語（その３）	数量補語、様態補語
第12回	中国語の複文（その１）	並列関係、累加関係、選択関係
第13回	中国語の複文（その２）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で資料を配布する。

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題）４０%＋中間テスト（３０%）＋期末テスト（３０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明が詳しく、分かりやすい点に加え、学生同士がコミュニケーションを取り、議論できる点が評価されています。今後も、これらの点をさらに工夫していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
１日中中日辞書を用意してください。
２授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
３、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】
Outline:
This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.
Objectives
1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.
Grading method:
assignment（40%） + mid-term test (30%) + final test (30%)
Work to be done outside of class (preparation:
The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読Ａ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK３、４級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】
中国語の文章購読を通して、HSK３，４級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。レベルチェック
2	HSK３，４級閲読練習問題①	HSK３，４級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK３，４級閲読練習問題②	HSK３，４級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK３，４級閲読練習問題③	HSK３，４級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK３，４級閲読練習問題④	HSK３，４級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK３，４級閲読練習問題⑤	HSK３，４級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK３，４級閲読練習問題⑥	HSK３，４級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK３，４級閲読練習問題⑦	HSK３，４級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK３，４級閲読練習問題⑧	HSK３，４級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK３，４級閲読練習問題⑨	HSK３，４級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK３，４級閲読練習問題⑩	HSK３，４級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK３，４級閲読練習問題⑪	HSK３，４級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	HSK３，４級閲読練習問題⑫	HSK３，４級レベルの閲読練習⑫の翻訳と解説
14	総まとめ	まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度　50％
宿題・確認テスト　50％

【学生の意見等からの気づき】
いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】
This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 3 and 4 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

中国語講読Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水3/Wed.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）を通し、中国語の文章を読む力を高めるための授業です。春学期はHSK５、６級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。

【到達目標】
中国語の文章購読を通して、HSK５，６級レベルの読解力を高めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。レベルチェック
2	HSK５，６級閲読練習問題①	HSK５，６級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK５，６級閲読練習問題②	HSK５，６級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK５，６級閲読練習問題③	HSK５，６級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK５，６級閲読練習問題④	HSK５，６級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK５，６級閲読練習問題⑤	HSK５，６級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK５，６級閲読練習問題⑥	HSK５，６級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK５，６級閲読練習問題⑦	HSK５，６級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK５，６級閲読練習問題⑧	HSK５，６級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK５，６級閲読練習問題⑨	HSK５，６級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK５，６級閲読練習問題⑩	HSK５，６級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK５，６級閲読練習問題⑪	HSK５，６級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	HSK５，６級閲読練習問題⑫	HSK５，６級レベルの閲読練習⑫の翻訳と解説
14	総まとめ	まとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度　50％
宿題・確認テスト　50％

【学生の意見等からの気づき】
いっしょに楽しく中国語を読みましょう！

【Outline (in English)】
This class aims to improve students' ability to read Chinese texts through reading comprehension questions from the Chinese government-approved Chinese proficiency test, "HSK (Hanyu Shui Quao Shi)." In the spring semester, we will focus on reading comprehension questions at the HSK Level 5 and 6 level. We will begin by slowly reading short passages, prioritizing understanding vocabulary and grammar.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語中級Ａ

2017年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
（2）過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方・方法】
授業は、自宅でのｅラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約20分］
②リスニング問題の解説［約50分］
③各種練習問題を通じたトレーニング［約30分］
【各種フィードバック方法】
教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第三部分（21-25）の解説と練習問題
7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分（41-50）及び第二部分（51-55）の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分（56-60）及び第三部分（61-70）の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題（71-80）の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100％評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はｅラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3.　To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.

・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading criteria】
The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語中級Ｂ

2017年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火2/Tue.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
(2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方・方法】
授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。
■授業前の事前学習
・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK4級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。
■授業の進め方と方法
①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）［約20分］
②リスニング問題の解説［約50分］
③各種練習問題を通じたトレーニング［約30分］
【各種フィードバック方法】
教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と練習問題
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と練習問題
4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と練習問題
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と練習問題
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と練習問題
7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と練習問題
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と練習問題
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と練習問題
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と練習問題
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に以下の事前学習を行うこと。
・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100％評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
PCまたはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】
・授業に関する情報は、全て学習支援システムを通じて連絡するため、随時確認すること。
・予習（詳細は授業時に説明）していることを前提に授業を進める。
・HSK合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】
【Outline】
The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4.　To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.
(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】
The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ａ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)
その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の5級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル5に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK5級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK5級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK5級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK5級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK5級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK5級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK5級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK5級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK5級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
11	HSK5級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
12	HSK5級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
13	HSK5級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の添削及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 50%
宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 5.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 5.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANc300LA（中国語 / Chinese language education 300）

資格中国語上級Ｂ

2017年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火3/Tue.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は今まで習得した中国語の基礎を生かし、聞く、話す、読む、書く力の向上を図ります。そして、HSK（漢語水平考試）の6級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とします。

【到達目標】
過去問題や模擬問題を解くことで、HSKレベル6に合格するために必要な力、文法力、語彙力、作文力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回プリントを配布し、過去問題や模擬問題の一部を課題とします。授業前に解いてもらい、授業中答え合わせした上で、受講生の疑問点をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。受講生の出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要 HSK概要 レベルチェック
2	HSK6級の聴解対策①	聴解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
3	HSK6級の聴解対策②	聴解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
4	HSK6級の聴解対策③	聴解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
5	HSK6級の聴解対策④	聴解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
6	HSK6級の読解対策①	読解の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
7	HSK6級の読解対策②	読解の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
8	HSK6級の読解対策③	読解の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
9	HSK6級の読解対策④	読解の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
10	HSK6級の作文対策①	作文の一回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
11	HSK6級の作文対策②	作文の二回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
12	HSK6級の作文対策③	作文の三回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
13	HSK6級の作文対策④	作文の四回目 宿題（過去問題や模擬問題）の答え合わせ及び解説
14	総まとめ	まとめ 質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
学習態度 50%
宿題と課題 50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will utilize the basic Chinese you have learned so far to improve your listening, speaking, reading and writing skills, and aim to develop Chinese language skills to the level of passing the HSK (Chinese Language Qualification Examination) Level 6.
【Learning Objectives】
By solving past exam questions and mock tests, acquire the listening, grammar, vocabulary, and writing skills necessary to pass HSK Level 6.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and learning attitude 40%
Homework completion 40%
Final exam 20%

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ａ　2017年度以降入学者

ＣＡＲＭＥＮ　ＧＡＲＣＩＡ

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】
スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面式です。
授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。
積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
	第１課	アルファベット、
2	第１課	発音、数字、クラスで使う表現、挨拶
3	第２課	主語になる人称代名詞、国籍を表すの性と数
4	第２課	職業を表す語、疑問詞１、指示詞１、個人情報
5	第３課	定冠詞と不定冠詞,所有詞,形容詞
6	第３課	動詞serと存在、位置を表すestar, スペインの都市
7	小テスト 第４課	数字（11-30), 時間
8	第４課	動詞の現在形、疑問詞２
9	第４課	曜日、 スペインの若者の生活
10	第５課	指示詞２,所有形容詞,数字(30-100),
11	第５課	動詞tener、人の記述、家族の紹介
12	第６課	hayとestarの用法、動詞ir, 月と季節
13	第６課	ir a+不定詞、querer+不定詞、tener que+不定詞、理由と目的、旅のプラン
14	期末試験、ふりかえり	春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。
予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。
復習について、
○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。
○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。
○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。
○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】
フアン・カルロス・モヤノ・ロペス /カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ /廣康好美「いいね！ スペイン語１コンパクト版」朝日出版社、2023年

【参考書】
高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和西辞典』小学館
「西和中辞典」（小学館）「現代 語辞典」（白水社）
プログレッシブ　スペイン語辞典〈第２版〉カレッジエディション 小学館
松本 詢子、アィシア サン マテオ バルデイタ 「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０%）、試験（６０%）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】
自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写したとみられるものは評価対象外とする。
フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】
This class for beginners of Spanish teaches fundamental grammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner. The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria: 60% exams, 40%in-class contribution.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

第三外国語としてのスペイン語Ｂ　2017年度以降入学者

ＣＡＲＭＥＮ　ＧＡＲＣＩＡ

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：水4/Wed.4
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎的知識を身につけ、自己紹介や、自分の生活について話すなどの単純な会話ができるようになることを目標とする。授業を通して、スペイン語の学習がスペイン語圏の人々の理解と、文化的な多様性の認識につながることに気づくことが重要である。

【到達目標】
スペイン語初心者のためのクラスで、基礎文法、語彙、表現を、ペアやグループでコミュニケーションするアクティビティを通じて学んでいく。スペイン語に慣れ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能をバランス良く身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
授業は対面式です。
授業中、教師が文法のポイントを説明し、生徒は対応する演習を、オーディオ活動やペアワークを交えながら行います。
積極的な授業への参加姿勢、教科書と辞書の必携。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第７課	前置詞を伴う人称代名詞、動詞gustar
3	第７課	動詞+形容詞、好み
4	第８課	不規則活用する動詞１、直接目的人称代名詞、数字１
4	第８課	色、不定語、買い物
5	第９課	不規則活用する動詞２、直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞
6	第９課	動詞saberとpoder、動詞ser/ estar、レストラン、バル、カフェテリアで
7	小テスト	秋学期前半の学習事項に関する試験とふりかえり,
8	第１０課	代名動詞
9	第１０課	天気、日常生活、祭り行事
10	第１１課	動詞estar+形容詞（体調や気分、動詞tener+名詞（感覚）
11	第１１課	動詞doler、形容詞、動詞、名詞の修飾語、接続詞、アドバイス、健康的な生活
12	第１２課	過去の時表す表現、動詞ir点過去、
13	第１２課	点過去規則活用、旅行、今年度の出来事
14	期末試験 ふりかえり	秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。
予習が必要な場合は、授業中に指示する。予習の指示がない場合は、次の授業で扱う内容にざっと目を通しておく。
復習について、
○ 新たに学んだ文法事項など授業で扱った内容が完全に理解できたかを確認する。理解できていない内容がある場合は、次の授業で質問できるようにメモをしておく。
○ 新出、既習にかかわらず覚えていない語彙や表現の使い方を再確認し、すべて暗記する。
○ 授業で扱ったオーディオを教科書を見ないでも理解できるよう復習する。
○ その他教員が指示した学習を行う。

【テキスト（教科書）】
フアン・カルロス・モヤノ・ロペス/カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ/廣康好美「いいね！　スペイン語１コンパット版」朝日出版社、2023年

【参考書】
高垣敏博編『ポケットプログレッシブ西和和西辞典』小学館
「西和中辞典」（小学館）「現代語辞典」（白水社）
プログレッシブ　スペイン語辞典〈第２版〉カレッジエディション小学館
松本 詢子、アィシア サン マテオ バルデイタ 「ボカブラリオ：アクティビティで身につくスペイン語基本語彙」三修社、2026年

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０%）、試験（６０%）から総合的に評価

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（LMS）を使用して、資料の配布や課題の提出を行う場合があります。

【その他の重要事項】
自動翻訳機や生成AIの使用は厳禁です。機械翻訳などを使用し、丸写したとみられるものは評価対象外とする。
フィードバックは授業中に行われます。

【Outline (in English)】
This class for beginners of Spanish teaches fundamentalgrammar, vocabulary, and expressions through activities involving communication in pairs and groups. Students become familiar with Spanish and develop the four skills of listening, speaking, reading, and writing in a balanced manner.
The aim is to acquire basic knowledge of Spanish and become capable of simple conversations, such as introducing oneself and discussing one's life. It is important that students realise, through the course, that learning Spanish leads to an understanding of Spanish-speaking people and an awareness of cultural diversity.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria: 60% exams, 40%in-class contribution.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級Ａ

2017年度以降入学者

大西　亮

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＳＡスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】
DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。
①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭で行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション （時事問題）	教員によるモデル授業。
3	講読2 ディスカッション （スポーツ）	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読3 ディスカッション （映画）	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション （音楽）	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション （食文化）	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション （時事問題）	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読７ ディスカッション （ファッション）	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読8 ディスカッション （習慣）	直説法線過去形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション （文学）	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション （テクノロジー）	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション （移民）	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション （世界遺産）	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション （自由テーマ）	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指示する。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表内容50％、ディスカッションへの参加姿勢25％、他の学生の発表の際の参加姿勢25％を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語上級Ｂ

2017年度以降入学者

大西　亮

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：月3/Mon.3
単位数：2単位
定員制(40)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＳＡスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。受講生は、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化を理解することができるようになることが期待される。あわせて、時間の許すかぎり、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】
DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。
①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
②スペイン語による簡単なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読1 ディスカッション （時事問題）	教員による授業。 テーマに関するディスカッション。
3	講読2 ディスカッション （スポーツ）	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読3 ディスカッション （映画）	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読4 ディスカッション （音楽）	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読5 ディスカッション （食文化）	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読6 ディスカッション （時事問題）	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読７ ディスカッション （ファッション）	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読8 ディスカッション （習慣）	接続法現在形を用いた文章の読解。
10	講読9 ディスカッション （文学）	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読10 ディスカッション （自由テーマ）	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読11 ディスカッション （時事問題）	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読12 ディスカッション （世界遺産）	願望文を用いた文章の読解。
14	講読13 ディスカッション （自由テーマ）	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された教材を当日までに徹底的に読みこむ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指示する。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
発表内容50％、ディスカッションへの参加姿勢25％、他の学生の発表の際の参加姿勢25％を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生による主体的な参加を促しながら授業を進めます。

【Outline (in English)】
This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.
The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級A

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring ｜ 曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。
すべての授業は対面形式で行われます。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介 花見	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	女性の15歳の誕生日のお祝い	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	日本の成人式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペイン語圏ののホラー物語	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	La llorona: 物語、音楽、映画	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	映画：ラ・ヨローナ	映画I
7	映画：ラ・ヨローナ	映画II リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペイン語圏の大統領　I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
9	スペイン語圏の大統領II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペイン語圏のダンスI	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペイン語圏のダンスII	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	ファシオン	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	古着	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又, 授業での態度や積極的な参加度など → 60％
2. 期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude, and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%
To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語コミュニケーション中級B

2017年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、スペイン語圏の文化や習慣を学びながら、語彙や表現を豊かにする練習を行います。毎回、モデル文章のリスニング、語彙の解説、ディクテーション、発音練習を行います。

【到達目標】
スペイン語圏の文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化し、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
毎回最初に仲間同士で１０個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習などを行う。
本授業には課題や小テストがあり。期末試験として「日本のクリスマスとお正月」についてスペイン語でレポートを提出してもらう。さらにその内容に関してのスペイン語での口頭試験もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	REFRANES Y EXPRESIONES MÁS USADO DEL MUNDO HISPANO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	LOS GEOGLIFOS DE NAZCA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	EL CAMINO DE SANTIAGO I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	EL CAMINO DE SANTIAGO II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	LA COCA NO ES COCAINA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	EL MAIZ I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	EL MAIZ II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習 小テスト
9	LA PAPA	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	EL CHUÑO	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	EL CUY	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	LA COMIDA PERUANA I	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	LA COMIDA PERUANA II	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	期末のレポートと口頭試験	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業の予習があらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えること仲間との練習で使う１０個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通してくることが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
辞書 (電子辞書可)/Shogakukan DICCIONARIO ESPAÑOL - JAPONÉS

【成績評価の方法と基準】
1.授業内で指された時の返事に基づく点数。小テスト、又, 授業での態度や積極的な参加度など → 60％
2.期末のレポートと口頭試験に基づく点数　→　40％

【学生の意見等からの気づき】
対面授業になるので、口頭試験を行うことにした。

【Outline (in English)】
In this course, you will learn about the culture and customs of Spanish-speaking countries while simultaneously practicing and enriching your vocabulary. Each lesson will include the following activities: listening to a model text, reading the text individually and then in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
The goal is to learn about the cultural practices of the Spanish-speaking world while strengthening Spanish vocabulary and developing expressive abilities.
Each session begins with an exercise consisting of 5 to 10 questions in Spanish with classmates, followed by a review of the previous lesson.
Activities include listening to a model text, reading it individually and in pairs, vocabulary explanation, pronunciation practice, and dictation.
For each session, students will be assigned homework consisting of 5 to 10 questions to discuss with classmates during the following session. At the end of the semester, students will write a report in Spanish on "The Japanese Coming of Age Ceremony" and deliver an oral presentation. During the presentation, they will answer questions in Spanish about the content.
Grading Criteria:
Class performance, including answers to in-class questions, assignments, attitude,midterm exam,and active participation → 60%
Reports and oral exam at the end of the term → 40%

To prepare for each lesson, students are expected to memorize the new vocabulary provided in the weekly PDF and practice answering the 5 to 10 questions. The standard preparation and review time for this class is four hours per week.
As this is a communication-focused course, students will primarily work in pairs or groups.

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。春学期は詩を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の詩に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	ルベン・ダリーオとモデルニスモ	ルベン・ダリーオとその詩およびモデルニスモについて学ぶ。
3	「98年世代」の詩人たち	「98年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
4	「14年世代」から「27年世代」へ	「14年世代」と「27年世代」の詩人たちとその詩について学ぶ。
5	スペイン内戦、抵抗、亡命	スペイン内戦期の詩について学ぶ。
6	フェデリーコ・ガルシア・ロルカ	フェデリーコ・ガルシア・ロルカとその詩について学ぶ。
7	フランコ体制下の詩	フランコ体制下の詩について学ぶ。
8	ポスト・フランコ期の詩	ポスト・フランコ期の詩について学ぶ。
9	パブロ・ネルーダ	パブロ・ネルーダとその詩について学ぶ。
10	ニカノール・パラ	ニカノール・パラとその詩について学ぶ。
11	レイナルド・アレーナスとキューバ革命	レイナルド・アレーナスとその詩およびキューバ革命について学ぶ。
12	ロケ・ダルトンと中米の動乱	ロケ・ダルトンとその詩および中米の動乱について学ぶ。
13	ホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとその詩論について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

ARSa300LA（地域研究（ヨーロッパ）/ Area studies(Europe) 300）

教養ゼミII

2017年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木2/Thu.2
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生を対象として（※後述の【その他の重要事項】の欄を参照のこと）、講読・講義・ゼミ形式でスペイン語圏の詩と歌（歌詞）について学ぶ。秋学期は歌（歌詞）を講読対象とし、主に20世紀の作品を時代順・地域毎に取り上げていく。また、それぞれの作品と同時代に記された批評や現代の研究文献を併読することで、作品の背景にある歴史・社会・文化について考えていく。

【到達目標】
(1) スペイン語圏の歌に関する基本的な理解を得る。
(2) 作品の背景にある歴史・社会・文化に対する理解と関心を深める。
(3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】
スペイン語テクストの講読、教員による講義、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	国歌と「国民的」歌謡曲	スペイン語圏の国歌と「国民的」とされる歌謡曲について学ぶ。
3	カンテ・フラメンコとその系譜	カンテ・フラメンコとその系譜について学ぶ。
4	「ラテン」音楽の諸相	ラテン音楽と総称される音楽ジャンルの多様性について学ぶ。
5	タンゴとタンゴ・オペリータ	タンゴとタンゴ・オペリータについて学ぶ。
6	ビオレータ・パラ	ビオレータ・パラとその歌について学ぶ。
7	ビクトル・ハラ	ビクトル・ハラとその歌について学ぶ。
8	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国	プエルトリコ、キューバ、パナマと米国の関係について楽曲とその歌詞から学ぶ。
9	ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ	映画『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』とその楽曲について学ぶ。
10	ヒスパニック社会とサルサ	米国のヒスパニック社会とサルサについて学ぶ。
11	ウィリー・コロン	ウィリー・コロンとその歌について学ぶ。
12	ルベン・ブラーデス	ルベン・ブラーデスとその歌について学ぶ。
13	カバー曲における翻訳と翻案	カバー曲における翻訳と翻案について学ぶ。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、各回で扱う予定のテクストを読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直しておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点：100％。

【学生の意見等からの気づき】
各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
- この授業ではスペイン語テクストの読解を行うため、原則としてスペイン語の初級文法を修得済みの学生（１年次必修クラスを履修済みの学生）を対象とする。ただし、スペイン語圏の詩や歌に強い関心を持つ学生であればこの限りではなく、初回授業時または事前に担当教員へ相談を寄せていただきたい。
- 履修希望者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が定員を超過した場合は初回授業で選抜を行うこととし、その旨を初回授業の前日のうちに同システムで通知する。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is designed to provide the students with an opportunity to view the Spanish and Latin American histories, societies and cultures, through reading poetry and song lyrics written in Spanish, lecture and discussion about them.
《Learning Objectives》
Students will gain the basic knowledge of poetry and song lyrics in the Spanish-speaking world and its histories, societies and cultures, and the ability of express own ideas accurately in discussion.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (100%).

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読Ａ

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法（学期終了までに、およそ接続法現在まで）の理解を深めながら、辞書を引きつつ短い読み物を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれた短い読み物を、語彙、文法、表現等に注目しながら読み解いていく。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	1課　文法復習	教科書第1課の文法復習（直説法現在形、serとestar、estarとhay、現在分詞など）
3	2課　文法復習	教科書第2課の文法復習（再帰動詞など）
4	2課　読解	教科書第2課の本文読解
5	3課　文法復習	教科書第3課の文法復習（直説法現在完了、直説法点過去など）
6	4課　文法復習	教科書第4課の文法復習（直説法線過去など）
7	4課　読解	教科書第4課の本文読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	5課　文法復習	教科書第5課の文法復習（直説法過去完了、受身表現など）
10	6課　文法復習	教科書第6課の文法復習（直説法未来、直説法過去未来など）
11	6課　読解	教科書第6課の本文読解
12	7課　文法復習	教科書第7課の文法復習（関係詞など）
13	8課　文法復習 8課　読解	教科書第8課の文法復習（接続法現在など） 教科書第8課の本文読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
二宮哲『一歩進んだスペイン語-中級スペイン語-』同学社、2016年、ISBN: 978-4-8102-0430-8

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。
文法をしっかりと復習しながら読解を進めるので、既習文法の理解に自信が無い場合も心配しないでほしい。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read short stories in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures and history
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs300LA（スペイン語 / Spanish language education 300）

スペイン語講読Ｂ

2017年度以降入学者

若林　大我

開講時期：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金3/Fri.3
単位数：2単位
定員制(30)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】
初級・中級文法の理解を深めながら、スペイン語で書かれたある程度の長さの映画脚本を読解できるようになる。またこれを通じ、スペイン語圏の文化に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】
教員による補足説明を踏まえながら、現代スペイン映画の巨匠ペドロ・アルモドバル（Pedro Almodóvar）監督の代表作の一つである『オール・アバウト・マイ・マザー』（原題: Todo sobre mi madre、1999年）のスペイン語脚本を、一学期間をかけて丁寧に読み解いていく。
問題の箇所が日本語の字幕ではどのように表現されているかを適宜確認しながら、翻訳という営みの奥深さにも触れていく。
現代劇なので崩れた言い回しや俗語等が多用されているが、それらを通じて生きた現代スペイン語に親しむ。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	シーン0～11	シーン0から11までの読解
3	シーン12～23	シーン12から23までの読解
4	シーン24～35	シーン24から35までの読解
5	シーン36～47	シーン36から47までの読解
6	シーン48～59	シーン48から59までの読解
7	シーン60～71	シーン60から71までの読解
8	中間テスト	今学期の中間テストを実施
9	シーン72～83	シーン72から83までの読解
10	シーン84～95	シーン84から95までの読解
11	シーン96～107	シーン96から107までの読解
12	シーン108～119	シーン108から119までの読解
13	シーン120～122	シーン120から最後までの読解
14	試験・まとめと解説	今学期の期末テストを実施 まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回読解する箇所の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点30％、中間テスト30％、期末テスト40％として総合的に評価する。
なお授業への出席は単位修得の前提条件であることから、学期中の出席が3分の2に満たない場合は、一律単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】
1学期間でテキスト全体を読み通すことを無理に目指さず、履修生の理解度を確認しつつ進める。

【その他の重要事項】
春学期開講の「スペイン語講読A」において学習した内容を踏まえて授業を進めることも多いため、同科目と合わせての履修を推奨する。

【Outline (in English)】
In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading a movie script written in Spanish.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Read long conversation texts in Spanish
- Have interest in Hispanic cultures
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

法政大学
HOSEI University